

平成 1 5 年 度

研 究 集 録

－川越市教育委員会委嘱研究－

川 越 市 教 育 委 員 会

あ い さ つ

川 越 市 教 育 委 員 会
教 育 長 星 野 明 徳

平成15年度における川越市教育委員会委嘱の各研究が、大きな成果を上げ、ここに「研究集録」として刊行されることになりました。本年度の委嘱学校研究として、11校がそれぞれ教育課程、生徒指導、人権教育、総合的な学習の時間、算数をはじめとする各教科等を対象とした研究に真摯に取り組まれました。各学校の研究への熱意や努力に対して心から敬意と謝意を表すものであります。

さて、市内各学校では、学力向上へ向けた基礎・基本の徹底、個に応じた指導内容・指導方法の工夫改善へ向けた、少人数指導及びT T指導の在り方や評価内容・評価方法、さらには体験を重視した作業的・体験的な学習について研究を進めていただいております。

そのような中で、本年度の委嘱学校研究では、新教育課程の趣旨に基づいて、少人数指導、生徒指導、教科等における基礎・基本の徹底、総合的な学習の時間等についての研究に取り組んでいただきました。特に学校研究委嘱校のうち2年次を迎えた小学校5校のうち4校については、今日的な課題をテーマとして、各校の特色を生かした実践の成果について発表をいただき、市内各学校へ多くの示唆を与えていただきました。

本年度委嘱学校研究に取り組んでこられた8校の小学校と3校の中学校のご協力をいただき、各校の研究の成果や課題の概要について、このような研究集録にまとめることができましたことに感謝申し上げます。

各学校では、新教育課程がスムーズに実施されているものと考えておりますが、ここに紹介された学校研究の成果を、平成16年度の自校の指導計画の見直しや実践に有効に生かしていただきたいと願っております。

おわりに、委嘱研究に携わってこられた各学校及び関係の先生方のご努力と、ご指導いただいた各位のご尽力に対し厚くお礼申し上げ、あいさつといたします。

目 次

《 学校名 》	《 研究主題 》	《ページ》
【2年次】		
川越第一小	豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成 ー豊かな体験や人とのふれあいをとおしてー	1
川 越 小	自分の力で歩いていける児童の育成 ー指導方法の工夫と改善（算数科の指導を通して）ー	7
月 越 小	評価を生かした少人数指導の実践的研究	1 3
今 成 小	自ら考え、すすんで学習する児童の育成 ー問題解決能力の育成を中心にしてー	1 9
霞ヶ関北小	自ら学ぶ力を育てる教育課程の研究 ー確かな学びを育む学習指導を通してー	2 5
【1年次】		
泉 小	一人一人の学びを大切にする算数科指導	3 1
寺 尾 小	学力の基礎基本となる力を身に付けるための指導法の研究 ー一人一人がわかる喜びを味わえる授業をめざしてー	3 7
霞ヶ関南小	「わかった！」喜びと学びがいのある算数学習 ー少人数指導による指導法の工夫・改善を通してー	4 3
東 中	自ら学び考え、主体的に取り組む生徒の育成 ー生徒一人一人の意欲を引き出す指導の研究を通してー	4 9
大 東 中	小・中連携による生徒指導の在り方 ー彩の国スクーリング・ジョイント事業の実践・不登校生徒数0を目指してー	5 5
霞ヶ関西中	基礎・基本の定着と学習意欲の向上を目指す学習指導	6 1

「豊かな心を持ちたくましく生きる子どもの育成」

～豊かな体験や人とのふれあいをととして～

川越市立川越第一小学校

研究のポイント

- 地域の歴史的・文化的環境や人的環境を最大限に生かし、豊かな体験や人とのふれあいを学習活動として体系的に組織し、子どもたちの実態に応じて計画的に実践する。
- 人権教育の目標をしっかりと捉え達成するために、以下の3点を中心に実践する。
 - ・学級経営の充実
 - ・学習指導の充実
 - ・教育環境の整備・充実

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

本校は、川越市内でも中心部に位置し、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等に体験的学習を行うにはたいへん恵まれた環境にある。本校130余年の伝統の中で地域住民からも多くの信頼を寄せられてきている。

そうした地域の歴史的・文化的環境や人的環境を最大限に生かし、豊かな体験や人とのふれあいを学習活動として体系的に組織する中で、教育目標「四つのだいじ」の具現化と研究主題である「豊かな心を持ちたくましく生きる子どもの育成」の達成をめざしていく。

(2) 研究主題設定理由

①今日的課題より

- ・平成6年（1994年）12月「人権教育のための国連10年」（国連）
- ・平成12年（2000年）12月「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」（国）
- ・平成14年（2002年）3月「人権教育・啓発に関する基本計画」（国）
- ・平成14年（2002年）3月「埼玉県人権施策推進指針」（県）

②学校教育目標「四つのだいじ」より

③児童の実態より（平成15年2月、児童の人権意識に関する実態調査実施）

- ・友人との直接的なトラブルは学年が上がるにつれ減少していくが、傍観者的な態度の児童が増加していく。
- ・高齢者、障害がある人々、外国人との日常的な交流経験が少ない。

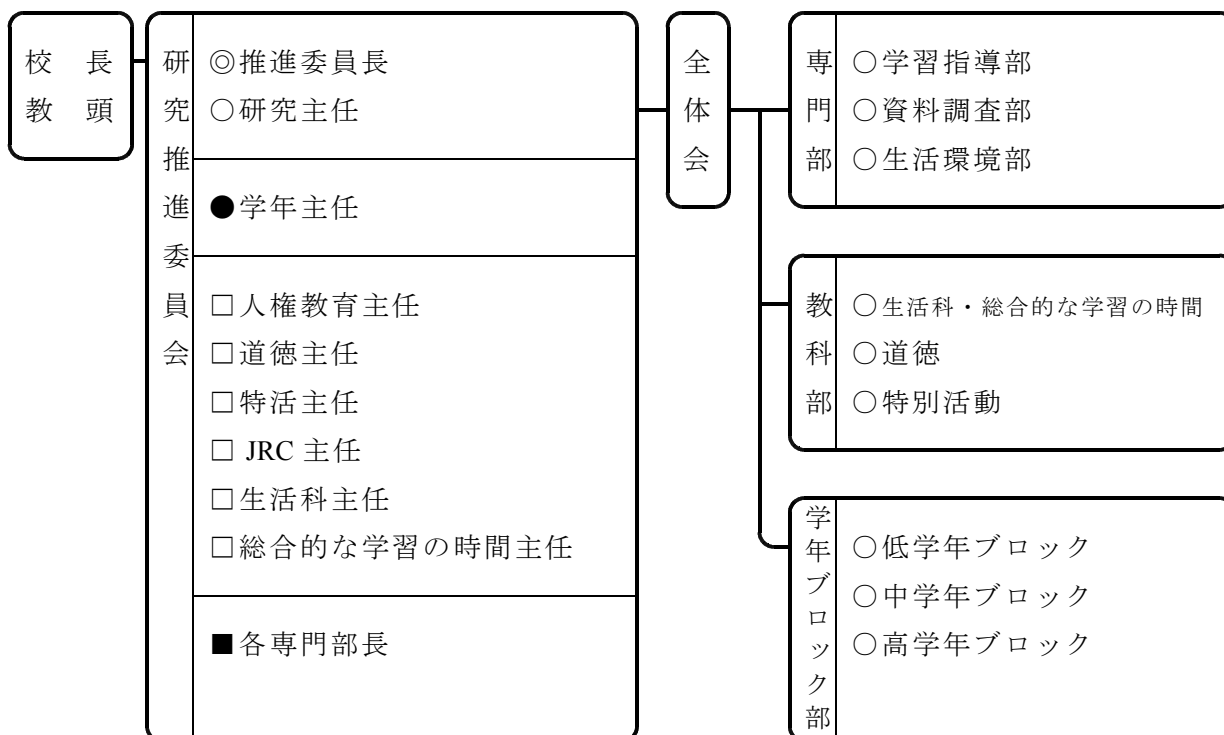
④保護者の願いより（平成14年12月、自由記述式アンケート実施）

- ・「四つのだいじ」の教育の目的は、保護者に十分に浸透している。
- ・「いのちをだいじに」「人をだいじに」を中心として、さらに、学校において人権教育の推進を求める声が多数あった。

⑤「豊かな心を持ちたくましく生きる子ども」とは

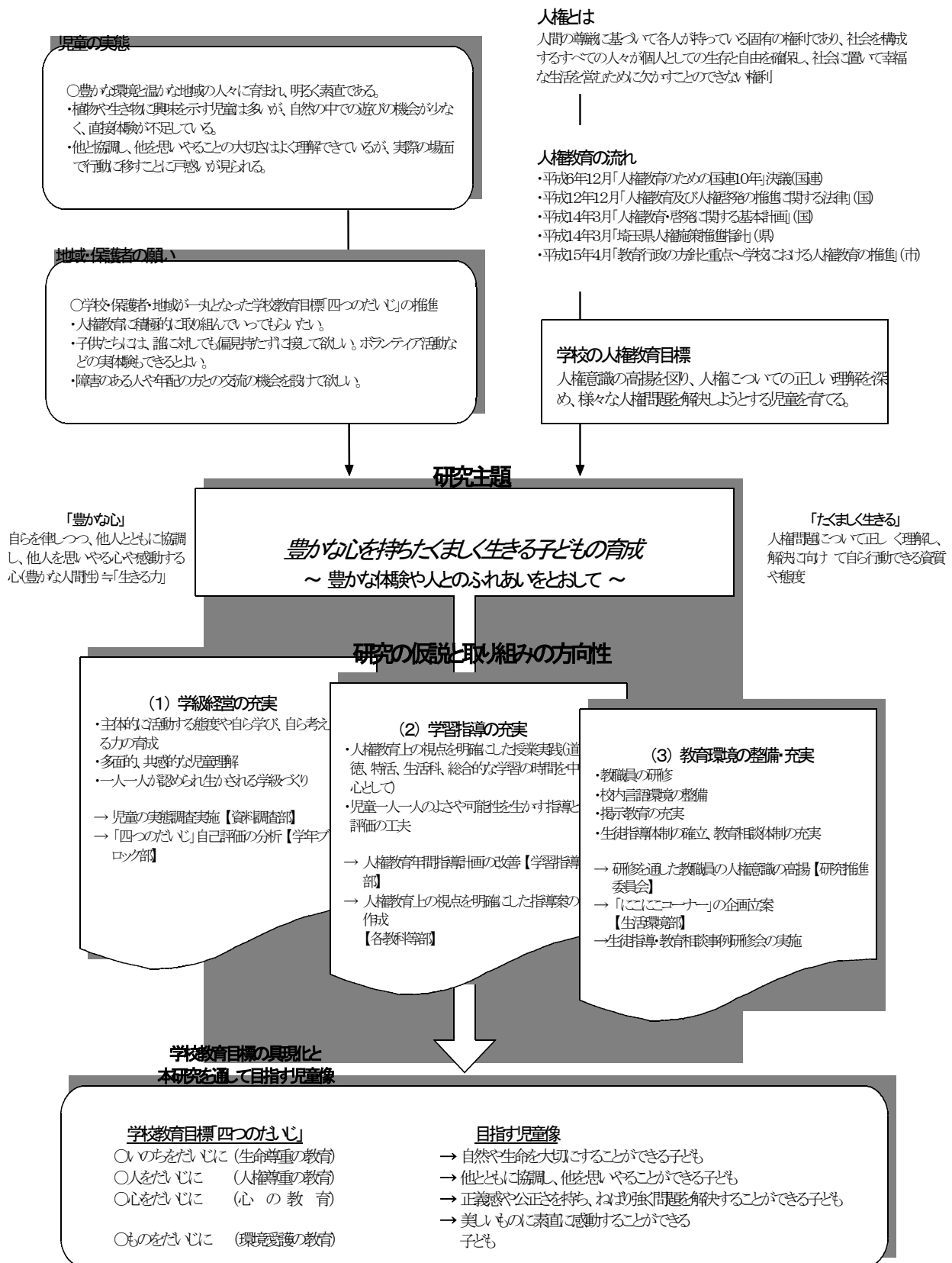
主題	とらえ方	目指す児童像	四つのだいじ
豊かな心	・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心（豊かな人間性） ≡「生きる力」	○自然や生命を大切にすることができ子ども ○他とともに協調し、他を思いやることができる子ども ○美しいものに素直に感動することができる子ども	・いのちをだいじに ・人をだいじに ・ものをだいじに
たくましく生きる	・人権問題について正しく理解し、解決に向けて自ら行動できる資質や態度	○正義感や公正さを持ち、ねばり強く問題を解決することができる子ども	・心をだいじに

（３）研究組織



2 研究の内容

(1) 全体構想



(2) 各専門部の主な取組

①生活科

〈生活科の目標〉

具体的な活動や体験をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

〈児童の実態〉

- ・生活科の学習は、ほとんどの子どもが好きで、意欲的に取り組む。
- ・探求心が旺盛で、自然観察や探検ごっこでは、楽しんで活動する。
- ・グループ活動や体験活動の中で、なかよく遊んだり、助け合ったりすることができる。

〈生活科における人権教育〉

今までの生活経験を生かし、積極的に活動したり、楽しく遊んだりすることで、友達や地域の人たちとの関わりに親しみを感じたり、自分の住んでいる地域に愛着を持ったりすることができる。そして、様々な活動や体験の中で、友達のよさに気づき、教え合ったり助け合ったりして、協力することのよさや喜びを感じ取らせることができる。



〈具体的な方策〉

- ・一人一人の思いや願いの実現に向けて、よりよい支援を目指す。
- ・地域の自然や環境を効果的に取り入れる。
- ・人とのふれあいや関わり合いが持てる活動計画を立てる。
- ・自分の活動を振り返ることができるような評価と手だてを工夫する。

②道徳

〈道徳の目標〉

学校教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。

〈児童の実態〉

- ・自然や生物に興味・関心はあるが、世話をすることや生命を尊ぶ気持ちが少ない。
- ・友達を大切にしようとする気持ちが出てきている。
- ・正義感があり、心で思ったり考えたりしているが、直接行動することがなかなかできない。
- ・素直に感動する感性は持っている。

〈道徳における人権教育〉

全ての教育活動が道徳教育と関係を持つものである。道徳の時間において、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間と密接な関連を図り、道徳的価値の自覚を深め道徳的实践力を育成する。そのことにより、人権問題に関する正しい理解と解決に向けての取組のできる児童の育成につながる。



〈具体的な方策〉

- ・道徳の時間の確保。
- ・指導・支援の工夫をする。(こころのノート・TT・校長、教頭の参加等)
- ・「誰に対しても差別することや偏見を持つことなく公正、公平にし、正義の実現に努める」「公德心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす」指導の充実を図る。
- ・保護者や地域の人々の参加や協力、そして、相互の連携を図る。
- ・「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念」を具体的な生活の中に生かしていく

③かがやきタイム（総合的な学習の時間）

〈 かがやきタイムの目標 〉

《主体的に学習する子どもの育成》

- ・進んで課題を見つけ、自ら学び、考え判断し、よりよく問題を解決することができる子ども。
- ・問題の解決や探究活動に進んで取り組み自分の生き方を考えることができる子ども。

〈 児童の実態 〉

- ・体験的な活動に積極的に取り組む。
- ・気づき、感じる力、コミュニケーションする力、多様な表現活動をする力の3つの力を身に付けるため研究を進め主体的に学習するようになってきた。
- ・コンピュータ活用技能を身に付けつつある。

〈 かがやきタイムにおける人権教育 〉

かがやきタイムでは、各教科等において身に付けた知識やを有効的に活用し、実際に体験したり、人とふれあったりする。この経験から、人との関わり合いに喜びを感じ、自他の生き方の違いを知ることにより、お互いを認め合う気持ちが生まれてくる。その中で、人権を尊重し、人権課題の解決に向けて主体的に行動できるような資質と能力・態度を身に付けさせることができる。

〈 具体的な方策 〉

- ・「豊かな体験や人とのふれあい」を、数多く経験するように単元計画を意図的に組む。
- ・子どもたちが人とのふれあいや交流をスムーズに行えるような個への支援と評価を明らかにする。
- ・自分の学びを振り返る時間と場を確保し、その中で自分の活動を支えてくれている人との関わりについて意識させながら学習を成立させていく。

④特別活動

〈 特別活動の目標 〉

望ましい集団活動をととして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

〈 児童の実態 〉

- ・学級や学校の問題に気づき、解決策を考えていくが、実践の場面になると、行動力に欠ける傾向がある。
- ・友達を大切にしようとする子どもが多いが自己中心的な行動や言動が見られる。
- ・集会活動や縦割りグループ活動に進んで参加できる。

〈 特別活動における人権教育 〉

- ・集団活動をととして望ましい人間関係を育て、お互いの人権を尊重しながら共に生きていこうとする態度を育てる。
- ・様々な人々とのふれあい、自然体験や社会体験などを取り入れた活動を工夫し、協力してよりよい生活を築こうとする実践的な態度を育てる。

〈 具体的な方策 〉

学級活動（１）では

- ・話し合いの進め方マニュアルを改善し、一人一人の考えや発言が大切にされる学級会を目指す。
- ・学級会グッズを作成し直して全クラスに配布し、どのクラスも学級活動に取り組みやすくする。

学級活動（２）では

- ・教師主導から子ども主体へ課題提示、アンケート作りや集計などの活動に発達段階に応じて参加させ、子ども主体の授業を組み立てる。

3 実践事例 「かがやきタイム」第5学年

- 1 単元名 「やまぶき環境探検隊」(45時間扱い)
- 2 単元について
 - (1) 児童の実態 (略)
 - (2) 本単元の意図 (略)
- 3 単元の目標および評価規準
 - ・身近な環境について興味を持ち、進んで調べていくことができる。
 - ・自分の地域の環境のよさや問題点を知り、自分にできる改善策を考え、実践していこうとすることができる。

関心・意欲・態度	課題を設定する力	課題を解決する力	学習を振り返り、自己を見つめる力
身近な環境に興味を持ち、進んで調べていくことができる。	様々な情報から、自分の追究したい課題を設定することができる。	自分の課題にあった適切な解決方法を考えることができる。	環境について調べ、解決することを通して、自己の認識、学習方法などをふりかえり、今後の生活の中に生かしていこうとすることができる。

- 4 単元の活動計画(45時間 本時6/45)
各教科との関連(主なもの)
国語・・・「海にねむる未来」 「ホテルのすむ水辺」
社会・・・「わたしたちの生活と食料生産」
「米づくりのさかんな庄内平野」 「これからの食料生産」 など
道徳・・・「まごころのボランティア活動」
かがやきタイム・・・「イモって、いーもん」

学習過程	主な学習活動 ◎人とのふれあい ◇体験	○支援 ☆評価の視点(方法) ※人権教育上の視点
ふ れ る 6 時 間	1 身のまわりの環境についてのビデオをみる。 2 身のまわりの環境について関心を持ち、その様子を調べることができる。 3 古谷東小との様子の違いを知る。 ◎テレビ会議にて、他校との交流(本時)	○ビデオの内容と自分たちの地域の様子を関連づけてみせることで環境について興味を持たせる。 ・社会科「わたしたちの生活と工業生産」 国語「ホテルのすむ水辺」などとの関連を図る。 ○テレビ会議を使い、同じ川越市内でも環境が違うことに気づき、今後お互いの地域を比べていくことに関心を抱くようにする。 ※テレビ会議を活用することで、より相手を意識しながら、発表や質問などができるようになる。

以下略

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ①研究主題「豊かな心をも持ちたくましく生きる子どもの育成～豊かな体験や人とのふれあいをとoshite～」に関して、研究推進委員会、全体研修会を通して、本校の特色や子どもの実態に応じて、より一層の具現化が図れた。
- ②豊かな体験や人とのふれあいを核とした、地域の特色を生かした単元の開発で、各学年において具体的な単元を構成したので一層具体化が図れた。
- ③人権教育年間指導計画の作成で、全教科等の内容において発達段階による系統化が図られるようになった。
- ④教師側の人権意識をその都度振り返ることで、まず教師側の人権意識が高められた。

(2) 課題

- ①学習指導に生きる評価の在り方については、子ども一人一人の学習課題に応じて積極的に支援するために、今後、学習中の評価の工夫についても、さらに研究を深め、より具体的な方策を検討していく。
- ②人権教育上の視点に立った教育活動や啓発活動をさら実践していく。

「自分の力で歩いていける児童の育成」

－指導方法の工夫と改善（算数科の指導を通して）－

川越市立川越小学校

研究のポイント

- 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫
 - ・習熟度別学習の推進（少人数指導の充実）
 - ・小学校における教科担任制の計画と実践
- 指導に生きる評価のあり方
- 個に応じた指導のための教材開発

1 研究の概要

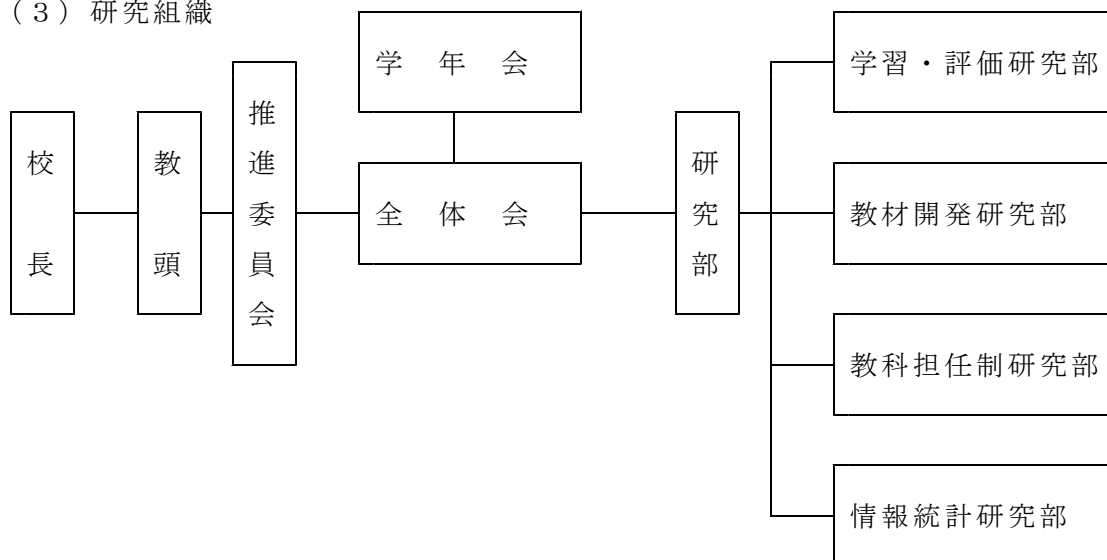
（１）研究のねらい

- ①個に応じた指導のための指導方法・指導体制を工夫することにより、児童一人一人の学力の向上を目指す。
- ②教師の特性を生かした指導体制を組むことにより、より効果的に児童一人一人の学力の向上を目指す。
- ③指導に生きる評価の工夫や教材開発により、児童一人一人の学力の向上を目指す。

（２）研究主題設定の理由

本校では、中央教育審議会で提言された「生きる力」も、教育課程審議会で示された各学校段階の役割についての記述でも、キーワードは児童の「自立」を目指すことであると捉えた。このような考えの下に、本校の現状を眺めると、児童は素直で明るい子が多く学習への取り組みの姿勢もよい。しかし、自ら考え主体的に判断し行動できる子はまだまだ少ない。保護者は概して教育熱心で、親子関係も大変よい状況にあるが、過保護と思われる面が多くなっているのも事実である。一方、社会情勢を眺めると、完全学校週5日制の下、新学習指導要領の全面実施に伴い、ますます注目が高まっているのが「学力」の問題である。このような現状を踏まえ、本校として、どのような児童を育てていくことが必要なのか全職員で協議した。多くの職員から、本校の学校教育目標「進んで考える子、だれとでも仲よくする子、やりぬく強い子」の実現が強調された。こうした時代だからこそ、各自が自分の役割をまっとうすることが強く求められているのではないかという意見が出された。そこで、全職員の共通理解のもと、研究主題を「自分の力で歩いていける児童の育成」と設定し、「心の教育」の充実と「確かな学力」の向上を表裏一体のものと考え、研究主題に迫っていくことにした。

(3) 研究組織

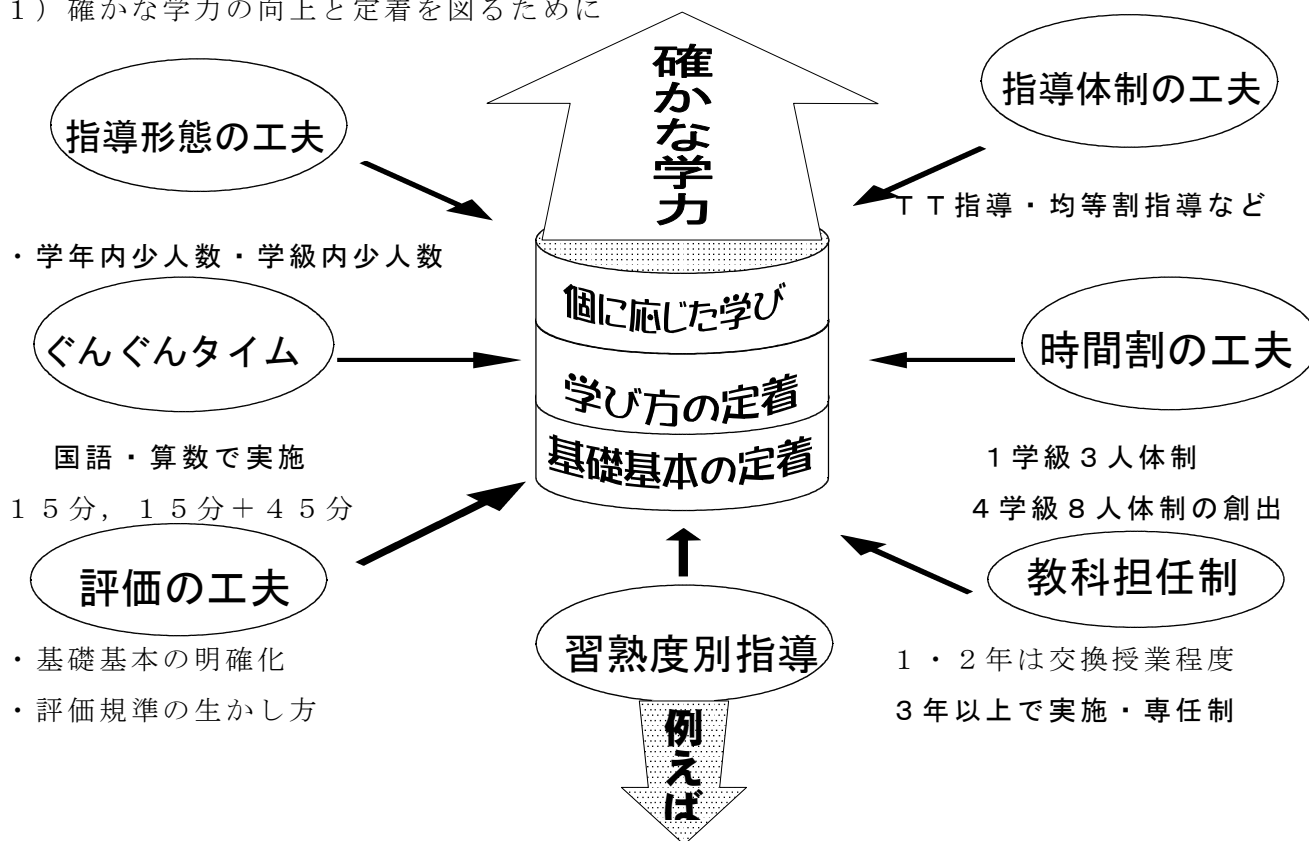


2 研究の内容

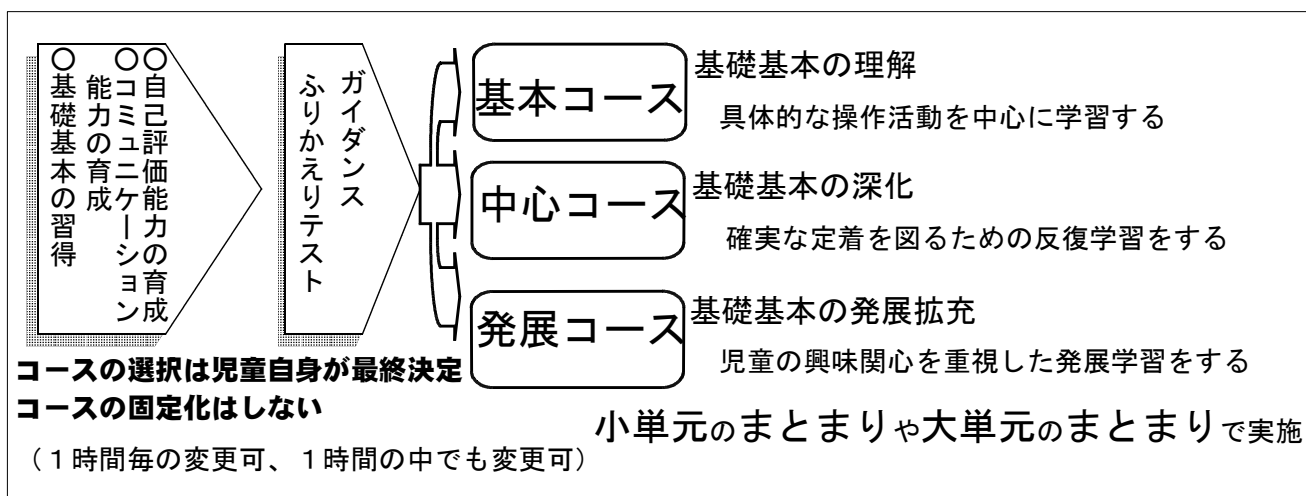
	学習・評価研究部	教材開発研究部	情報統計研究部	教科担任制研究部
研究内容	◎授業研究を中心にした、コース別指導の工夫	◎教具の開発（特に導入教材） ◎単元途中で支援の必要な児童のための教材の開発	◎アンケートによる実態の分析 ◎インターネット等を使った情報の発信	◎教科担任制を実施しての成果と問題点を調査によって確認し、来年度に向けて改善していく。
研究の手だて	◎日頃の授業のために ・教室等の掲示物の作成 ・自己評価カードの工夫 ・効果的な授業の流れ ◎授業研究するために ・習熟度別課題別コースなど多様に考えていく ◎他の研究部とのつながりを大切にして全体としての研究になるようにする ◎フロンティアスクール研究推進としての算数から他教科への発展を大切にしていく	◎研究授業の単元中心に考える。 ◎普段の授業での体験的活動を積み重ねていく。 ◎単元が決まったら部会で話しあっていく。	◎アンケート内容は昨年度のものを使用 ◎人間地区学力調査の結果を分析し指導の手立てを検討する ◎パソコンへの打ち込みを部員全員が出来るようにしておく ①アンケートの確認②発信内容について③ホームページ作成ソフト④各学年で集める物 ・算数授業風景 ・工夫した教材 ・TT・教科担任制 ・児童の作品や学習の感想	◎アンケートの作成 教師用・児童用 ◎実施9月 集計・分析 ◎課題点の改善→時間割の作成（2学期中）

3 実践事例

(1) 確かな学力の向上と定着を図るために

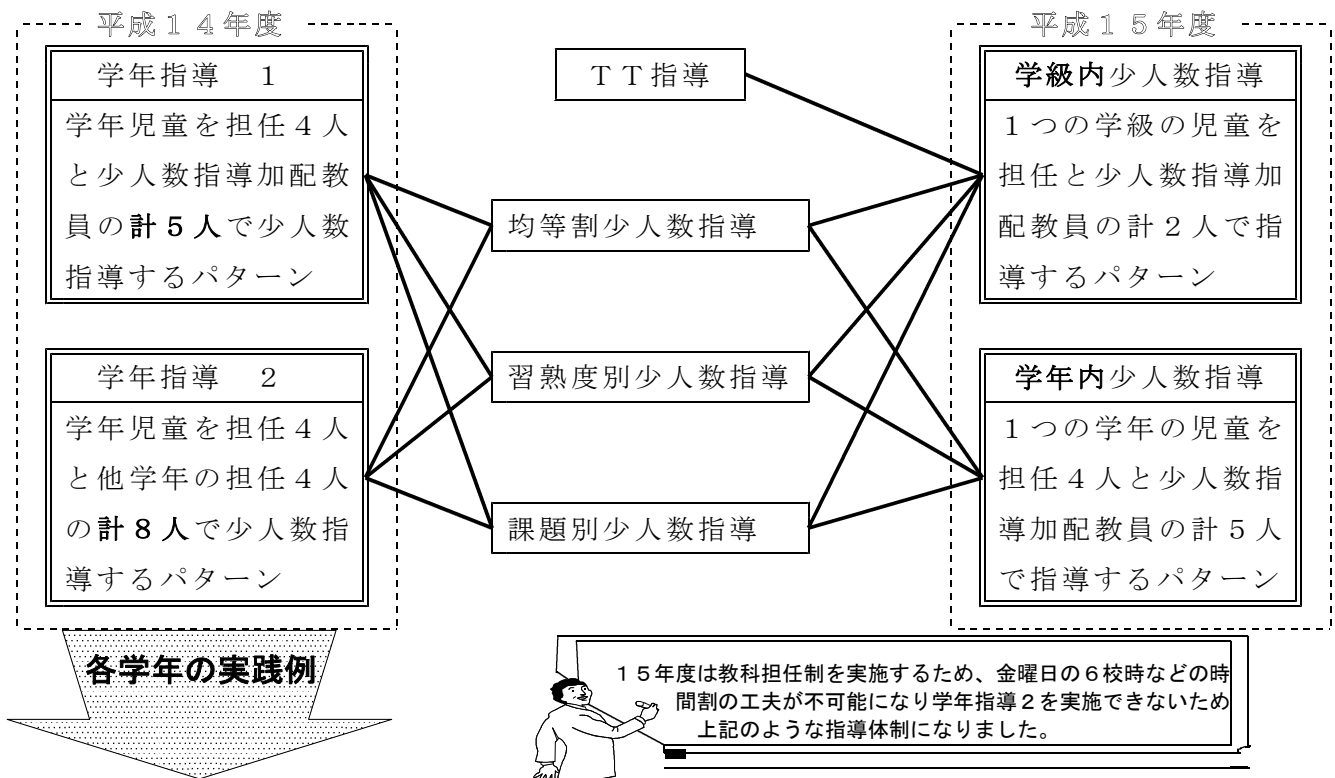


児童の願いを実現する指導



（２） 指導体制の工夫

◇本校では平成１４・１５年度は算数科における習熟度別指導に次のような指導体制で取り組みました。



学 年	１	２	３	４	５	６
指導パターン	学年指導 １	学年指導 １	学年指導 １	学年指導 ２	学年指導 １	学年指導 ２
クラス数	４クラス	４クラス	４クラス	４クラス	４クラス	４クラス
基本コース名・コース数	きりん １	ハリ隊 ２	蔵造り １	カーリング １	くすのき １	りんご １
指導教員数	１	２	２	２	２	３
中心コース名 場の数	こあら ３	こちかめ隊 ２	本丸 １	モーグル ２	けやき ２	さくらんぼ ２
指導教員数	３	２	２	４	２	４
発展コース名 場の数	しまうま １	コナン隊 １	時の鐘 １	ボブスレー １	はなみずき １	ぶどう １
指導教員数	１	１	１	２	１	１

コース名・コース数は児童の実態、指導内容と指導教員の実態に応じて学年で工夫しました。

◇平成１４年度 算数の授業パターン

最も大切な **ＴＴ打ち合わせ会議** を火曜日の放課後に設置し
☐ 学年の打ち合わせ
☐ １年と４年、２年と６年との打ち合わせなどに当てた。

☐ 単独指導 （全学年）

☐ 少人数指導加配教員+担任 **ＴＴ指導【学年指導 １】**
 （１・２・３・５年）

☐ ３人体制の **ＴＴ指導** （３・５年）

☐ 同学年の担任+担任 **ＴＴ指導** （４・６年）

☐ 他学年の担任+担任 **ＴＴ指導【学年指導 ２】**
 （４・６年）

通常では単独指導や、ＴＴ指導（少人数指導を含む）の中で、座席別指導や課題別指導、習熟度別指導を行いました。そして、ここぞという習熟を図る場面などでは、時間割の工夫をして作り出した「ぐんぐんタイムの時間」や、火曜日の６時間目に、「学年指導 １」や「学年指導 ２」の形態で指導を行いました。

(3) 時間割編成の工夫

◇「3人体制のT T指導」と「同学年の担任+担任」

3 人体制の T T 指導					同学年の担任+担任 T T 指導					
少人数指導加配教員 E										
	1 組	2 組	3 組	4 組		1 組	2 組	3 組	4 組	
1 組担任 A	音楽	算数			1 組担任 A	音楽	算数			
2 組担任 B	A → AB E				2 組担任 B	A → A B				
3 組担任 C		音楽	算数		3 組担任 C		音楽	算数		
4 組担任 D		B → BC E			4 組担任 D		B → B C			
			音楽	算数				音楽	算数	
			C → CD E	1 組				C → C D	1 組	
				音楽	算数				音楽	算数
				D → DA E					D → D A	

音楽の裏での、いわゆる空き時間の教員が学年内の算数のT T指導に入っていました。このことにより、少人数指導加配教員を含めて1クラス3人で指導体制を組むことができました。

(3年生・5年生) は、T T指導に入る様子

6-1	6-2	6-3	6-4
月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金
1 体 国 音 国 算 社	1 社 国 理 算 国 算 国	1 国 国 理 社 国 算 家 国	1 国 家 国 国 国 算 国
2 算 国 学 道 体 理	2 体 理 音 道 国 国	2 国 国 理 算 道 家 国	2 算 算 家 国 国 道 書
3 社 理 体 総 家 国	3 家 国 社 学 総 体 理	3 体 国 音 総 算 音	3 理 社 算 総 算 算
4 国 理 社 国 総 家 国	4 家 国 書 体 総 社	4 書 社 学 総 体 理	4 理 体 社 国 総 社
5 書 総 算 国 算 音	5 算 算 総 国 国 算 算	5 算 算 総 体 国 社	5 学 総 音 体 体 理
6 算 算 委 委	6 算 算 委 委	6 算 算 委 委	6 算 算 委 委
2-1担任	2-2担任	2-3担任	2-4担任

学年指導2

◇「学年指導2」の工夫

1・2年は火曜日に4時間授業を組み、児童を帰した後の6校時には、1年の教員が4年の教室へ、2年の教員が6年の教室へ算数のT T指導に入っていました。もちろん4年と6年は全クラスこの時間は算数を行います。(上記6年時間割参照)このような工夫により「学年指導2」という指導体制をとることができるようになりました。



6年「比」の学習の導入場面
6年担任と2年担任によるT T指導

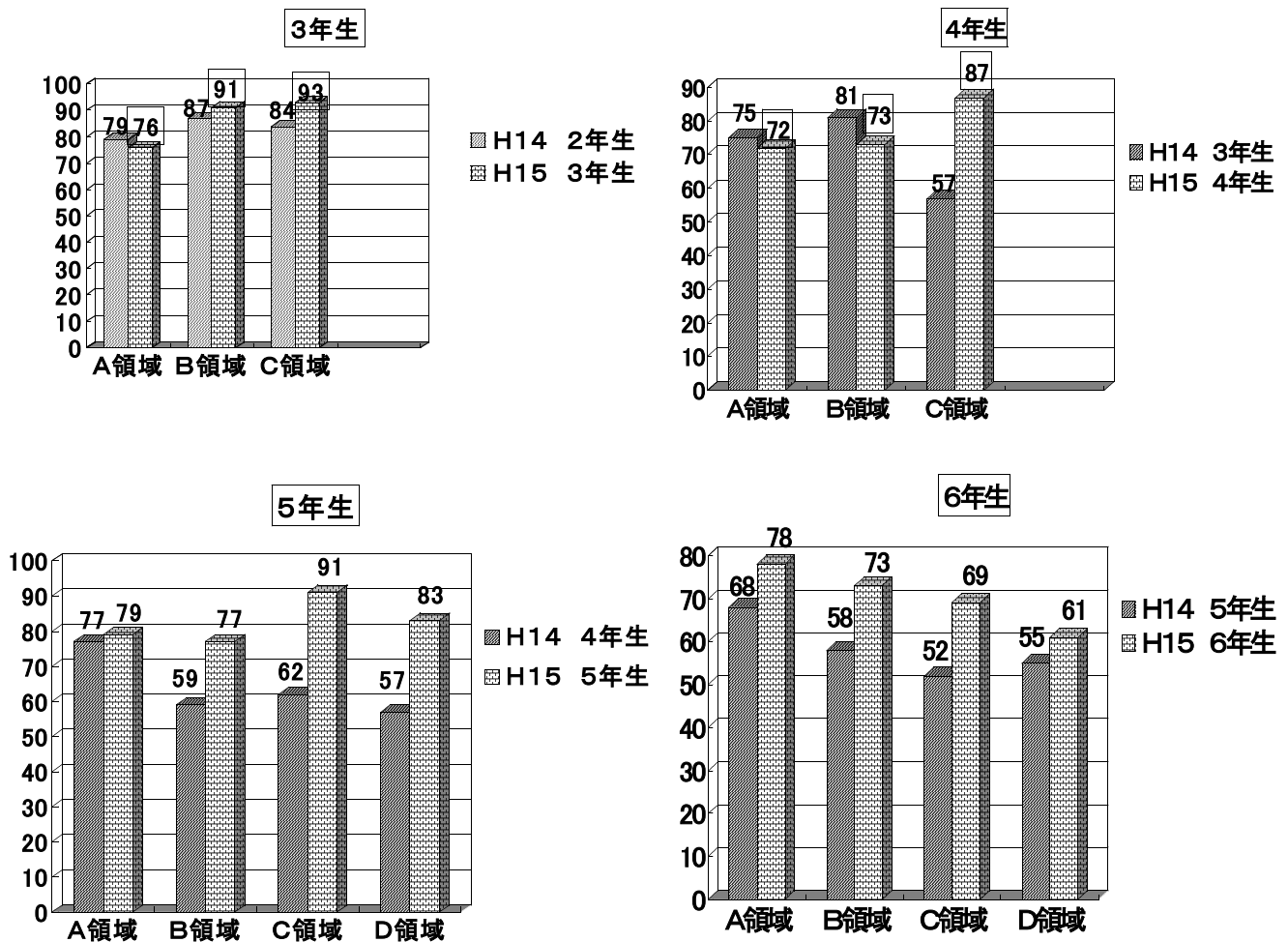


6年「比」の学年指導2の一場面
基本コースの3人体制によるT T指導

4 研究の成果と課題

◇ 成果

○ 入間地区算数数学学力調査の結果



○ 児童・教師の変容

- ・ 児童のできるようになりたいという意欲を大切にし、その願いを実現する学習に取り組むことにより、確実に意欲面での高揚、学力の向上を図ることができました。
- ・ また、算数科における指導法の研究を進めることにより、他教科への波及効果が見られ、他教科での学力の向上も図られています。

○ 教科担任制での変化

児童は教師が思うよりすなりと受け入れたようです。とまどう先生方をよそに児童たちは入れ替わる先生方との交流を楽しんでいます。先生方も専科制にしたため1度の教材研究が4度生かされ、指導の流れもより効率的になり、わかりやすい授業が展開されています。

◇ 課題

- ・ 月曜日の1時間目から他クラスへ出たり、金曜日の5時間目が他クラスであったりするので日課表の変更や行事があるときには十分注意が必要である。
- ・ 教科間の時数調整の融通がきかないためより計画的な見通しが必要である。
- ・ 出授業の時間に縛られ、自学級のことは後回しになり、その時点で児童に即応できないことがあるため、生徒指導の創意工夫が必要である。
- ・ 学級数変動によって専任教科が変わるため、長期的な展望がより必要である。

「評価を生かした少人数指導の実践的研究」

川越市立月越小学校

研究のポイント

- 指導との一体化を図るための評価基準の策定及び評価の実践、活用
- 評価を生かした指導法の開発
- 児童の実態（学習状況や興味、関心等）に応じた指導形態の工夫と実践

1 研究の概要

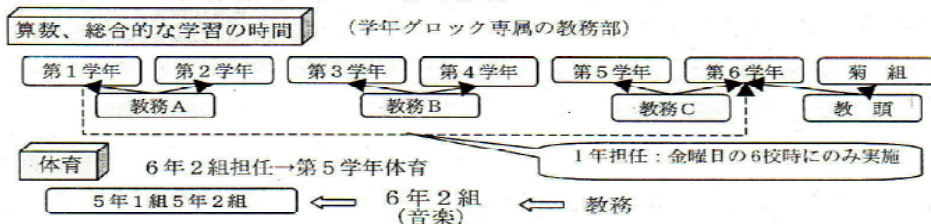
(1) 研究のねらい

本校では、国立教育政策研究所より「全国のかつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業」の指定を受け全校を挙げて研究活動に取り組んでいる。これは、算数科と体育科において、学習指導要領に定める目標等の実現状況について実践的な調査活動を行い、今後の教育課程や学校における指導の改善に役立てていくことをねらいとするものである。具体的には、まず各時間ごとの評価基準を策定すること。そして、それにしたがって児童の学習状況を評価分析し、授業改善に努め、より児童一人一人の学力の向上をめざしている。

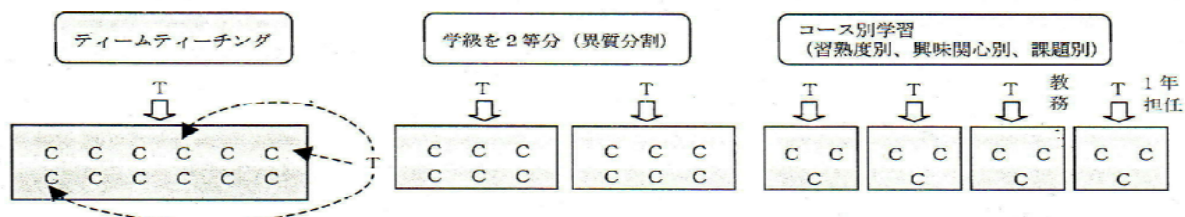
(2) 研究主題設定の理由

評価基準の策定にはじまり、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす評価の在り方、自己評価及び相互評価の有効活用等を図ることは、指導と一体化するものと考ええる。学習指導要領に定める目標等への実現状況を向上させるためには、評価結果を十分吟味考察し、活用して、児童一人一人の学習状況の実態に応じたきめ細かな指導を展開していくことが重要であると考えた。そこで、評価を生かすことを基本とし、個に応じた指導を充実するための指導方法及び指導体制を工夫するとともに、少人数による指導をより実践的に推進していくために、本主題を設定した。

☆ 月越小学校の少人数指導を支える指導体制



☆ 少人数指導の形態アラカルト



2 研究活動の内容

(1) 算数部

評価を生かした学習指導の工夫

わかる・楽しい授業をめざして

ひとりひとりへの支援のために

(1) 学習形態の工夫

【基本的な学習過程の考え方】

導入 ⇒ 展開 ⇒ 習熟・発展 ⇒ まとめ
一斉 少人数指導 少人数指導 T・T指導
T・T指導 (異質分割)
(習熟度別)
(課題別)

※グループ分けの留意点として

- ・ 1 学級を 2 グループまたは
2 学級を 3～4 グループにわけ。
- ・ レディネステストやアンケートを
もとにして児童の希望を尊重する。

(1) 評価規準の作成及び見なおし

(2) 評価・総括の方法の継続化、簡素化

- ・ 毎授業ごと
- ・ 授業のまとまりごと
- ・ 単元の終了時

↓
A、B、C の評価を数値化し、
それをもとに吟味・総括していく。

5年②数の計算(算1)(5月～6月上旬)(7月期) 吟味総括表

期日		5月(火) (1)(2)		5月(水) (3)(4)		5月(木) (5)(6)		5月(金) (7)(8)		5月(土) (9)(10)		5月(日) (11)(12)		5月(月) (13)(14)		5月(火) (15)(16)		5月(水) (17)(18)		5月(木) (19)(20)		5月(金) (21)(22)		5月(土) (23)(24)		5月(日) (25)(26)		5月(月) (27)(28)		5月(火) (29)(30)		5月(水) (31)(1)		5月(木) (2)(3)		5月(金) (4)(5)		5月(土) (6)(7)		5月(日) (8)(9)		5月(月) (10)(11)		5月(火) (12)(13)		5月(水) (14)(15)		5月(木) (16)(17)		5月(金) (18)(19)		5月(土) (20)(21)		5月(日) (22)(23)		5月(月) (24)(25)		5月(火) (26)(27)		5月(水) (28)(29)		5月(木) (30)(31)		5月(金) (1)(2)		5月(土) (3)(4)		5月(日) (5)(6)		5月(月) (7)(8)		5月(火) (9)(10)		5月(水) (11)(12)		5月(木) (13)(14)		5月(金) (15)(16)		5月(土) (17)(18)		5月(日) (19)(20)		5月(月) (21)(22)		5月(火) (23)(24)		5月(水) (25)(26)		5月(木) (27)(28)		5月(金) (29)(30)		5月(土) (31)(1)		5月(日) (2)(3)		5月(月) (4)(5)		5月(火) (6)(7)		5月(水) (8)(9)		5月(木) (10)(11)		5月(金) (12)(13)		5月(土) (14)(15)		5月(日) (16)(17)		5月(月) (18)(19)		5月(火) (20)(21)		5月(水) (22)(23)		5月(木) (24)(25)		5月(金) (26)(27)		5月(土) (28)(29)		5月(日) (30)(31)		5月(月) (1)(2)		5月(火) (3)(4)		5月(水) (5)(6)		5月(木) (7)(8)		5月(金) (9)(10)		5月(土) (11)(12)		5月(日) (13)(14)		5月(月) (15)(16)		5月(火) (17)(18)		5月(水) (19)(20)		5月(木) (21)(22)		5月(金) (23)(24)		5月(土) (25)(26)		5月(日) (27)(28)		5月(月) (29)(30)		5月(火) (31)(1)		5月(水) (2)(3)		5月(木) (4)(5)		5月(金) (6)(7)		5月(土) (8)(9)		5月(日) (10)(11)		5月(月) (12)(13)		5月(火) (14)(15)		5月(水) (16)(17)		5月(木) (18)(19)		5月(金) (20)(21)		5月(土) (22)(23)		5月(日) (24)(25)		5月(月) (26)(27)		5月(火) (28)(29)		5月(水) (30)(31)		5月(木) (1)(2)		5月(金) (3)(4)		5月(土) (5)(6)		5月(日) (7)(8)		5月(月) (9)(10)		5月(火) (11)(12)		5月(水) (13)(14)		5月(木) (15)(16)		5月(金) (17)(18)		5月(土) (19)(20)		5月(日) (21)(22)		5月(月) (23)(24)		5月(火) (25)(26)		5月(水) (27)(28)		5月(木) (29)(30)		5月(金) (31)(1)		5月(土) (2)(3)		5月(日) (4)(5)		5月(月) (6)(7)		5月(火) (8)(9)		5月(水) (10)(11)		5月(木) (12)(13)		5月(金) (14)(15)		5月(土) (16)(17)		5月(日) (18)(19)		5月(月) (20)(21)		5月(火) (22)(23)		5月(水) (24)(25)		5月(木) (26)(27)		5月(金) (28)(29)		5月(土) (30)(31)		5月(日) (1)(2)		5月(月) (3)(4)		5月(火) (5)(6)		5月(水) (7)(8)		5月(木) (9)(10)		5月(金) (11)(12)		5月(土) (13)(14)		5月(日) (15)(16)		5月(月) (17)(18)		5月(火) (19)(20)		5月(水) (21)(22)		5月(木) (23)(24)		5月(金) (25)(26)		5月(土) (27)(28)		5月(日) (29)(30)		5月(月) (31)(1)		5月(火) (2)(3)		5月(水) (4)(5)		5月(木) (6)(7)		5月(金) (8)(9)		5月(土) (10)(11)		5月(日) (12)(13)		5月(月) (14)(15)		5月(火) (16)(17)		5月(水) (18)(19)		5月(木) (20)(21)		5月(金) (22)(23)		5月(土) (24)(25)		5月(日) (26)(27)		5月(月) (28)(29)		5月(火) (30)(31)		5月(水) (1)(2)		5月(木) (3)(4)		5月(金) (5)(6)		5月(土) (7)(8)		5月(日) (9)(10)		5月(月) (11)(12)		5月(火) (13)(14)		5月(水) (15)(16)		5月(木) (17)(18)		5月(金) (19)(20)		5月(土) (21)(22)		5月(日) (23)(24)		5月(月) (25)(26)		5月(火) (27)(28)		5月(水) (29)(30)		5月(木) (31)(1)		5月(金) (2)(3)		5月(土) (4)(5)		5月(日) (6)(7)		5月(月) (8)(9)		5月(火) (10)(11)		5月(水) (12)(13)		5月(木) (14)(15)		5月(金) (16)(17)		5月(土) (18)(19)		5月(日) (20)(21)		5月(月) (22)(23)		5月(火) (24)(25)		5月(水) (26)(27)		5月(木) (28)(29)		5月(金) (30)(31)		5月(土) (1)(2)		5月(日) (3)(4)		5月(月) (5)(6)		5月(火) (7)(8)		5月(水) (9)(10)		5月(木) (11)(12)		5月(金) (13)(14)		5月(土) (15)(16)		5月(日) (17)(18)		5月(月) (19)(20)		5月(火) (21)(22)		5月(水) (23)(24)		5月(木) (25)(26)		5月(金) (27)(28)		5月(土) (29)(30)		5月(日) (31)(1)		5月(月) (2)(3)		5月(火) (4)(5)		5月(水) (6)(7)		5月(木) (8)(9)		5月(金) (10)(11)		5月(土) (12)(13)		5月(日) (14)(15)		5月(月) (16)(17)		5月(火) (18)(19)		5月(水) (20)(21)		5月(木) (22)(23)		5月(金) (24)(25)		5月(土) (26)(27)		5月(日) (28)(29)		5月(月) (30)(31)		5月(火) (1)(2)		5月(水) (3)(4)		5月(木) (5)(6)		5月(金) (7)(8)		5月(土) (9)(10)		5月(日) (11)(12)		5月(月) (13)(14)		5月(火) (15)(16)		5月(水) (17)(18)		5月(木) (19)(20)		5月(金) (21)(22)		5月(土) (23)(24)		5月(日) (25)(26)		5月(月) (27)(28)		5月(火) (29)(30)		5月(水) (31)(1)		5月(木) (2)(3)		5月(金) (4)(5)		5月(土) (6)(7)		5月(日) (8)(9)		5月(月) (10)(11)		5月(火) (12)(13)		5月(水) (14)(15)		5月(木) (16)(17)		5月(金) (18)(19)		5月(土) (20)(21)		5月(日) (22)(23)		5月(月) (24)(25)		5月(火) (26)(27)		5月(水) (28)(29)		5月(木) (30)(31)		5月(金) (1)(2)		5月(土) (3)(4)		5月(日) (5)(6)		5月(月) (7)(8)		5月(火) (9)(10)		5月(水) (11)(12)		5月(木) (13)(14)		5月(金) (15)(16)		5月(土) (17)(18)		5月(日) (19)(20)		5月(月) (21)(22)		5月(火) (23)(24)		5月(水) (25)(26)		5月(木) (27)(28)		5月(金) (29)(30)		5月(土) (31)(1)		5月(日) (2)(3)		5月(月) (4)(5)		5月(火) (6)(7)		5月(水) (8)(9)		5月(木) (10)(11)		5月(金) (12)(13)		5月(土) (14)(15)		5月(日) (16)(17)		5月(月) (18)(19)		5月(火) (20)(21)		5月(水) (22)(23)		5月(木) (24)(25)		5月(金) (26)(27)		5月(土) (28)(29)		5月(日) (30)(31)		5月(月) (1)(2)		5月(火) (3)(4)		5月(水) (5)(6)		5月(木) (7)(8)		5月(金) (9)(10)		5月(土) (11)(12)		5月(日) (13)(14)		5月(月) (15)(16)		5月(火) (17)(18)		5月(水) (19)(20)		5月(木) (21)(22)		5月(金) (23)(24)		5月(土) (25)(26)		5月(日) (27)(28)		5月(月) (29)(30)		5月(火) (31)(1)		5月(水) (2)(3)		5月(木) (4)(5)		5月(金) (6)(7)		5月(土) (8)(9)		5月(日) (10)(11)		5月(月) (12)(13)		5月(火) (14)(15)		5月(水) (16)(17)		5月(木) (18)(19)		5月(金) (20)(21)		5月(土) (22)(23)		5月(日) (24)(25)		5月(月) (26)(27)		5月(火) (28)(29)		5月(水) (30)(31)		5月(木) (1)(2)		5月(金) (3)(4)		5月(土) (5)(6)		5月(日) (7)(8)		5月(月) (9)(10)		5月(火) (11)(12)		5月(水) (13)(14)		5月(木) (15)(16)		5月(金) (17)(18)		5月(土) (19)(20)		5月(日) (21)(22)		5月(月) (23)(24)		5月(火) (25)(26)		5月(水) (27)(28)		5月(木) (29)(30)		5月(金) (31)(1)		5月(土) (2)(3)		5月(日) (4)(5)		5月(月) (6)(7)		5月(火) (8)(9)		5月(水) (10)(11)		5月(木) (12)(13)		5月(金) (14)(15)		5月(土) (16)(17)		5月(日) (18)(19)		5月(月) (20)(21)		5月(火) (22)(23)		5月(水) (24)(25)		5月(木) (26)(27)		5月(金) (28)(29)		5月(土) (30)(31)		5月(日) (1)(2)		5月(月) (3)(4)		5月(火) (5)(6)		5月(水) (7)(8)		5月(木) (9)(10)		5月(金) (11)(12)		5月(土) (13)(14)		5月(日) (15)(16)		5月(月) (17)(18)		5月(火) (19)(20)		5月(水) (21)(22)		5月(木) (23)(24)		5月(金) (25)(26)		5月(土) (27)(28)		5月(日) (29)(30)		5月(月) (31)(1)		5月(火) (2)(3)		5月(水) (4)(5)		5月(木) (6)(7)		5月(金) (8)(9)		5月(土) (10)(11)		5月(日) (12)(13)		5月(月) (14)(15)		5月(火) (16)(17)		5月(水) (18)(19)		5月(木) (20)(21)		5月(金) (22)(23)		5月(土) (24)(25)		5月(日) (26)(27)		5月(月) (28)(29)		5月(火) (30)(31)		5月(水) (1)(2)		5月(木) (3)(4)		5月(金) (5)(6)		5月(土) (7)(8)		5月(日) (9)(10)		5月(月) (11)(12)		5月(火) (13)(14)		5月(水) (15)(16)		5月(木) (17)(18)		5月(金) (19)(20)		5月(土) (21)(22)		5月(日) (23)(24)		5月(月) (25)(26)		5月(火) (27)(28)		5月(水) (29)(30)		5月(木) (31)(1)		5月(金) (2)(3)		5月(土) (4)(5)		5月(日) (6)(7)		5月(月) (8)(9)		5月(火) (10)(11)		5月(水) (12)(13)		5月(木) (14)(15)		5月(金) (16)(17)		5月(土) (18)(19)		5月(日) (20)(21)		5月(月) (22)(23)		5月(火) (24)(25)		5月(水) (26)(27)		5月(木) (28)(29)		5月(金) (30)(31)		5月(土) (1)(2)		5月(日) (3)(4)		5月(月) (5)(6)		5月(火) (7)(8)		5月(水) (9)(10)		5月(木) (11)(12)		5月(金) (13)(14)		5月(土) (15)(16)		5月(日) (17)(18)		5月(月) (19)(20)		5月(火) (21)(22)		5月(水) (23)(24)		5月(木) (25)(26)		5月(金) (27)(28)		5月(土) (29)(30)		5月(日) (31)(1)		5月(月) (2)(3)		5月(火) (4)(5)		5月(水) (6)(7)		5月(木) (8)(9)		5月(金) (10)(11)		5月(土) (12)(13)		5月(日) (14)(15)		5月(月) (16)(17)		5月(火) (18)(19)		5月(水) (20)(21)		5月(木) (22)(23)		5月(金) (24)(25)		5月(土) (26)(27)		5月(日) (28)(29)		5月(月) (30)(31)		5月(火) (1)(2)		5月(水) (3)(4)		5月(木) (5)(6)		5月(金) (7)(8)		5月(土) (9)(10)		5月(日) (11)(12)		5月(月) (13)(14)		5月(火) (15)(16)		5月(水) (17)(18)		5月(木) (19)(20)		5月(金) (21)(22)		5月(土) (23)(24)		5月(日) (25)(26)		5月(月) (27)(28)		5月(火) (29)(30)		5月(水) (31)(1)		5月(木) (2)(3)		5月(金) (4)(5)		5月(土) (6)(7)		5月(日) (8)(9)		5月(月) (10)(11)		5月(火) (12)(13)		5月(水) (14)(15)		5月(木) (16)(17)		5月(金) (18)(19)		5月(土) (20)(21)		5月(日) (22)(23)		5月(月) (24)(25)		5月(火) (26)(27)		5月(水) (28)(29)		5月(木) (30)(31)		5月(金) (1)(2)		5月(土) (3)(4)		5月(日) (5)(6)		5月(月) (7)(8)		5月(火) (9)(10)		5月(水) (11)(12)		5月(木) (13)(14)		5月(金) (15)(16)		5月(土) (17)(18)		5月(日) (19)(20)		5月(月) (21)(22)		5月(火) (23)(24)		5月(水) (25)(26)		5月(木) (27)(28)		5月(金) (29)(30)		5月(土) (31)(1)		5月(日) (2)(3)		5月(月) (4)(5)		5月(火) (6)(7)		5月(水) (8)(9)		5月(木) (10)(11)		5月(金) (12)(13)		5月(土) (14)(15)		5月(日) (16)(17)		5月(月) (18)(19)		5月(火) (20)(21)		5月(水) (22)(23)		5月(木) (24)(25)		5月(金) (26)(27)		5月(土) (28)(29)		5月(日) (30)(31)		5月(月) (1)(2)		5月(火) (3)(4)		5月(水) (5)(6)		5月(木) (7)(8)		5月(金) (9)(10)		5月(土) (11)(12)		5月(日) (13)(14)		5月(月) (15)(16)		5月(火) (17)(18)		5月(水) (19)(20)		5月(木) (21)(22)		5月(金) (23)(24)		5月(土) (25)(26)		5月(日) (27)(28)		5月(月) (29)(30)		5月(火) (31)(1)		5月(水) (2)(3)		5月(木) (4)(5)		5月(金) (6)(7)		5月(土) (8)(9)		5月(日) (10)(11)		5月(月) (12)(13)		5月(火) (14)(15)		5月(水) (16)(17)		5月(木) (18)(19)		5月(金) (20)(21)		5月(土) (22)(23)		5月(日) (24)(25)		5月(月) (26)(27)		5月(火) (28)(29)		5月(水) (30)(31)		5月(木) (1)(2)		5月(金) (3)(4)		5月(土) (5)(6)		5月(日) (7)(8)		5月(月) (9)(10)		5月(火) (11)(12)		5月(水) (13)(14)		5月(木) (15)(16)		5月(金) (17)(18)		5月(土) (19)(20)		5月(日) (21)(22)		5月(月) (23)(24)		5月(火) (25)(26)		5月(水) (27)(28)		5月(木) (29)(30)		5月(金) (31)(1)		5月(土) (2)(3)		5月(日) (4)(5)		5月(月) (6)(7)		5月(火) (8)(9)		5月(水) (10)(11)		5月(木) (12)(13)		5月(金) (14)(15)		5月(土) (16)(17)		5月(日) (18)(19)		5月(月) (20)(21)		5月(火) (22)(23)		5月(水) (24)(25)		5月(木) (26)(27)		5月(金) (28)(29)		5月(土) (30)(31)		5月(日) (1)(2)		5月(月) (3)(4)		5月(火) (5)(6)		5月(水) (7)(8)		5月(木) (9)(10)		5月(金) (11)(12)		5月(土) (13)(14)		5月(日) (15)(16)		5月(月) (17)(18)		5月(火) (19)(20)		5月(水) (21)(22)		5月(木) (23)(24)		5月(金) (25)(26)		5月(土) (27)(28)		5月(日) (29)(30)		5月(月) (31)(1)		5月(火) (2)(3)		5月(水) (4)(5)		5月(木) (6)(7)		5月(金) (8)(9)		5月(土) (10)(11)		5月(日) (12)(13)		5月(月) (14)(15)		5月(火) (16)(17)		5月(水) (18)(19)		5月(木) (20)(21)		5月(金) (22)(23)		5月(土) (24)(25)		5月(日) (26)(27)		5月(月) (28)(29)		5月(火) (30)(31)		5月(水) (1)(2)		5月(木) (3)(4)		5月(金) (5)(6)		5月(土) (7)(8)		5月(日) (9)(10)		5月(月) (11)(12)		5月(火) (13)(14)		5月(水) (15)(16)		5月(木) (17)(18)		5月(金) (19)(20)		5月(土) (21)(22)		5月(日) (23)(24)		5月(月) (25)(26)		5月(火) (27)(28)		5月(水) (29)(30)		5月(木) (31)(1)		5月(金) (2)(3)</	
----	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	------------------	--	-------------------	--

① 指導と評価の計画

② 評価の総括表

2年 ②たし算のひっ算…11時間扱い (4月下旬～5月中旬)

[illegible]

(2) 体 育 部

児童のよさや可能性を伸ばす評価の工夫

【学習形態の工夫】

単元による学習形態



ブロック・・・表現 陸上運動
水泳

学年合同・・・ボール運動
器械運動
種目による基本の運動や
ゲーム

学 級・・・体づくり運動
基本の運動
ゲーム
保健

【学習評価の考え方】

- (1) 学習する人の、自己理解や自己評価を支援する。
- (2) 一人一人に応じた指導の手がかりとする。

【観点別の評価】

- (1) 観点の趣旨を理解する。
- (2) 評価規準を設定する。
- (3) 評価の場面や評価の方法を明らかにする。
「いつ」「何を」「どのような方法で」



【児童自身による評価活動の重視】

- 自己評価・相互評価を学習カードや資料を使って内容を工夫する。
 - ・ 運動の特性に応じて
 - ・ 段階や学習の進め方に応じて



運動を共有する仲間とのかかわりを豊かにしていく

友達との教え合い等、協力的な態度や相手を思いやる気持ちを大切にする

[研究資料 体育編]

① 指導と評価の計画

指導と評価の計画 5年 ボール運動・バスケットボール (10時間)

時間	学習のねらいと活動	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1	○学習活動 (オリエンテーション) ・学習のねらいや道すじを知る。 ・グループを組むし、役割分担をする。 ・安全についての約束やマナーについて確認する。 ・学習カードや補助具の活用方法について理解する。 ・学習の進め方を確認する。	【関心・意欲・態度】 ・互いに協力して安全にボールに慣れるための練習ができるようにしようとする。 ・マナーを守って、正しい態度をとうろうとする。 【思考・判断】 ・学習のねらいや道すじを正確に、学習の進め方について大方の見通しをもとうとしている。 【技能】 ・バスケットボールの特性に応じた技能を身につけようとしている。	質問紙 (アンケート) 観察 聞き取り
2			
3	○学習活動	【関心・意欲・態度】 ①友達とバスケットボールを楽しむようとする。 ②役割を分担し、練習やゲームをしようとする。 ③ルールやマナーを守り、勝敗を素直に認めようとする。 ④友達に、教え合ったり、励まし合ったりしながら、練習やゲームをしようとする。	A 規準の具体的な子供の状況
4	ねらい①ルールやチームのメンバーに慣れ、今ある力でいろいろなチームとゲームをする	【思考・判断】 ①チームの特徴を知り、作戦を立てている。 ②ゲームをよりかえり、勝敗の原因を考え、新たな作戦を考えている。 ③作戦に応じた練習の場を選択したり、工夫したりしている。 ④よりゲームが楽しくなるようにルールを工夫している。	学習カード 個人・ チーム用 観察 質問紙 (アンケート)
5	・友達と協力して安全に運動ができるようにするとともに、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。 ・バスケットボールの行い方を知って、ルールを定めてゲームをしたり、相手チームや相手チームの特徴を見つめられるようにする。 ・練習やゲームの仕方を工夫することができるようにする。	【技能】 ①(ねらい①)パスやドリブルをして攻めたり、いろいろな方法で守ることができる。 ②(ねらい②)ボールを受けやすい位置に動き、パスをもらったり、シュートしたりすることができる。	・声を積極的にするなど、チームワークを大切にしている。 ・チームのよさを生かす前向きな発言をしている。 ①・・チームのよさを生かし、相手チームに応じた ②よりかえり、積極的に考えを出し勝敗の原因を考え、作戦がうまくいったか確かめ、新たな・ ③・・工夫したりして計画的に練習している。 ・自分のチームのよさを知り、相手チームに応じた作戦を提案している。 ・作戦に応じた練習をしている。
6	ねらい②チームの課題に向けて練習し、チームのよさを生かした作戦を立て、いろいろなチームとゲームをする。		
7	・バスケットボールの行い方を知って、ルールを定めてゲームをしたり、相手チームや相手チームの特徴を見つめられるようにする。 ・チームや自分の課題を見つけ、解決していくための練習を行うことができるようにする。 ・練習やゲームの仕方を工夫することができるようにする。		
8			
9			
10			

② 学習カード

第5学年 体育
体づくり運動「記録用紙」
一生懸命の運動・体力を高める運動

5年 組
名前

巧みな動き (共通) アップめざして

時間目	2	3	4	5	時間目	6	7	8
種目	試し記の録	めあて	記録	めあて	記録	めあて	記録	めあて
ア 短距離走 10秒								
イ 跳び箱上がりあり								
ウ タッチコーン								
エ ジャンプステップ								

体のやわらかさ (選択) アップめざして

時間目	2	3	4	5	時間目	6	7	8
種目	試し記の録	めあて	記録	めあて	記録	めあて	記録	めあて
ア 前屈玉拾い								
イ リンボーダンス								
ウ ブリッジ								
エ 開脚								

力強い動き (選択) アップめざして

時間目	2	3	4	5	時間目	6	7	8
種目	試し記の録	めあて	記録	めあて	記録	めあて	記録	めあて
ア 腕立て伏せ								
イ タイヤ引き								
ウ タイヤ運び (移動)								
エ 上体起こし								

③ 評価補助簿

体育系(球つ)運動 5-1 その3

時間 6・7・8/8

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	備考
1			○学習活動
2			ねらい②(体づくりの運動)
3			・もっと楽しい体づくりの運動をやってみよう。
4			(体力を高める運動)
5			・自分にあったコースで工夫した動きに挑戦し、体力を高める。
6			○学習活動における具体的評価規準
7			【関心・意欲・態度】
8			①自分の体力に思いをもち、進んで運動に取り組もうとする。
9			A: 進んで体を動かしている。
10			②励まし合ったり力を合わせたりしようとする。
11			A: 互いの体の状態によく気がついている。
12			③場や用具などの安全に気を付けようとする。
13			A: 用具などを進んで確認したり、片付けている。
14			
15			
16			
17			
18			【思考・判断】
19			《体づくりの運動》
20			①体の状態に合った体づくりの行い方をしている。
21			②体の状態を考えている。
22			《体力を高める運動》
23			①自分の体力に応じためあてを立てている。
24			②工夫した動きを考えている。
25			A: より楽しく行える体づくりの行い方や体力を高める工夫した動きを考えている。
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90			
91			
92			
93			
94			
95			
96			
97			
98			
99			
100			

【技能】

①体の柔らかさや巧みな動き、力強い動きや動きを継続する能力を高める運動ができる。

A: よりよい動きができる。(正しい動きが理解できて、どこに効くのか意識している。)

②自分の記録をのびることができる。

A: 自分の記録を大きくのびることができる。

【評価方法】

学習カード(個人)、学習カード(感想用紙)

観察

聞き取り

3 研究の成果と今後の課題

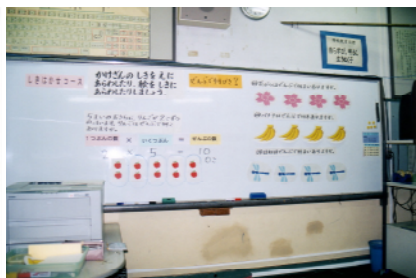
(1) 研究の成果

- 単元計画を立てる際、学習指導要領に示す目標に準拠した評価規準を策定し、評価項目の重点化を行うことにより、指導と評価の一体化が図られるとともに、各時間ごとの指導内容を明確にすることができた。
- 評価規準に従い、日常的に評価活動を行うことにより、児童一人一人の学習状況が把握でき、その実態に応じた柔軟性のある学習指導が展開されるようになった。
- 評価活動の結果をもとに多様な側面から学級の枠を超えた新しい学習集団（習熟度別課題別・興味関心別等）を編成して学習指導にあたることにより、個々の能力・特性を生かせる学習の場を設定することができ、児童一人一人の学習意欲が高まり、主体性のある学習態度を育成することができた。

(2) 今後の課題

- * 日頃から評価活動を行い、それらの評価を数値化して客観的に総括評価を出したにもかかわらず、結果的に「A」（十分満足と判断できる状況）の比率が多過ぎるのではないかという疑問が持ち上がる単元題材が見られた。原因として以下のことが考えられる。
 - ・ 「A」と判断される児童の学習の実現状況の姿がやや具体的でなかった。
 - ・ 総括評価を判定する段階で、「A」と「B」の境界の規定に適正さが欠けていた。これらの点について、今後さらに慎重に検討を重ね、より適正な評価が全学年でできるよう、共通理解の徹底を図りたい。
- * 本校の研究活動においては、指導内容の工夫という点について、これまで基礎・基本の確実な定着を図る補充的な学習の充実に重点が置かれていた。今後は、比較的理解力の高い児童にも目を向け応用的・発展的な学習の充実に力を注いでいきたい。
- * 低・中・高学年それぞれにおいて、自分にふさわしい学習の場の選択ができていない児童が見られた。自己評価・相互評価の場を指導過程の中に適切に設け、日頃から自己評価力の向上を図っていく必要がある。

教育活動アラカルト



「自ら考え、すすんで学習する児童の育成」

問題解決能力の育成を中心にして

川越市立今成小学校

研究のポイント

- 生活科・総合的な学習の時間（たんQタイム）の授業を中心に研究を進める。
- 地域の特色を生かし、興味・関心・意欲に基づく多様な学習単元を開発する。
- 児童の思いや願いを大切に、地域での体験的な活動を重視する。
- 問題解決能力を育てる学習過程を工夫し、それに即した適切な支援に努める。
- 目標・指導と評価の一体化を図るため、単元ごとの評価規準の作成、評価計画（評価方法・評価の視点）などを作成する。
- 具体的な評価方法（補助簿の活用・自己評価カード等を工夫し、目標・指導（支援）と支援の一体化をさらに進める。
- 総合的な学習の時間と他教科との関連を重視し、相互にそれぞれが深められるように工夫する。
- 問題解決能力の育成の視点から、総合的な学習の時間と生活科との関連を考え、より充実した問題解決ができるよう実践に努める。

1 研究の概要

（1）研究のねらい

研究の対象を「生活科・総合的な学習の時間（たんQタイム）」にしたのは、総合的な学習のねらいが、「自ら課題を見つけ、自ら学び自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。さらに、学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができる児童の育成にある。」（小学校学習要領総則編第1章第3の2）また、「総合的な学習の時間」と「生活科」との関連も深く、生活科が「児童の具体的な活動や体験を重視し、児童が自分の思いや願いを生かし、主体的に活動ができるようにする。」（学習指導要領生活編生活科改訂の趣旨）ことを、その目標の背景としている。この2つのねらいの達成を通して、本校児童の実態を改善しようと考えた。

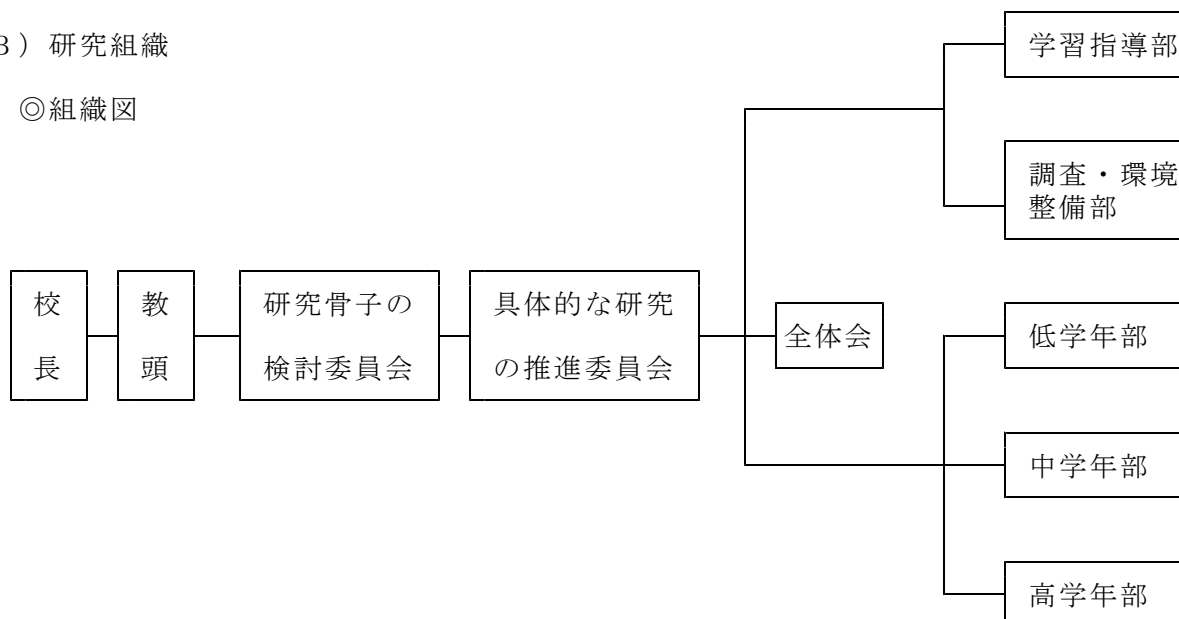
（2）研究主題設定の理由

本校児童は、恵まれた自然とあたたかな地域社会とのかかわり合いの中で、のびのびと育っている。しかし、自立して生きることに必要な自分の考えを主張したり、主体的に判断したりする能力や態度が十分でない面が見られる。

そこで、学校教育目標を「自主性を持ち21世紀を心豊かにたくましく生きる児童の育成」と決め、その実現のために「自ら考え、すすんで学習する児童」を育てるために「生活科・総合的な学習の時間」を研究の中心に据えた。

（3）研究組織

◎組織図



◎主な活動

☆学習指導部

- ・単元開発／学習指導案の形式作成／年間指導計画の作成
- ・学習過程／支援の在り方／評価規準の作成／評価簿の作成

☆調査環境整備部

- ・地域題材の発掘と収集／地域人材リストづくりと募集
- ・児童の実態把握（調査・分析・考察）／保護者、地域への啓発活動

☆学年ブロック

- ・単元計画の作成・改善
- ・学習指導案づくり

2 研究の内容

（１）生活科・総合的な学習の時間（たんＱタイム）単元一覧表

	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
1 年	ともだちいっぱい 21 時間		あそびにこ うよ 12時間	いきもの だいすき 15時間	はっぱのいろが かわったよ 2 0 時間	みんな、みんな だいすきだよ 2 2 時間		もうすぐ 2ねんせい 1 2 時間			
2 年	おしえて あげるよ 3時間	ぼうけんはっけん町た んけん 15時間	生きものと もだち 13時間	町となか よし 19時間	むかしのあそび をたのしもう 16時間	みんなでつくろ う、フェスティ バル13時間		あしたへ、ジャンプ 2 7 時間			
3 年	今成よいところ見つけ隊 (地域) 5 0 時間				外国のよさを取り入れて今よりもゆたかに (国際理解) 4 7 時間						
4 年	入間川大発見 (環境) 4 5 時間				ボランティアにトライ (福祉) 5 2 時間						
5 年	我がまち川越 (地域) 5 2 時間				未来に向け地球を救おう (環境) 5 0 時間						
6 年	かがやけ！みんなのいのち (いのち) 5 0 時間				世界の国と手をつなごう (国際理解) 5 2 時間						
全 学 年	『国際理解教育』 ・担任とA E Tによる学習。第 1、2 学年の国際理解教育は特別活動として扱う。 8 時間										

(2) 問題解決能力を育てる基本的な学習過程

①学習過程の考え方

総合的な学習の時間	○問題解決能力の育成が、総合的な学習の時間で育てる能力の中核である。 ○問題解決能力の獲得は、問題を解決する仕方を獲得することである。 ○問題解決の仕方は、問題をとらえることから問題を解決するまでの一連の思考活動や具体的な行動（体験）を意味する。 ○問題解決のための一連の思考活動や具体的な行動（体験）をたどることによって問題解決能力を獲得できる。
生活科	○学習目的を確かにして、問題解決にふさわしい学習過程を組む。

②それぞれの学習過程

総合的な学習の時間			生活科		
学習過程	内容	児童の主な活動	学習過程	内容	児童の主な活動
題材にふれる	問題意識の醸成 題材の認知	・題材に関する様々な体験、知識などについて話し合う。 ・興味を持った題材について調査活動をする。 ・個人・グループ共通のテーマを話し合う。	題材にふれる	意欲の醸成 題材の認知 問題意識に立つ 学習内容の確立	・題材にふれる体験をする。 ・題材に関係することを調べる。 ・活動を企画・相談する。
問題をつかむ	問題の確立 問題文の表記	・テーマの達成を目指すために解決したい問題を考える。 ・共通の問題を持つ人とグループを組み、グループとしての問題を明確にする。			
課題をとらえる	問題解決のための課題の検討と確立	・グループの問題をもとに個人で課題を考える。 ・個人で考えた課題を発表しあう。 ・グループの課題を発表し合い、自分達の課題を確かにする。	課題に取り組む	問題意識に立つ 学習内容に沿った体験活動の実践	・活動の計画を立て、準備する。 ・計画に即して活動する。 (調査、飼育・栽培、観察、校外学習、制作、交流、表現活動)
課題に取り組む	課題に取り組む計画の作成と実践	・課題に取り組む計画を立てる。 ・計画に即して課題に取り組む。 ・中間発表をして、活動を見直す。			
学習をふり返る	学習の成果と新たな課題のまとめ 発表方法の検討	・取材内容をまとめ、発表方法をグループで話し合う。 ・話し合いをもとに効果的な方法でまとめる。	生活に生かす	表現活動 学習発表会 自己改善の意識	・学習を振り返り、表現する。 ・学習したことをまとめ、紹介しあう。 ・互いのグループの発表会を見合う。
成果をあらわす	表現活動（学習発表会）	・発表会のために必要な準備や役割分担を話し合い、練習する。 ・互いのグループの発表会を通して学びあう。			
自己を見つめる	具体的な行動意識 生活に生かす自覚	・活動を振り返り、自分達の生活への生かし方を話し合う。 ・結果を文書にまとめ、活動の計画を立てる。取材先やお世話になった方々に成果を持ってお礼に行く。			

(3) 児童の主体的活動を支える支援

①支援のとらえ方

支援とは、児童の主体性を尊重し、児童の求めることに応じて、児童の活動を促し、気付いたりして児童の学習を充実させる教師のはたらきかけ

支援の中心になる教師の言葉かけは、児童に質問したり、確認したり、共感したり、励ましたり、示唆したりする対応を基本とする。

②学習過程に即した具体的な支援のしかた

総合的な学習の時間			生活科	
学習過程	・具体的な支援	○具体的な言葉かけ例	学習過程	・具体的な支援 ○具体的な言葉かけ例
題材にふれる	- 単元の題材にたくさんふれる機会を設ける。 (学習に入る前から何気なくふれておく) - 単元への導入段階や他教科、領域の学習の中などで、題材にふれる。 - よい感想や疑問を話し合いの中で広げていく。	[話題の提示後] ○どんなことを思いましたか。 ○何か気になることがありましたか。 ○それは、よいことに気がついたね。 [題材設定の場合] ○今、みんなからいろいろと言ってもらった思いや願いを、簡単に言うと何についてなの ○もう少し考えて、よい言葉で言えないかな。 ○～(題材)と自分の考えを合わせて、自分としては、もっとこのようにしたいと思うようなことは何かあるかな。	題材にふれる	- 題材と多面的な出会いができるようにする。 - 具体物を用意し、やってみたいという意欲を高める。 ○よく気がついたね。 ○いいこと知っているね。 ○～さんのものももしろいね。 ○こんなこともできるね。 - 児童のつぶやきや児童が持ち込んだ物を大切にし、話題にする。
問題をつかむ	教師が教えるのではなく、学んでいる児童自身が聞きにくることを大前提とし、即時には直接指導しないで示唆することにしていく。	[児童に確認させる場合] ○何を知りたいの。 ○何ができるようになりたいの。 ○それを知ってどうしたいの。 [児童に再考を促す場合] ○この問題は本当にやりたいことなの。		

(4) 目標・指導(支援)と評価の一体化

「総合的な学習の時間」の評価とは、児童が主体的に学習活動に取り組むために、児童一人一人の思いや願いを理解し、よりよく問題を解決しようとする力・生きる力を育成するために必要とするものでなければならない。そこで、本校では「めざす児童像」の4観点を評価の観点とし、各単元ごとに観点別評価基準を作成した。

①「単元の評価基準」と『学習過程における観点別評価基準と評価の視点』

(例) 3年「今成よいとこ見つけ隊」

○単元の評価基準

関心・意欲・態度	問題解決の力	自己・共生	コミュニケーション能力
地域の特色やよさに関心を持ち、問題解決に向けて自ら課題を見つけ、その追究に意欲的に取り組もうとしている。	地域の特色や良さに気づき、それらを改善したりさらによりよくしたりするために、自分なりの方法で課題に取り組み問題を解決できる。	友達と協力しながら、地域の人たちと積極的に関わり、地域のよさを守っていこうという気持ちを持ち実践することができる。	話し合い活動や地域の人との関わりを通して、相手のよさを認め、自分の考えを深め、相手にわかるように表現できる。

○単元の評価規準

段階	関心・意欲・態度	問題解決の力	自己・共生	コミュニケーション能力
題材にふれる	○地域の特色やよさについて興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 ☆地域の調査・探求活動でいろいろなところに目を向け、地域の特色やよさについて意欲的にふれようとしているか。(行動観察・ワークシート)	○身近な自然や文化・地域の人との関わりを通して自分の夢や希望を持つことができる。 ☆「もっとこうしてみたい・もっとこうできるようになりたい」という自分の思いが表れた学習のテーマを書くことができたか。(ワークシート)		
問題をつかむ	○地域のよさをもっと広めたり、地域を住みよい町にするためにはどうしたらよいか、解決したい問題を意欲的につかもうとしている。 ☆地域のよいところをくわしく知り、それを多くの人に伝えるためにどうしたらよいか考え、解決したい問題をつかもうとしているか。(行動観察・ワークシート)	○地域を住みよい町にするにはどうしたらよいか、自分の問題としてとらえることができる。 ☆(例)生きものがたくさんすんでいる自然がいっぱいのこの地域の良さを広めるためにはどうしたらよいのだろうという問題をつかむことができたか。(ワークシート・面談)	○自分たちの生活と地域の関わりについて考えることができる。 ☆教師の支援を受けながら、地域に対する自分の思いや願いをはっきりさせ、文に書くことができたか。(ワークシート)	○地域や身近な自然・社会・文化に対する意識を広げるため、解決したい問題を友達と話し合いながらつかむことができる。 ☆テーマに向けて解決したい問題を友達と話し合いながらつかむことができたか。(行動観察・ワークシート)

(5) 支援の例

①行動観察の記録簿例

問題解決の力

	ふ れ る			つ か む		とらえる
	10 / 3	10 / 8	10 / 10	10 / 17	10 / 21	10 / 24
○○○				◎目の不自由な人も楽に買い物ができるようになってほしいという思いで問題をつかんだ。		○
△△△	◎ボランティア活動がしたいという思いから自分にもできるボランティアについて調べることができた。			◎ボランティアをやって困っている人を助けてほしいという思いから問題をつかむことができた。		○
◇◇◇	◎自分たちと同じように、障害のある人も得意なことや楽しさを持ち、進んで社会に出て行こうとしていることに気づいた。			◎耳の不自由な人にとって大切な手話を覚えてぜひ友達になりたいという思いで問題をつかんだ。		○どこで、どんな活動をしたら自分達の問題を解決できるのか考えることができた。

②努力を要する子どもへの支援例

3年「今成よいとこ見つけ隊」

- 目標
- ・グループで確かにした問題に対して、どうやれば解決できるのか考え、自分たちの取り組む課題を考えることができる。（問題解決の力）
 - ・グループの課題を考えるために、自分の考えをわかりやすく話し、友達と自分の考えの共通点や相違点を確かにして協力的に話し合うことができる。（コミュニケーション能力）
 - ・自分の考えとちがう友達の意見について考え、自分の考えをはっきりと確かにすることができる。（自己・共生）

時間	活動の内容	・ 具体的な支援☆評価の視点（◎十分満足できる ○おおむね満足できる △努力を要する ◇努力を要すると判断された子どもへの支援）	資料形態
5	1、本時の活動を 確認する。	【活動場所・教室】 ・グループの問題を話し合った時の様子を思い出せるようにする。 ・要点を押さえた指示で活動の目標と内容を確認する。	グループ
25	2、グループごとに話し合いながら、自分たちの取り組む課題を考え、記録する。	・問題を解決するためには、どのような活動が必要なのか、課題に取り組んでどうしたいのか話し合えるようにする。 ・具体的な支援の言葉 「なにを調べるの?」「それで～できるかな?」「これでわかるかな?」「他にも方法はあるかな?」 ☆問題を解決するために必要な活動を友達と話し合いながら決めることができたか。 [コ] ☆問題解決にとって適切な課題が考えられていたか。 [問] 問題解決の力（話し合いの発言内容・ワークシートの記述内容） ◎今成のよいところをもっとよく知るための課題や多くの人に知らせるための課題を考えているか。 ○今成のよいところを多くの人に知らせるというテーマに関わった課題を考えているか。 ◇どのような方法で調べるとわかるのか、多くの人に伝えるにはどんな方法があるのか助言する。 コミュニケーション能力（行動観察・話し合いの発言内容） ◎自分の考えた課題をわかりやすく話し、友達と自分の考えの共通点だけでなく相違点も考えながら話し合いをしているか。 ○自分の考えた課題をわかりやすく話し、友達と自分の考えの共通点を考えながら話し合いをしているか。 ◇自分の考えを話したり友達の考えを聞いてどう思ったか話せるよう励ます。	ワークシート 記録用紙

3 成果と課題

(1) 成果

- ・児童の問題解決能力の育成のための基本的な学習過程をくり返し経験してきた結果、児童の問題解決能力はしだいに身に付いてきている。
- ・学習過程の段階ごとに4つの観点（生活科は5つの観点）で目標に準拠した評価規準・評価方法・評価の視点を設定したことにより、個を生かした評価や次の指導に生きる評価ができるようになった。
- ・児童の主体的な活動を支える「支援」のとらえ方を確認しあい、より効果的な支援に取り組み、児童の問題解決能力の育成を図りつつある。

(2) 課題

- ・児童が活動をふり返り、活動の目標が達成できたか、活動を通して満足感が得られたか、新たな発見があったか、友達と学びあいができたかを評価できる自己評価の方法をさらに研究していく。
- ・児童の問題意識を高めたり主体的な取り組みをさらに促すため、学習に入る以前に、単元計画に関係するような話題や掲示物・疑問の投げかけをして、児童がもっと知りたいという興味・関心を持って学習に入れるように準備していく。

「自ら学ぶ力を育てる教育課程の研究」

－確かな学びを育む学習活動を通して－

川越市立霞ヶ関北小学校

研究のポイント

- 「自ら考える」子どもの姿を明らかにし、その実現に向けて、国語、社会、算数、生活、総合的な学習の時間において、指導と評価の在り方を工夫した学習指導を展開する。
- 基礎・基本の確実な定着や学び方を学ぶ学習を通して、子ども一人一人に確かな学びを育む学習指導を展開する。
- 本校の特色ある施設設備を積極的に活用して、新しい授業を創造する。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

本校は、平成 14 年度に公民館と図書館を併設して移転開校した学校である。また、十分なゆとりスペースや情報機器等の充実を期した学校でもあり、多様な学習活動を展開するには格好な施設設備を有している。そのため、移転当初より、これらの教育環境を十二分に生かすと共に、地域に根ざした学社融合を図る教育活動を積極的に推進してきた。

この他校にないオープンスペース等を有効に活用するため、昨年度は、研究の副題を「**オープンスペースの活用を通して**」と設定し研究を推進した。これは、各学年やペア学級の創意工夫を重点に、授業公開や実践発表会を通して、特色ある教育活動の実践に向けたものであった。

そこで、研究 2 年目の本年度は、研究の視点を「**確かな学びを育む学習活動を通して**」に改め、今日的な課題である基礎基本の確実な習得や学び方の学習を通して、「確かな学び」を育み、この「確かな学び」が一人一人の児童の自己実現を図ることを研究のねらいとした。

(2) 研究主題設定理由

平成 14 年度から新しい学習指導要領が全面実施となり、各学校ではゆとりの中で、地域や学校、児童の実態をふまえた「特色ある教育活動」を展開し、子どもたちに豊かな人間性と基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える能力や態度を育むことが求められている。また、変化の激しいこれからの社会を子どもがたくましく心豊かに生き抜くためには、生きる力の基本となる「自ら学ぶ力」の育成が必要である。この「自ら学ぶ力」を本校では、

○子どもたちが、学習に対して興味や関心をもって取り組み、新しい課題に立ち向かって追究したり解決したりするなど、自らの意志で学習活動を進めていく基となるもの

○生活や学習に生きてはたらく基となるもの

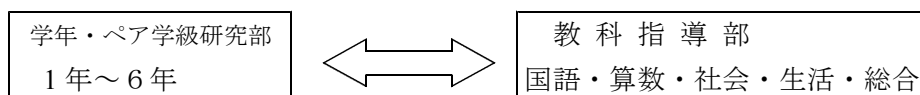
ととらえ、一人一人のよさや主体性を生かす教育を目指している。しかも、本校は、昨年度県下初の図書館・公民館との複合施設、川越市内初のオープンスペースのある学校として移転開校した。そこで、本校の施設設備を活用を図り、生きる力の育成を目指して、本研究主題を設定した。

(3) 確かな学びについて

本校では学びを「**自らが主体となって活動する創造的な営み**」にとらえた。下欄のこの学びを確かなものにするために、本校の施設・設備及び地域等の学びを育む場を効果的に活用し、子どもたちへの4つの支援（**関心・意欲・態度の育成、基礎・基本の習得、学び方の習得、個性の伸長**）に視点をあて、自ら学ぶ力を育てるようにした。そして、この学びを増幅させていくことにより、本研究主題である「**自ら学ぶ力**」が子どもたちに次第に身に付き、その結果一人一人が自己実現を図り生涯にわたって学び続ける子どもたちを育てることにつながる考えた。



(4) 研究組織



教科指導部の研究を学年実践に反映させ、日々の学習の向上に結びつけていくことができるように、各学年の職員がそれぞれ教科指導部に所属し、学年・ペア学級との連絡を図るようにする。

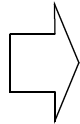
2 研究内容

(1) 研究の方向性

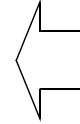
本校の特色ある学びの場を効果的に活用し、目指す子どもの姿の実現に向けて、国語、社会、算数、生活、総合的な学習の時間において、指導と評価の在り方を工夫した確かな学びを育む学習活動を繰り返し行い、授業を創造していく。

(2) グランドデザイン

今日的な
教育課題



学校教育目標
心豊かなたくましい子
かしこく・きよく・たくましく



子ども
の実態

目指す子どもの姿

- ①自分の課題をもち、学習にかかわろうとする子
- ②見通しをもって学習を進め、ねばり強く課題を追究する子
- ③身に付けた知識や技能を知恵として生かすことのできる子
- ④友だちや地域とふれあいながら、考え方や生き方を学ぶ子

具体的な子どもの姿

低 学 年

- ・課題に興味・関心をもつことができる。
- ・体験から自分の思いや考えをもつことができる。
- ・自分の思いや考えをわかりやすく伝えることができる。

中 学 年

- ・自分の課題をもつことができる。
- ・自分の考えを比較しながら聞くことができる。
- ・課題に対して詳しく調べたりわかりやすく表現したりすることができる。

高 学 年

- ・自分の課題を設定することができる。
- ・他者の考えのよさを認め高めあうことができる。
- ・新たな課題を見いだしたり身に付けた知恵を生活に生かそうとしたりすることができる。

研 究 主 題

自ら学ぶ力を育てる教育課程の研究

－確かな学びを育む学習活動を通して－

研 究 仮 説

1 単位時間の学習過程において、確かな学びを育むために子どもへの支援を次のようにすれば自ら学ぶ力が育つであろう。

○知的好奇心を高める学習材（教材）を提示し、関心・意欲・態度の育成を図る。

・子どもの実態を把握し、次への指導に生かす。

○少人数指導により、習熟度別や興味・関心別コースを設定し、基礎・基本の徹底を図る

・個に応じた指導を推進する

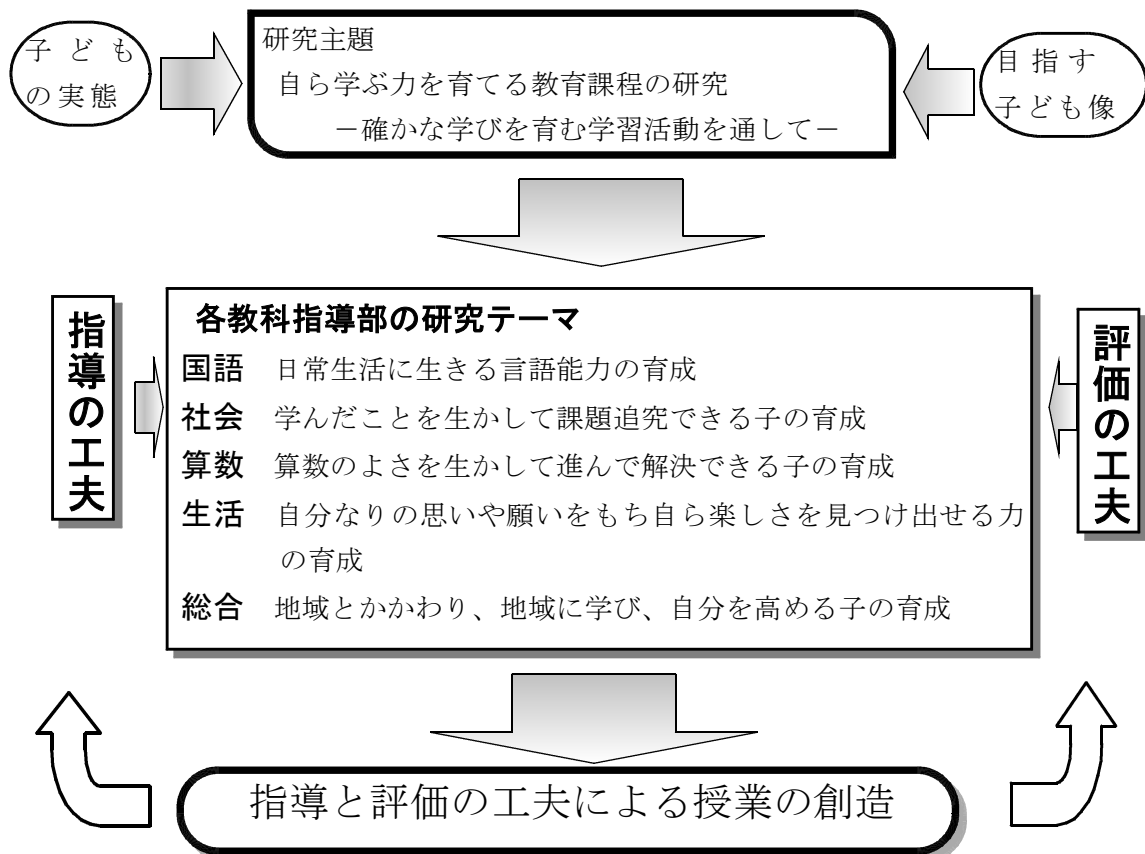
○問題解決的な学習を通して学び方を学べるようにする。

・学びの筋道を拓くことができるようにする。

○オープンスペースの環境の中で、その子のよさを見つけ個性の伸長を図る。

・多様な視点で子どものよさや可能性を見いだすようにする。

3 実践事例



(1) 国語指導部

○教材研究と児童の実態把握により、学年、学級、個に応じた学習内容を明確にしていく。

- ・それぞれの教材の特性を把握し、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことのどこに指導の重点を置くかはっきりさせ、学習内容を決定する。

○個に応じた学習課題を設定することにより、学習の意欲を喚起する。

- ・個人の課題を持つことにより、課題追究の意欲を高める。
- ・共通の課題や異なった課題について意見を交流することにより、新たな発見や気づきを経験し、その喜びを実感することで次の学習への意欲を高める。

○子どもが主体的に学習に取り組むために、学習過程、学習形態を工夫する。

- ・国語科における学習スタイル別コース（少人数指導・習熟度別・興味関心別等）のよさを見だし、子どもの実態や、教材の特性にあった学習過程や学習形態を工夫し、子どもが主体的に取り組む国語科授業をつくる。

【第5学年 わらぐつの中の神様】

一人一人が意欲的に学習が進め、読み取りの力を高めるよう習熟の程度に応じた学習スタイル別学習

A チャレンジの神様コース 自分は、何をどのように読んでまとめるかを決めて一人読みをする	B ふれあいコース 自分で課題を決めてワークシートを使って一人読みをする	C レッツ協力コース 自分で課題を決めてワークシートに沿って学習方法を学びながら読み進める
--	--	---

(2) 社会科指導部

○学びの観点を明らかにし、自ら課題をもち、意欲的に取り組めるような学習問題や学習場面を開発する。

○資料の精選をしながらも、図書やインターネットなどを活用し、興味をもって調べられるよう工夫する。

【第3学年 わたしたちのまち】

地域教材を生かした自作教材ビデオを作り活用し、子どもたちが身近な問題として興味をもち学習できるようにする。

【第6学年 明治維新をつくりあげた人々】

インターネットでの調べ学習では、「おすすめリンク集」で、子ども達が調べる内容に適切と思われるものを示し、検索時間の短縮を図る。

○一人一人の学びのよさを生かし、共に高め合えるような場を設定する。

(3) 算数指導部

○意欲を喚起するような学習素材や場面の開発をする。

・子どもの生活に関連し、既習事項を生かした多様な考えが引き出せる問題を工夫する

○一人一人の考えのよさを生かし、子ども相互でつくりあげる場を工夫する。

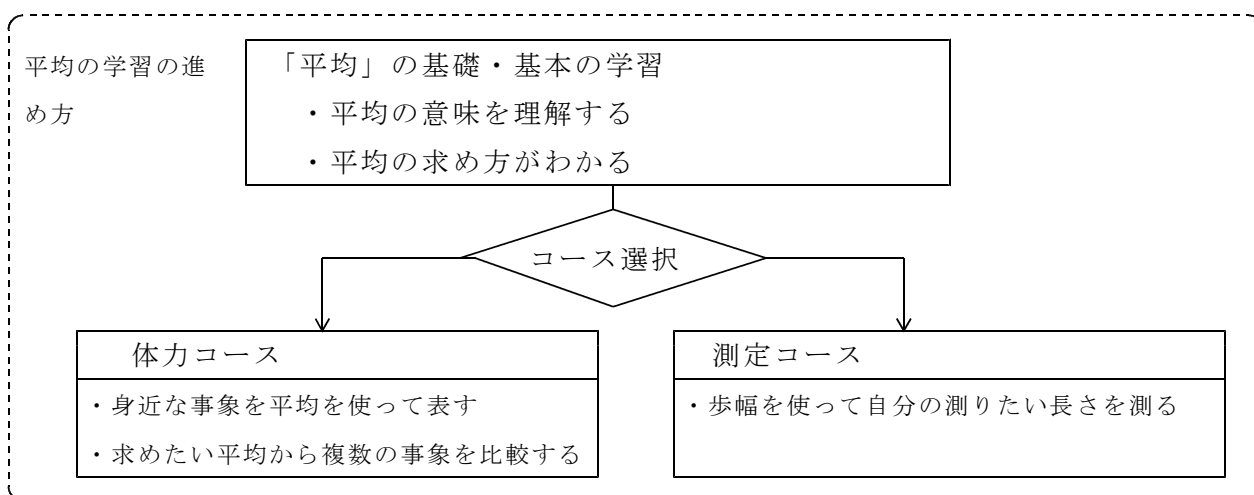
・具体物や半具体物、線分図等を使い自分なりの考えで解決できるよう個に応じた支援を工夫する。

・オープンスペースを活用して子どもたち自身が積極的に関わる学び合いの場を設定し、考えを深めたり、よさを感じることができるようにする。

○一人一人の学びに応じたコース別学習により、算数を学ぶ楽しさを味わえるようにする。

・単元の指導計画を見直し、少人数指導やT Tを取り入れ、習熟の程度や興味・関心等、個に応じたコース別学習を展開する。

【第6学年 平均】



(4) 生活指導部

○繰り返しの体験を取り入れ、子どもの活動が発展し、気づきが深まるようにする。

・活動後に子ども自らが「みつけたよカード」の記入等を通して自分自身を振り返り、自分が楽しんだ活動の中にいろいろな気づきを自覚していくようにする。

○子どもが課題をもち、活動に没頭できるような場をつくり出すようにする。

- ・オープンスペースを利用して、ペア学級等で学習することで、子ども同士が活動の様子を見合いながら、自ら考えて判断していくようにする。

○地域から学ぶことを重視し、人と積極的にかかわろうとする態度を育てていくようにする。

- ・様々な世代の人とふれあい、教えてもらったり教えてあげたりすることで、子どもが人と進んでかかわろうとする気持ちをもてるようにする。
- ・いろいろな立場の人と交流することで、子どものコミュニケーション能力を育て、楽しく活動していけるようにする。

(6) 総合的な学習の時間指導部

○自らの学習課題を見つけることができるように、地域の自然や人々とのかかわりを通した多様な共通体験を行っていく。

- ・フィールドワークの実施、ゲストティーチャーの招聘、地域の施設との連携等で共通体験を充実させ、子どもたちの問題意識を高める。

○主体的に学習を進められるように、活動の過程を振り返ったり、新たな発見を確認したりする場を設ける。

- ・自己の学びを確かにしていくために、自己評価を行い、活動の過程を振り返ったり、新たな発見を確認したりする。

○学習成果を日常生活に生かせるように、多様な方法を用いて発信する場を設ける。

- ・学習成果を明確に主張できるように、はっきりとした目的意識・相手意識をもたせ、表現の方法や仕方を工夫して発表できるようにする。

○意欲的に課題を追究できるように、支援の工夫をする。

- ・ポートフォリオを活用することによって子どもの学習状況を把握し、個人・グループへの意図的・計画的な支援を行う。

4 研究の成果と課題

- 子どもの発達段階を考慮し、身近な素材や体験活動を取り入れたり、具体物や関連教材の提示を行ったりすることにより、学習への関心・意欲を高め、より学びを楽しくさせるものとなった。
- コース別学習や少人数指導を行い一人一人の支援を充実したことにより、子どもたちは自分の関心や力に応じて取り組もうとする主体性が身に付いてきた。
- 問題解決的な学習を経験することにより、課題を解決するための学習方法が身に付き、次への新たな学びとなって学習を進めることができるようになった。
- オープンスペースを活用しペア学級で活動することにより、子どもの相互評価がより広い範囲で行うことができるとともに、教師の多くの目で多様な子どものよさを見取ることが可能となった。
- 指導と評価の視点を明確にして指導するためには、各教科等の目標及び内容を確認し、より深い教材研究が必要である。特に、子どもの様々な考えを引き出し、些細な発見を認めて考える楽しさを味わわせるためにも、教材研究をさら深めていきたい。
- コース別学習では、子ども自身の自己評価力を高めていく必要がある。また、学習活動の過程での評価を適切に行い、個に応じたきめ細かな支援が一層必要である。
- 子どもの活動に応じた教材・教具を整備するとともに、図書館・公民館との融合を図り、より一層特色のある教育課程の編成が必要である。

「一人一人の学びを大切にする算数科指導」

川越市立泉小学校

研究のポイント

- 児童の実態と教材の価値の分析により、基礎的・基本的な学習内容を重点化し、指導計画へ位置づけ、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ノート指導及び板書の工夫することで、問題解決の基本的な学習過程（学び方）を確実に身に付ける。
- 一人一人の考えを生かした話し合いで、発問を工夫することにより、数学的な考え方のよさや生かし方を知り、使えるようにする。
- 児童の実態に基づいて、少人数やT Tの形態を生かした指導計画、評価計画を作成する。
- 一人一人の学びに応じた、効果的なコース別学習をデザインする。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

本校では、学力低下が懸念される今日、基礎・基本の確実な定着や学習意欲の向上を目指し、「確かな学力」をつけるために、算数科を中心として研究することにした。

本年度は、「一人一人の学びを大切にする算数科指導」を研究主題として、①基礎・基本の確実な定着を図る方法を見出す②問題解決を通して、数学的な考え方を育てる③一人一人の学びに応じることのできる学習形態を見出す の3点を研究のねらいとした。

(2) 研究主題設定の理由

① 学校教育目標の具現化の視点から

本校の学校教育目標は次の通りである。

明るくたくましく心豊かな子・・・よく学ぶ子・助け合う子・がんばりぬく子

今年度は、「分かる授業」を追究し、基礎基本の定着や自ら学び、自ら考える力をつけることを重点目標の一つとし、自分らしい生き方のできる人間の育成を目指している。

② 今日的な課題から

確かな学力の向上のための2002アピール（H14）より

- ・きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付けること。
- ・確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進すること。

算数科学習指導要領のねらいより

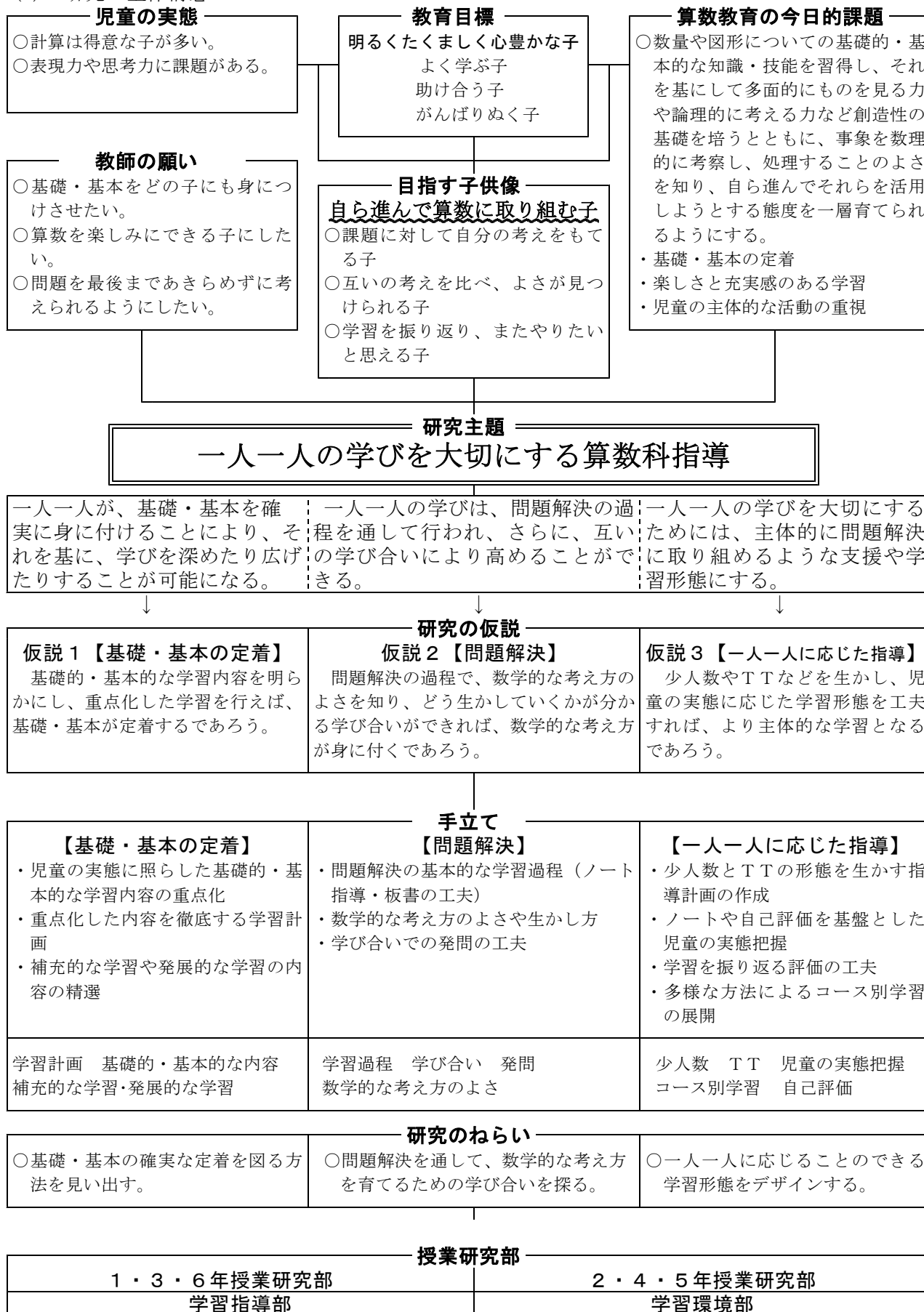
- ・ゆとりの中での基礎・基本の定着
- ・楽しさと充実感のある学習
- ・児童の主体的な活動の重視

③ 児童の実態から

本校の児童は、素直で明るく、思いやりのある子が多い。学習面では、各種調査等の結果では、標準的ではあるが、個別に見るならば、知識技能面の個人差が大きい。加えて、表現力の育成やねばり強さ、学習意欲の向上も課題である。

2 研究の内容

(1) 研究の全体構想



(2) 各専門部の主な取組

① 学習指導部

- ア 基礎・基本の洗い出しと指導計画の作成
- イ 問題解決学習の学習の流れ
- ウ 練り上げでの発問の検討
- エ コース別学習の類型化
- オ 評価の在り方の検討

② 学習環境部

- ア 児童の実態調査と考察
- イ 指導案等のデータベース化
- ウ 算数コーナーの設置

3 実践事例

(1) 第2学年「かけ算(2)」 平成15年12月9日(火)実施

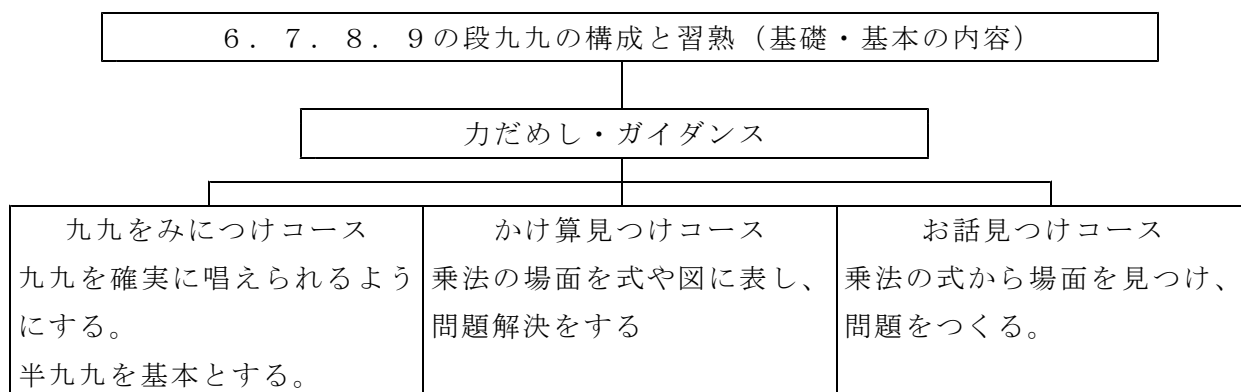
ア 本指導での提案

- ① 本単元の基礎的・基本的な学習内容を**乗法九九を唱える・乗法の意味を理解する・乗法九九を構成する**とし、重点化した指導を行う。
- ② 児童自ら乗法九九を活用した問題解決を通して、既習を基に考えようとする能力を育成する。
- ③ 単元の後半で、一人一人の興味・関心、習熟に応じたコース別の学習を行い、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、発達段階に応じた自己評価能力を育てる。

イ 授業構想図

<基礎・基本>

乗法九九を唱える(半九九)・乗法の意味を理解する・乗法九九を構成する



ウ 仮説の検証に関わって

(ア) 基礎・基本の確実な定着

☆乗法九九を唱えられるようにするために

→交換法則を用いて、半九九でいえるようにする。

→コース別学習で、一人一人のつまずきを把握し、適切な支援を行う。

☆かけ算の意味の理解を深めるために

→事象(場面)が特別な状態になっていることを表現する方法として、かけ算を活用でき

るようにする。

→問題作りを通して、かけ算の場面を自分の言葉でとらえられるようにする。

→図から式を見付け、問題を作る。

→九九を超える範囲の計算 (12×7) の解決をする。

→他の演算場面も混ぜた問題解決をする。

☆乗法九九を自ら構成できるようにするために

→六の段の九九から、乗法に関して成り立つ性質として、乗数が1増えると積は被乗分増えるだけでなく、既習の九九を用い、計算のきまり（交換法則、結合法則、分配法則）を使って九九を構成する。

→アレイ図による表現ができるようにする。

→図から式を作ったり、式から図を作ったり、答えから式や図を作る活動をする。

(イ) 問題解決学習について

4月より、問題と課題を明確にし、自力解決できる子どもの育成を目指して取り組んできた。まず、**ノート指導を工夫し、問題と課題を書いてから、自力解決を行った。**その結果、毎時の課題を理解し、ノートに自分の考えを書ける子どもが多くなってきた。

また、話し合いの場面では、小黒板等を活用して自分の考えを発表したり、友達の考えをよく聞いたりできるように支援してきた。話し合いにだいたい慣れ、友達の考えのよさに気付けるように少しずつなっている。しかし、発表者や質問者が特定の子どもになってしまうこともある。

本時は、コース別学習内での問題解決である。かけ算見つけコースやお話見つけコースでは、数学的な考えを身に付けさせるための話し合いを行えるようにする。

(ウ) 一人一人に応じた指導について

第2学年は、通常は、担任1名による、一斉指導を行っている。少人数指導加配教員が入ったTTや少人数指導は、週1回程度行ってきた。一人一人への個別指導を机間指導で行っているが、習熟の程度などに応じた指導を十分できているとは言い切れない。TTでは、T1やT2が、できるだけ、理解の遅い子どもへの支援に当たれるようにしている。また、習熟の時間には、教室内コース別で、支援をしたり補充をしたりしている。理解の早い子どもへも、問題作りなどの課題を提示し、理解を深められるように工夫してきた。

本単元では、単元の前半は一斉指導による学び合いで、一人一人の考えを出し合って、お互いに高め合えるようにした。その際、自力解決時の小集団指導などを取り入れることで、理解の進まない子へ対応する。また、多様な考えをできるように助言することで、理解の早い子は、理解を深められるようにする。単元の後半では、子どもたちが興味・関心をもって、理解を補充したり深めたりできるように、コース別学習を行う。低学年では、コースの選択に十分慣れていないが、この時期から、少しずつこのような経験をさせていくことは、これからの学習の学び方の基礎・基本にもなる。

☆一斉指導（TTを含む）では

→自力解決時の支援計画を明確にしておく。

→毎時、観察・ノート等による評価や自己評価を行い、次時の支援に役立てる。

☆コース別学習では

→コース毎の子どもの実態を事前に力試しの結果や担任との情報交換で把握する。

→コース毎の支援計画を立てておく。

→適切にコースを選択できない児童へは、コース変更を勧める。

→自己評価と相互評価を行い、支援に役立てる。

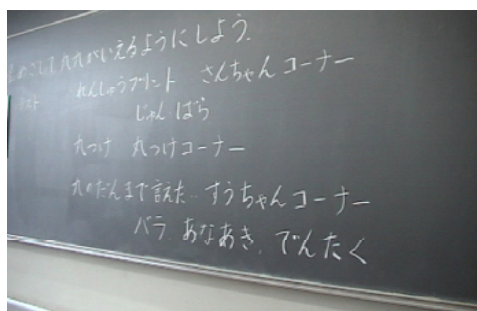
エ 授業の実際

＜九九みにつけコース＞基礎・基本：乗法九九を確実に唱えられるようにする。

T 九九星目指して九九が言えるようにしよう。

C （自分のめあてにそって、各自進める）

C プリントで練習、答え合わせ、九九を唱える練習、テストを受ける等



C あと4個で合格だ。

C 7の段合格したよ（うれしそうにいつている）

C 反対でやればできるよ。

C こんなにやったよ。

T 今日、ロケットが進んだ人？

C ほとんどの子が手を挙げる。

・16名中10名が、9の段まで合格した

・自分の目当てがわかり活動をしていたので、満足感や達成感を味わえた

＜かけ算見つけコース＞基礎・基本：乗法九九の構成について理解を深める

T 答えが□になる式を作ろう。

T □が24になる式を図を使って考えよう。

C 1×24 があるよ

C 6×4 （6が4こだよ）

T 一生懸命考えたね。説明してもらおうよ。

C 縦に8個横に3個で 8×3 です。

C 分けたし作戦で、 $4 \times 3 + 4 \times 3$

C $5 \times 6 - 2 \times 3$ でもできました。

T 気づいたことはありますか。

C 式は全部違うけど、答えは同じです。

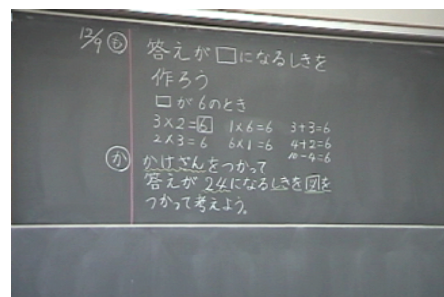
C 九九にない式だけどできた。

T 分かったことや感想をまとめましょう。

・○をかくてアレイ図で取り組んだ。

・なかなか取り組めない子は、ブロックを使った。

・分配法則を活用して、九九の構成を応用した活動ができた。



＜お話見つけコース＞基礎・基本：乗法の意味の理解

T 問題を思い出しましょう。

T 九九を使って、 12×7 の答えの求め方を考えよう。

T $12 + 12 + 12 + \dots + 12$ は？

C かけ算を使っていないからだめです。

T 九九を使っていろいろ考えましょう。

C 12 を6と6

C 12 を7と5

T にているところは何ですか。

C 答えが同じ。

C かけ算九九を使っている。

C 12 を分けている。

T 15×8 もできそうですか。

C 15 を何かと何かに分ける。

T 分ければできそうですね。

- ・分配法則に気付けるようにして、考えてできた
- ・問題解決の学習がよく身に付いていた



オ 考察

- ・各自が、力試しの結果を基に自分のめあてをもってコースを選択し、取り組めた
- ・基礎・基本の確実な定着を図るために、重点化した内容が活かされていた。特に、九九を唱えるでは、半九九を基礎・基本としたことで、ほとんどの児童が九九を唱えられた
- ・問題解決の学習過程をよく理解し、自力解決や話し合いを行えた
- ・コース別学習を行うことで、補充的な学習での指導と発展的な学習での指導を効果的に行うことができた。児童の意欲の向上も図ることができた

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・算数科における問題解決の学習過程を児童が身に付きつつある
- ・自分にあったコースを選択できるようになりつつある
- ・自ら主体的に取り組もうとする児童が育っている
- ・研究仮説の焦点化が図られ、研究対象を明確にした研究が進んだ
- ・模擬授業の導入により、具体的に指導方法を検討できた
- ・研究通信の発行により、教員の意識を高め、共通理解を深めることができた
- ・研究の成果を生かし、日々の授業の中で、きめ細かな指導が展開されている

(2) 課題

- ・自分の考えをわかりやすく発表するなどの表現力を育成する
- ・算数研究の成果がいつでも誰でも使えるように、データベースを構築する
- ・重点化した基礎的・基本的な学習内容を年間の指導計画に明確に位置づけて実施する
 - ・一人一人の学びを大切にする観点からのノート指導の在り方を検討する

「学力の基礎基本となる力を身に付けるための指導法の研究」

—— 一人一人がわかる喜びを味わえる授業をめざして ——

川越市立寺尾小学校

研究のポイント

○個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫

- ・少人数指導における習熟度別学習の工夫
 - ・効果的なTTの在り方
 - ・努力を要する児童への支援のあり方
- （子どもの学習状況の把握）

○指導に生かす評価方法の工夫（コース選択用自己診断テスト・授業観察チェックリスト）

○教材・教具の開発（ワークシート・ヒントカード）

○学習の場の工夫（余裕教室の活用・朝の学習・算数コーナー）

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

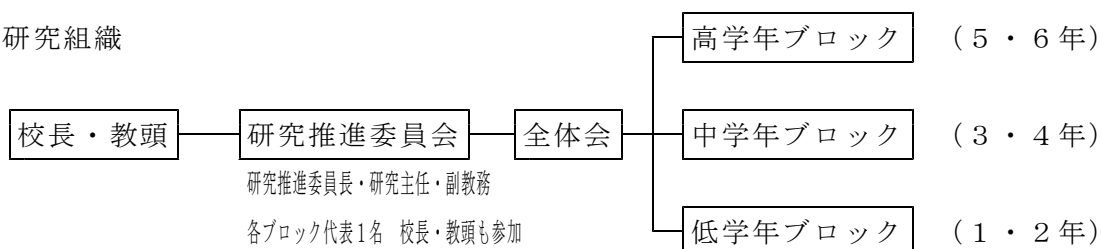
本校では、算数科を中心として、「学力の基礎基本となる力を身に付けるための指導法の研究」を実施する。そこでの教師の目指す授業は、児童の「一人一人がわかる喜びを味わえる授業」である。

(2) 研究主題設定の理由

平成10年12月に改訂された新しい学習指導要領の改善の基本方針の一つに、「ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること」がある。これは、新学習指導要領の改善の基本方針である「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」や「自ら学び、自ら考える力を育成すること」を実現するためには、その基盤として基礎・基本の確実な定着を図ることが不可欠と考えられるからである。

この方針に基づき、本校では、すべての子どもが共通に学習する内容を基礎的・基本的な内容に厳選し、一人一人に応じたきめ細かな指導を行うことが重要であると考えた。また、子ども一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす教育の一層の充実を図るため、子どもの興味・関心を生かし、主体的な学習の充実を図り、個に応じた指導の一層の工夫改善を図る必要があると考えた。そこで、「学力の基礎基本となる力を身に付けるための指導法の研究」をテーマとし、「一人一人がわかる喜びを味わえる授業を目指して」をサブテーマとして、本研究に取り組んだ。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究仮説

- ・基礎基本の定着を図る時間、場、方法を工夫すれば、知識・表現処理の力を獲得することができるであろう。
- ・問題提示を工夫し、解決過程での児童の活動を豊かにすれば、数学的な考え方が身に付くであろう。

(2) 研究経過の概要

6月19日（木）講演会 指導者 県教育局西部教育事務所主任指導主事 山川治美先生

8月20日（水）講演会 指導者 埼玉大学教育学部教授 町田彰一郎先生

10月 1日（水）授業研究会（3・4年生）

指導者 川越市立泉小学校教諭 横山敦子先生

12月 3日（水）授業研究会（5・6年）

指導者 川越市立古谷東小学校教諭 日出間均先生

1月20日（火）授業研究会（1・2年）

指導者 川越市教育委員会指導主事 小俣仁司先生

(3) 研究仮説立証のための授業を見る視点

- ① この単元の「基礎基本となる力」をどのように押さえているか。
- ② 問題提示の方法をどのように工夫しているか。
- ③ 基礎基本の定着を図る時間、場、方法をどのように工夫しているか。
- ④ 解決過程での児童の活動をどのように豊かにしているか。

(4) 授業観察チェックリスト

以下のようなチェックリストを研究授業の際に配布し、授業を客観的・分析的にとらえ、その後の研究協議を有意義なものとする。

- ① 発問や指示は適切であったか。

十分 普通 不十分
|-----|-----|-----|

- ② 教材教具の使い方は適切であったか。

十分 普通 不十分
|-----|-----|-----|

- ③ 助言や励ましの言葉は適切であったか。

十分 普通 不十分
|-----|-----|-----|

- ④ 自主、協力、解決学習（場の設定）は適切だったか。

十分 普通 不十分
|-----|-----|-----|

- ⑤ 本時の目標を達成することができたか。

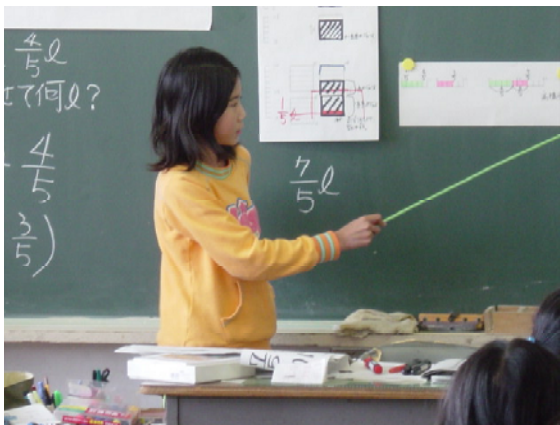
十分 普通 不十分
|-----|-----|-----|

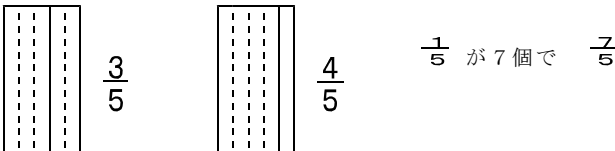
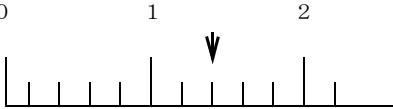
3 実践事例

(1) 効果的なT Tの在り方を求めて（5年生の実践）

① 単元名 分数をくわしく調べよう 本時（3／12）

② 展 開

	学習活動と予想される児童の反応	主な評価規準（※）と支援（○）及び学習形態
導入	1 問題を知る。 ジュースが、1つの入れ物に $\frac{3}{5}$ ℓ、もう1つの入れ物に $\frac{4}{5}$ ℓ入っています。合わせて何ℓありますか。 ・分かっていること、求めていることを考えノートに書く。 2 求める式を考える。 Aタイプ： $\frac{3}{5} + \frac{4}{5} = \frac{7}{5}$ Bタイプ： $\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ Cタイプ：分数も足し算できるか分からない。 3 学習の課題を考える。 $\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ の計算のしかたを考えよう	[学習形態：一斉指導] 仮説2 問題提示をするとき、 ア 分かっていること イ 求めること ウ 式と答え を書いて見通しを持つようにする。 T2 見通しのもてない児童への個別支援 ○支援の方法 Cタイプ： $\frac{3}{5}$ ℓを3ℓ $\frac{4}{5}$ ℓを4ℓと置き換える。 T2 見通しのもてない児童への個別支援（I男T男Y男M男）
自主学習	4 自力解決をする。 Aタイプ： $\frac{3}{5} + \frac{4}{5} = \frac{7}{5}$ Bタイプ： $\frac{3}{5} + \frac{4}{5} = \frac{7}{10}$ Cタイプ： $\frac{3}{5} + \frac{4}{5} = \frac{7}{5}$ 	[学習形態：T T指導] ○支援の方法 Aタイプ：なぜ分母を足さないか考えさせる。 Bタイプ：ヒントカードを使って考えさせる。 Cタイプ：目盛りのある入れ物を使って実際に操作する。 T1 見通しの立たない児童にヒントカードを渡し計算の仕方を考えるように支援する。 T2 さらに見通しの立たない児童を教室の後方に集めて、2つの1マスを用意し、実際に操作する。 ※☒ 分数の加法計算は、単位分数の何個分として考えている。 ※☒ 同分母の真分数の加法計算のしかたが分かる。 仮説2 田面積図、数直線等視覚で説明できるようにする。 [学習形態：一斉指導]
協	5 計算のしかたを発表する。 $\frac{3}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が3個、 $\frac{4}{5}$ は $\frac{1}{5}$ 4個、は $\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ が $\frac{1}{5}$ 7個で $\frac{7}{5}$ ・図を使う。	

力 学 習	 ・数直線を使う。 	T2は、発表児童の支援をする。 T1は、児童の説明後を要約し説明する。 [学習形態：T T指導] ※表同分母の真分数どうしの加法計算ができる。 T1とT2の個別指導 [学習形態：一斉指導] ※考分数の加法計算は、単位分数の何個分として考えている。 ※知同分母の真分数の加法計算のしかたが分かる。 仮説1 図とまとめの掲示を用意し、まとめる。 T1、T2は、児童の評価を発表する。
解 決 学 習	6 同分母分数の加法計算のしかたをまとめる。 ・共通していることを話し合う。 $\frac{1}{5}$ が何個分かを考えている。 $\frac{1}{5}$ をもとにして考えると $3 + 4$ になっている。 7 練習問題をする。 ※教科書P20の①の板書の練習問題をする。 8 分数の足し算のしかたをノートにまとめる。 ・分母が同じ分数の足し算では、分母はそのままにして、分子だけ足す。 ・教師の補足説明を聞く。 補足：答えが仮分数になった時は、帯分数になおすと大きさが分かりやすいことを話す。	[学習形態：一斉指導] ○分数の足し算が引き算になったのだから、同じように考えれば解決できそうだね。
終 末	9 次時の問題を知る。 ジュースが $\frac{7}{5}$ ℓ あります。 $\frac{4}{5}$ ℓ のむと、残りは何 ℓ になりますか。	

(2) 少人数指導における習熟度別学習の工夫（6年生の実践）

①単元名 比例 ②単元計画（8 時間扱い）

この単元では小学校における関数学習のまとめとして比例を取り扱い、その性質や特徴を明らかにしていった。また、単元のまとめとして習熟度別学習を行い、基礎基本の定着を図った。

小単元	時	目標	学習活動と学習形態・仮説に対する手立て	主な評価規準
比例	1	・比例の意味を理解する。 	・身の回りから、一方の量が変わるともう一方の量が変わるものをさがして、伴って変わる2つの量について調べる。 ・比例の意味を知る。 【少人数指導】 仮説1 ①時間、深さ、長さ、重さ、速さ、道のり、直径、円周、本数、量、個数、代金などの考える観点を知らせる。	表伴って変わる2量の関係を表を用いて調べることができる。 知比例の意味を理解している。

			仮説 2 ㊦実際の物を使って調べる活動を、できるだけ取り入れるようにする。	
	2	・ 比例の性質を理解する。	・ 入れ物に水を入れた時間と水の深さの変わり方を詳しく調べる。 ・ 水の深さを時間で割った商はどうなるかを調べる。 (比例の表を縦に見る) ・ 時間が $\frac{1}{2}$ 倍、$\frac{1}{3}$ 倍…になると、水の深さはどう変わるか調べる。 〔少人数指導〕 仮説 1 ㊦比例の性質をまとめやすいようにヒントカードを使う。 仮説 2 ㊦比例の表を縦に見たり、横に見たりするようアドバイスする。	考比例する 2 量の関係について多様な見方で調べている。 知比例の性質を理解している。
	3	・ 比例の関係に着目して	・ 水そうに 40 cm まで水を入れるのに何分かかかるか考える。	考比例の関係に着目して、
	4	・ 問題を解決することができる。	・ 比例の関係であることを確かめ、性質などを使って問題を解決する。 〔少人数指導〕 仮説 1 ㊦比例の性質を提示し、表に書きこむなどして利用しやすいようにする。 仮説 2 ㊦身の回りから比例する 2 つの量について調べる。	手際よく問題を解決できる。 表比例の関係を判定したりその性質を用いたりして問題を解決することができる。
	5	・ 比例のグラフの特徴を	・ 水の深さが水の量に比例する関係をグラフに表して、その特徴を調べる。	表比例の関係をグラフに表
	6	・ 自分の学習内容の習熟度を知る。	・ 比例のグラフは、直線となり、原点を通ることをまとめる。 〔少人数指導〕 仮説 1 ㊦横軸と縦軸の延長線上の交点がグラフになることを具体的に示す。 仮説 2 ㊦複数の問題をこなすことで、グラフの線を類推することができるようにする。	して考察することができる。 知比例のグラフは原点を通る直線になることを理解している。
まとめ	7 本 時 8	・ 自己診断テストに基づいて 3 つのコースのいずれかを選択して学習する。	・ チャレンジコース ・ 比例の判定コース ・ 比例の性質コース の 3 コースのうち、自分にあったコースを選択して取り組む。 〔習熟度別学習〕 ・ チャレンジコース 仮説 1 ㊦比例の性質に着目するよう、伴って変わる 2	表比例の関係を判定することができ、グラフに表すことができる。 考比例の関係に着目して、手際よく問題を解決できる。

	つの量を例示する。 仮説2 ㊦実際に秤やものさし、紙を使って調べるようにする。 ・ 比例の判定コース 仮説1 ㊦表を縦に見たり横に見たりするようにアドバイスする。 仮説2 ㊦実際に子どもの前に表を示して問いかける。 ・ 比例の性質コース 仮説1 ㊦表とグラフを使った解決方法を1時間ずつ取り組む。 仮説2 ㊦実際に棒を使い、正三角形を作りながら考えるようにする。
---	---

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ・ 子ども一人一人のそれぞれの状況に応じて、よりきめ細かく指導・助言できるようになり、子どもたちにより高い学力を保障することができた。
- ・ その子どもにあった学習のめあてを設定し、教材の提示、学習の方法、助言の仕方を個別に考え、個に応じることができた。
- ・ ①協力し合って、指導計画を立案する。②立案した指導計画を実行するために必要な教材・教具を協力して探し求めたり、自作したりする。③立案した指導計画に沿って、協力し合って一緒に指導する。④指導したことについて、共に反省し、評価する。といった一連のTTが実施できた。

(2) 今後の課題

- ・ TTや少人数指導における習熟度別学習といった形式にとらわれるのではなく、そこにいる子どもにどのような支援や学習活動が必要なのかを、学年や少人数指導加配教員を加えたチームで検討し実現するにはどうすればよいか。
- ・ 少人数指導を実施する際に向けた余裕教室の教室環境整備と継続的な活用を図る仕組みはどうあればよいか。
- ・ 少人数指導の集団を常に柔軟で弾力的な構成にするには、コース選択用自己診断テストをどのように作成し、活用していったらよいか。
- ・ 自分の学力の向上に関心が集中しがちな少人数指導において、コミュニケーションを深めながらみんなで学んだり行動したりする力や態度を十分に育てるにはどうすればよいか。
- ・ 学習効果を定性的に把握した後、ペーパーテスト調査などによって定量的な評価を併せて実施するには、指導計画をどのように改良していけばよいか。
- ・ 一人一人の子どもの評価情報を教師間でどのように交換し合い、次の指導に活用したらよいか。また、どのように子どもや保護者に伝達するか。
- ・ 発展的な学習材を日常の授業に無理なく作成していくには、どうすればよいか。

「『わかった！』喜びと学びがいのある算数学習」

—— 少人数指導による指導法の工夫・改善を通して ——

川越市立霞ヶ関南小学校

研究のポイント

- 個に応じた指導の充実のための少人数指導の工夫
 - ・コース別学習（習熟度別，興味・関心別），T Tによる指導
- 全学年での問題解決学習の推進
- 少人数指導を取り入れた指導計画・評価計画の作成
- 児童の実態や興味・関心に応じた教材開発
- 算数学習室や各教室の算数コーナー等の環境整備

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

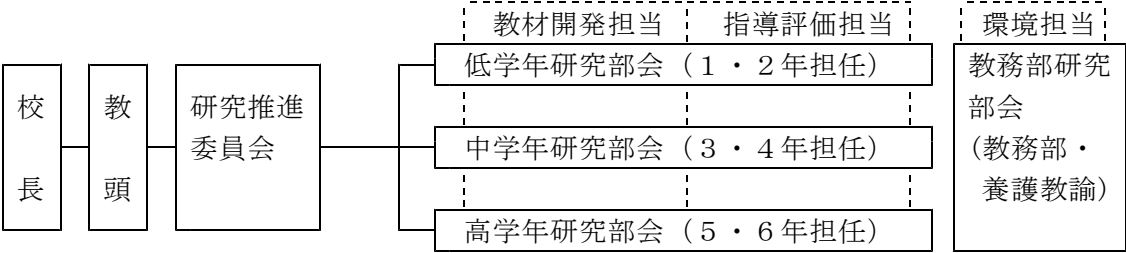
- ① コース別学習やT Tによる指導などの少人数指導を算数科の授業に積極的に取り入れることで，個に応じた指導の一層の充実を図り，児童一人一人に学ぶ喜びを味わわせる。
- ② 問題解決学習を全学年で実施し，生涯学習の基礎となる自力解決の力の育成を図る。
- ③ コース別学習などの少人数指導を取り入れた指導計画・評価計画の作成や教材の開発を行い，それらを整理蓄積することで，次年度以降にも役立つ研究とする。
- ④ 算数学習室や各教室の算数コーナーの掲示などを工夫し，児童が自主的に学習できる環境を整備する。

(2) 研究主題設定理由

- ① 学校教育目標から
本校の教育目標「【生きる力】を身に付けた児童の育成」の具現化に向けて，基礎・基本の確実な定着と，自ら考え自ら学ぶ「生きる力」の育成が求められている。
- ② 児童の実態から
本校の児童の実態として，計算はできるが意味が分かっていない児童が多いとか，基礎・基本の定着が不十分な児童も各学級にいる等という問題点があげられていた。これらに対応するためには，習熟度別少人数指導などの個に応じた指導の一層の充実が求められている。
- ③ 今日の社会的課題から
新学習指導要領の全面実施に伴う完全週5日制の実施や学習内容3割削減等により，「学力低下」の問題が大きな社会的注目を浴びている。児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるためには，従来の一斉指導の中心の授業から個に応じたきめ細かな支援による授業への授業観の転換が求められている。そのために少人数指導の充実や習熟度別学習の積極的導入が国や県の教育施策の大きな柱となってきた。

以上のことから，上記の研究主題・副主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 全体構想

日本国憲法 教育基本法
学校教育法
学習指導要領
埼玉県の重点・努力点
川越市の重点施策

「生きる力」を身に付けた児童の育成

児童の実態
保護者の願い
地域の実態
教師の願い

学校教育目標

げん気 やる気 思いやり

目指す児童像

明るくたくましい子
進んで取り組む子（行き甲斐、居甲斐、やり甲斐）
心優しい子

研究主題

「わかった！」喜びと学びがいのある算数学習

～少人数指導による指導法の工夫・改善を通して～

研究の仮説

1 年目の重点

①問題解決学習を授業の中心とし、自力解決・練り上げの時間を大切にすれば、よく構造化された知識・技能が身に付き、基礎・基本の確実な定着に有効にはたらくであろう。[1C2T + 2C3T / 問題解決→理解]

②少人数指導において、きめ細かな指導と支援を行えば、児童の理解のレベルを深めさせ、一人一人を伸ばすことができるであろう。[1C2T / 理解→わかる喜び]

③少人数指導の中で、児童の学習状況によって異なる学習内容を設定し、根拠をもって自己選択できるようにすれば、喜んで算数の学習に取り組めるであろう。
[2C3T / 自己選択→理解→わかる喜び]

④コース別学習を効果的・継続的に行えば、自分に合った学習を見つける機会が増え、児童の自己評価能力、自己選択能力が高まり、学ぶ意義や価値を感じながら日々の算数学習に取り組むことができるであろう。[2C3T / （自己評価→自己選択→理解わかる喜び）×回数⇒学びがいの]

2 年目の重点

仮説に対する方策（各学年）

算数科において目指す児童の姿

- 基礎・基本がわかる
- 既習と結びつけて解決し、なぜそうなるか、この後どうなりそうかわかる（関係的理解）
- 算数の学習に意義を見出し、自分に合った学習の場や内容を自らの力で的確に選べる（自己決定能力）

「基礎・基本がわかる」

「関係的にわかる」

「自分で選択できる」

低学年研究部会（１・２年）	中学年研究部会（３・４年）	高学年研究部会（５・６年）
①-ア 問題の工夫をし、「よい問題」づくりを行う。 ①-イ 計画を立てるときに、既習のどの内容を使ったかを記入させる。 ①-ウ 意図的指名を行う。 ①-エ 算数コーナーに話し合いの手順を掲示する。 ①-オ 学習のまとめを子どものことばでまとめる。 ①-カ ふり返りの時間を確保し、ふり返りカードに記入させる。 ①-キ 算数コーナーにこれまでの学習の流れを系統的に図示しておく。 ②-ア 自力解決につまずく児童へ具体物や半具体物などを用いて、計画的に支援を行う。 ②-イ 発表の仕方の具体的な例を示す。（T2の師範） ②-ウ 練り上げの型*（並列型・序列型・統合型）に基づいて、練り上げの構想を立てておく。（T1T2） ③-ア 自力解決の場面で作戦コーナーを自ら進んで活用できるようにする。	①-ア 問題の工夫をし、「よい問題」づくりを行う。 ①-イ 計画を立てるときに、既習のどの内容を使ったかを記入させる。 ①-ウ かけ算中心・比例的な見方による指導の一貫性をもたせる。（中学年から問題解決に数直線を活用させる。） ①-エ 意図的指名を行う。 ①-オ 話し合いを活性化し、深めるために、小集団での話し合いを取り入れる。 ①-カ 学習のまとめを子どものことばでまとめる。 ①-キ ふり返りの時間を確保し、ふり返りカードに記入させる。 ①-ク 算数コーナーにこれまでの学習の流れを系統的に図示しておく。 ②-ア 自力解決につまずく児童へT2が計画的に支援を行う。 ②-イ 練り上げの型*（並列型・序列型・統合型）に基づいて、練り上げの構想を立てておく。（T1T2） ②-ウ 発表の仕方の具体的な例を示す。（T2の師範） ③-ア 学習の理解度の差が大きくなったところでコース別学習を行う。 ③-イ コース別学習の前にはふり返りチェックテストを行い、自己評価能力を身につけ、コースガイダンスを聞き自己決定できる力を高める。 ④-ア コース別学習後には学習アンケートを行い、児童の満足度をチェックする。（不満だった児童に理由を聞き、差別意識等マイナス面が生まれることを防ぐ。）	①-ア 問題の工夫をし、「よい問題」づくりを行う。 ①-イ 計画を立てるときに、既習のどの内容を使ったかを記入させる。 ①-ウ いつでも使えるように、数直線対応図の利用の仕方を身につけさせる。 ①-エ 算数コーナーを充実させ、使えそうな既習事項は添付しておく ①-オ 意図的指名を行う。 ①-カ 話し合いを活性化し、深めるために、小集団での話し合いを取り入れる。 ①-キ 学習のまとめを子どものことばでまとめる。 ①-ク 本時に学習した内容がどのように活用できそうかを記入させる。（算数の学習の中で・生活の中で） ①-ケ 算数通り（仮称）にこれまでの学習の流れを系統的に図示しておく。 ②-ア レディネステストを実施し、T2の役割を明らかにする。 ②-イ 教室内でミニ教室を開き、自力解決に躓く児童を支援する。 ②-ウ 座席表等を活用して理解度を把握し、自力解決のための支援を行う。 ②-エ 練り上げの型*（並列型・序列型・統合型）に基づいて、練り上げの構想を立てておく。（T1T2） ③-ア 単元に応じて適切なタイミングを考えてコース別学習を行う。 ③-イ コース別学習の前にはふり返りチェックテストを行い、自己評価能力を身につけ、コースガイダンスを聞き自己決定できる力を高める。 ④-ア コース別学習後には学習アンケートを行い、児童の満足度をみる。不満だった児童に理由を聞き、差別意識等マイナス面が生まれることを防ぐ。 ④-イ 自己評価が適切に行われたか、教師からの助言を与える。

*1 川越市立中央小学校（1997）. 考える楽しさを味わえる子供たちの育成を目指して. 研究紀要 p.26.

(2) 専門部・各担当の取組

① 低学年研究部

- ア 算数学習の入門期
- イ 自力解決を通して自分の考えを組み立てる
- ウ 自分の考えた思考過程を表現する

② 中学年研究部

- ア 低学年で学んだことをもとに、新しい内容を自力で解決する
- イ かけ算を中心に指導に一貫性をもたせ、児童が考えを構成しやすいようにする
- ウ コース別学習の入門期（自らに合った学習を選択できるようにする）

③ 高学年研究部

- ア 既習をもとに自ら問題を解決できるようにする
- イ 数直線を積極的に活用させ、考えを構成しやすいようにする
- ウ コース別学習によって、自分に合った学習を自己選択できるようにする

(2) 各担当の取組

① 教材開発担当

- ア 操作活動を進める
- イ 自力解決に合う「よい問題」を開発する
- ウ 操作、図、式を結びつける
- エ 補充問題のねらいを明確にする（基礎・基本、意味理解、習熟問題）
- オ 発展問題のねらいを明確にする（理解深化、楽しさ、問題解決能力）
- カ 数学史を教材化し、文化としての算数・数学を学ぶ機会を設ける
- サ 教材リストの作成、ファイリングをする

② 指導・評価担当

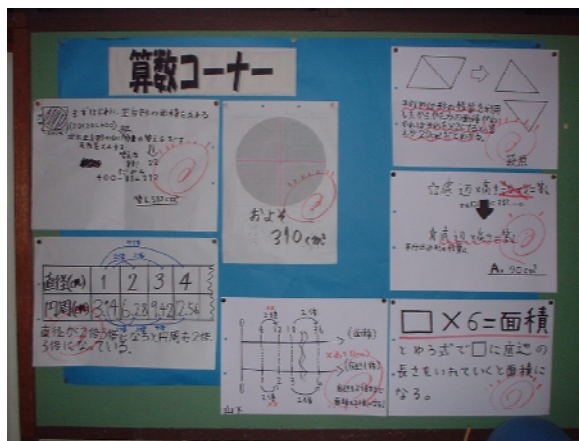
- ア 基本的な授業スタイルを統一する（問題の理解、計画、実行、検討、ふり回り）
- イ 少人数指導の工夫・改善を行う
- ウ 基本的な単元の流れを定める（1C2T → 2C3T）
- エ 現在の指導計画に修正を加えて、新しい年間指導計画を作成する
- オ 評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る

③ 環境担当

- ア 各学級の学習環境を整える
- イ 算数学習室の教室環境を整える
- ウ 算数科のイメージキャラクターを活用する
- オ 授業研究会の協議を深める工夫を行う



算数学習室



算数コーナーの掲示

3 実践事例

(1) 単元名 わり算の筆算 (4年生)

(2) 単元の目標

○筆算形式による2～3位数を2位数でわる除法計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。

- ・除数が2位数の除法計算のしかたを、既習の除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。(関心・意欲・態度)
- ・見積りをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考える。(数学的な考え方)
- ・除数が2位数の除法計算を筆算で正確にできる。(表現・処理)
- ・除数が何十の除法計算のしかたを理解する。(知識・理解)
- ・除数が2位数の除法の筆算のしかたを理解する。

(3) 基礎・基本のとらえ方

かけ算についての理解をもとに、わり算の筆算の意味を理解し、筆算の技能を身に付ける。その際に、わり算のきまりを使って、見積もりをはたらかせるようにする。

(4) コース別学習の時数

- ・15時間中の9時間

(5) 各コースのねらい(理解度によるコース別学習)

○じっくりコース：見積りをはたらかせるために、見積り学習シートを活用して基本的な計算技能を身に付ける。筆算の意味理解とともに計算の習熟の時間を十分に確保する。

○ばっちりコース：わり算の筆算をかけ算と結び付けて考えたり、ブロック筆算からより洗練された省略筆算にする場合の着目点などを話し合う。筆算を行う桁数についても目を向けさせ、桁数が増えた計算ができる喜びを味わわせる。

○ぐんぐんコース：わり算の筆算の基本的な技能は速く学習して、その後に発展的な問題に取り組む。算数を学ぶ楽しさや問題解決の能力を十分に伸ばせるようにする。

(6) 学習感想

① じっくりコース

- ・ながかったのわからないものもたくさんあったけど、先生におしえてもらってわかりやすくできてよかった。
- ・はじめはわからなかったけど先生のアドバイスでよくできた。
- ・じっくりやって楽しくできた。じっくりコースだとじっくりできて楽しかった。最後のビンゴゲームが楽しかった。初めての長いコース別学習だったけど自分でえらんだからあきなかった。

② ばっちりコース

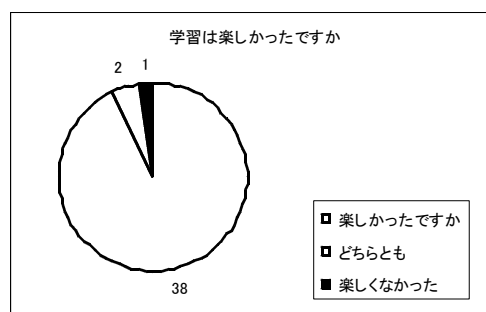
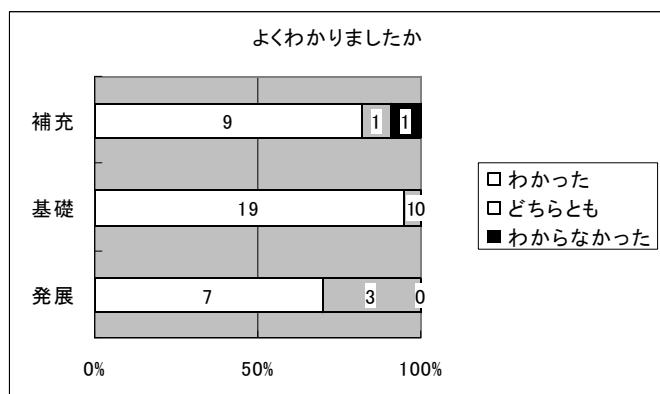
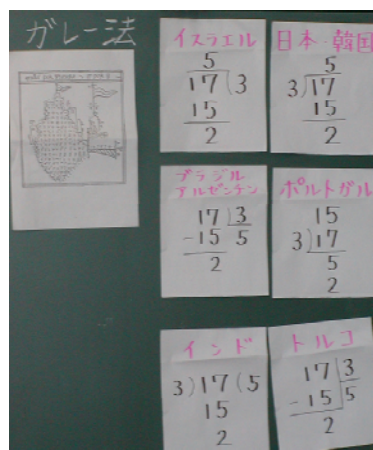
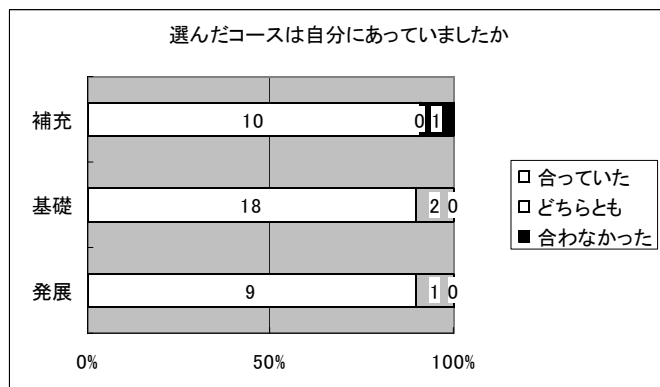
- ・筆算をべんきょうしてたのしかった。わり算の筆算は、2けたとか3けたとかもできることがわかった。
- ・自分でえらんでいっぱいできたからたのしかった。わり算がりがいできた。かけ算でもできた。
- ・よくわかりやすくて、自分のためになったし、たのしいコースでした。このコースをまんてよかったとおもいます。
- ・よくかんがえたらできてとてもかんがえるのがすきになりました。

③ ぐんぐんコース

- ・いろいろな計算がおもしろかった。ガレー法がおもしろかった。文章問題がむずかしかった。いろいろやって楽しかった。
- ・けた数の多い計算はむずかしかった。でもこの勉強をやってよかったと思いました。

ガレー法は楽しかった。

- ・ガレー法が 1 番楽しかったような気がした。でもぐんぐんは、名前のとおりぐんぐんでぐんぐん楽しかった。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ①どの学年でも問題解決学習が浸透し、児童の自力解決の力、問題解決能力が向上した。
- ②「よく構造化された知識の獲得」を校内で目指し、児童に身に付けさせたい力を共通理解できた。
- ③認知面について、算数の学習について「わかった」「わかっている」と感じる児童の数が増えた。
- ④情意面について、「算数嫌い」の児童が減少した。
- ⑤各コースの学習内容について教材開発の第一歩が始められた。
- ⑥指導計画および評価計画が作成できた。

(2) 課題

- ①学年での話し合い、教材研究が中心となり、研究部会（ブロック）に広げていくことができなかった。
- ②理解の遅れがちな児童への教材開発がまだ十分とはいかなかった。
- ③他校との交流および情報交換が不十分であった。
- ④指導計画を本校の実態に合うようによりよく改善する必要がある。
- ⑤学力が向上していることを示す方法についても探っていく必要がある。

「自ら学び考え、主体的に取り組む生徒の育成」

—— 生徒一人一人の意欲を引き出す指導の研究を通して ——

川越市立東中学校

研究のポイント

- 生徒の主体的な学習活動を充実するための学習法や個に応じた指導の充実を図る指導法の研究を、それぞれの授業実践を通して研究する。
- 学習規律や基本的な生活習慣の定着を図る手立て、安全・安心・快適な環境づくり、生徒の主体的な活動を生かした環境づくり等について研究し、具体的に活動する。
- 生徒と教師、生徒相互の好ましい人間関係づくり、生徒理解に基づく具体的な対応策、ボランティア活動等の研究、実践を通して信頼される指導体制の確立を図る。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

生徒指導上の課題解決のために全校を挙げて努力している日々の実践を、より組織的に、より系統的に研究し実践することにより、学校教育目標「自ら学び考え、主体的に行動する心豊かな生徒」の実現を目指す。

(2) 研究主題設定理由

① 学校教育目標から

学校教育目標「自ら学び考え、主体的に行動する心豊かな生徒」の具現化に向け、すべての教育活動において、生徒一人一人の意欲を引き出す指導の研究・実践が必要であるとの考えから設定した。

② 今日的な課題から

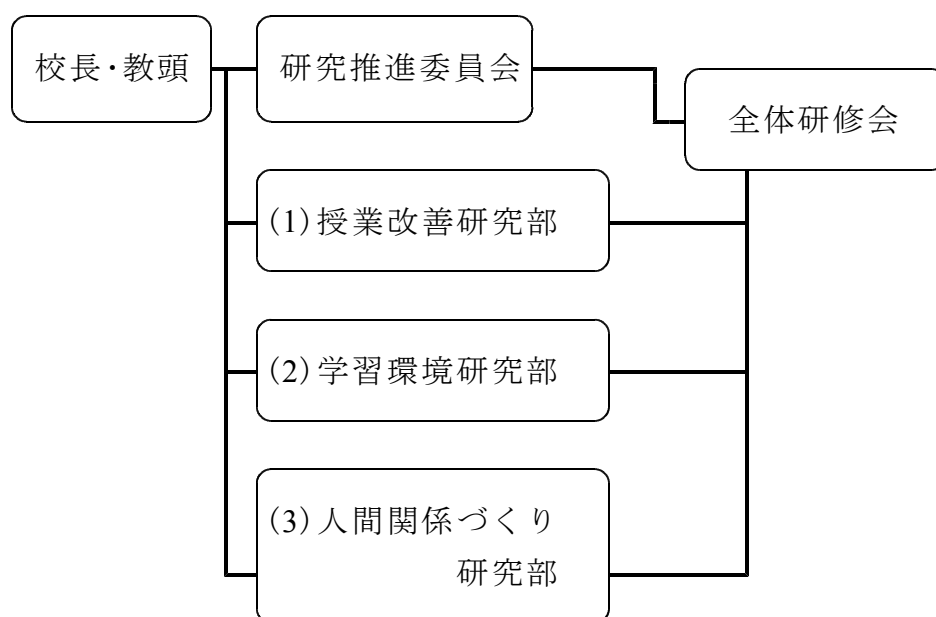
基礎・基本の確実な定着と自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成が求められている。そのためには個に応じた指導の一層の充実を目指すとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れたり地域の教育力を活用したりなどして、生徒一人一人の意欲を引き出すとともに、学ぶことの楽しさや分かる喜びが得られるような指導が求められている。

③ 地域及び生徒の実態から

- ア 本校のある古谷地区は、PTA 活動や青少年健全育成地区会議等の活動が活発である。保護者、生徒、地域団体協力しての除草作業や地区会議主催の中学校区内の小学校と連携した青少年非行防止対策講演会の実施等を通して学校教育をしっかりと支えていただいている。
- イ 本校の生徒は、素直で素朴な生徒が多く、あいさつもしっかりできる。しかしながらここ数年、学習への意欲が持てず問題行動を持つ生徒集団への対応や改善に苦慮しているところである。
- ウ 生徒の自己評価によると、授業への取り組みは80%以上の生徒が悪くないと答えている。また70%の生徒が授業は分かったと答えている。しかし教師からの見方とは多少の隔たりがある。授業規律や基本的な生活習慣の定着を含め、生徒が意欲的に学習や

学校生活に取り組めるよう、組織的系統的に研究・実践・努力を継続していく必要がある。

(3) 研究組織



※研究推進委員会（研究推進委員長、各研究部会長で構成、校長、教頭参加）

※全体研修会

○各研究部の研究内容の共通理解・実践化をはかる）

○各研究部の研究を支えるための全体研修

2 研究の内容

(1) 授業改善研究部

① 研究仮説

生徒の思いや願いを生かし、個に応じた指導の充実を図る学習指導を進め、生徒一人一人が内発的な学習意欲を高め、自ら気づき、考え、深めていくような学習が展開できれば、学習への意欲や態度を高めることができる。

② 研究の視点

生徒の主体的な学習活動を充実するための問題解決的な学習や体験的な学習、個に応じた指導の充実を図る少人数指導や習熟度別指導の指導計画や評価計画の見直し等、それぞれについて授業実践を通して研究する。

③ 授業改善のための方策

ア 教師の授業改善の視点にたった生徒へのアンケート（授業評価）を作成し、実施する。

イ 各教科にて、各研究テーマにそった検証授業を実施する。

ウ 数学科以外に英語科においても全学年少人数指導を開始し、併せて習熟度別指導へ移行する。

エ 体験的な学習や問題解決的な学習をより積極的に取入れた学習内容の工夫を行う。

(2) 学習環境研究部

① 研究仮説

授業規律や学習環境を整え、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、生徒の主

体的な活動を生かした取組をさらに進めることで、学習や学校生活全般で意欲的な取組が期待できる。

② 研究の視点

ア 学習環境の改善という側面から、「主体的に取り組む生徒の育成」を図る。

イ 「主体的に取り組む生徒」とは、意欲的に、何事にも自分自身の問題として学校生活に取り組み、自己実現を図ることができる生徒である。

ウ 「主体的に取り組む生徒」の育成のために

(ア) 生徒が意欲を持って自ら学び、活動できる学習規律や基本的な生活習慣の確立

(イ) 生徒が安心して生活できる学習環境の整備

(ウ) 生徒が所属感や自己の存在感を実感できる集団づくり

(エ) 生徒が達成感や満足感を味わえる授業や諸活動の充実

(オ) 生徒の自治的な能力の育成

を推進する。

エ 「学習環境」を単なる施設・設備面の環境整備にとらえず、行事や特別活動等の面まで含めて大きくとらえる。

オ 改善に必要なことは、やれることから、すぐに実行する。

③ 活動内容

東中の学習環境の現状を分析し、課題を把握する。何ができて何ができないかを実態調査する。→ 課題の把握 → 具体的な解決策の検討と実行を行う。

(3) 人間関係づくり研究部

① 研究の仮説

生徒・教師、生徒間等でのよりよい人間関係づくりを図る研究、取組を進めれば、生徒が自己を生かし自ら判断し、目標を定め、その実現に努める態度や能力が図れる。

② 研究の視点

子どもたちの社会性については、人間関係をつくる力の弱さ、基本的な倫理観や規範意識の不足などが指摘されている。小中学校の児童生徒の問題行動の要因の一つとして、これらの社会性の不足があげられる。そこで本校の生徒の社会性の実態を踏まえ、生徒と教師、生徒相互の好ましい人間関係づくりや生徒理解に基づく具体的な対応策、さらにボランティア活動への取組等への研究や実践を通して信頼される指導体制の確立をめざす。

③ 研究（活動）内容

ア 教師へのカウンセリングの手法や生徒指導に関する研修を実施する。

イ ピース・メソッドに基づく社会性チェックリストを活用した調査を行い本校生徒の社会性を構成する9つの要因ごとの状況を把握する。

ウ 生徒指導上の諸問題に対応するため、ピース・メソッドの5段階

(ア) Preparation（実態把握） (イ) Educaion（教師間での共通理解）

(ウ) Action Plan 具体策の検討、活動案作成） (エ) Behavior（行動）

(オ) Evaluation（評価）を通じての手法を使って改善への取り組みを行う。

※ピース・メソッドについては、埼玉県立総合教育センターの研究報告書 第275号「児童生徒の社会性に関する調査研究」を参照ください。

3 研究の実践

(1) 授業改善研究部

① 英語科における習熟度別少人数指導の導入（2 学年 5 クラスの例）

ア 1 学期における少人数指導の実施形態

2－1・3、2－4・5 の 2 クラスを 3 つのグループ、2－2 を 2 グループに分けて、英語科教員 3 人が担当し、少人数指導を開始する。

イ 2 学期の習熟度別少人数指導の実施

(ア) グループ分けは、生徒の希望調査を基に発展チャレンジコース（1 グループ）、基礎じっくりコース（2 グループ）に分ける。単独クラスは、発展と基礎の 2 グループに編成して実施する。

(イ) 3 学期は、2 学期における授業への取組と成果を考えさせ、変更希望のみを調査し、発展コースと基礎コースの再編成を行った。

(ウ) 担当教師は 3 学期に入れ替わった。教師 3 人で学年全体を指導しているという意識をもって指導を行うため。

ウ 3 学年 5 クラスも同様な形態で 2 学期から習熟度別少人数指導を実施した。

オ 1 学年は、学力の差がつきだす 3 学期から習熟度別指導を導入した。

② 授業研究会の実施

ア 各教科において校内での授業研究会を実施した。互いに研究テーマに迫る授業展開を工夫し参観し合い、協議を深め自己の授業改善を図った。その場合、自己の授業評価のアンケート結果を参考にする。

イ 各教科以外に道德の時間の指導に重点を当て指導者を招聘しての研修を深めた。さらに川越市教育研究会道德部会主催の市内小・中学校道德授業研修会の本校での実施に際しては、本校職員全員で参加し、よい研修の機会となった。

(2) 学習環境研究部

① 学習環境に関する実態調査

及び生徒の学習規律・基本的な生活習慣に関する実態調査の実施

《調査用紙の一例》

生徒の学習規律・基本的な生活習慣に関する実態調査

場面	No.	調 査 項 目	評 価
朝 の 会	1	登校時間を守り、遅刻をしない	4・3・2・1
	2	登校時は制服を着用している。	4・3・2・1
	3	朝の会が始まるときは、席について教師を待つことができる	4・3・2・1
	4	朝の会では、静かに連絡や教師の話を聞くことができる。	4・3・2・1
	5	授業の始まりのチャイムが鳴ったら席に着くことができる。	4・3・2・1
授 業 中	6	授業の開始と終了の挨拶が良くできる。	4・3・2・1
	7	意欲を持って授業に取り組むことができる。	4・3・2・1
	8	私語や出歩きがなく落ち着いた環境で学習活動に取り組むことができる。	4・3・2・1

※その他、給食、昼休み、清掃、帰りの会、部活動、下校、生活全般に分けた 4 6 項目を 4 段階にて評価。

②調査結果、分析から実行へ

ア 学習環境に関する実態調査から

(ア) 校内環境の改善・整備

校舎内、教室、廊下、トイレ等の改善すべき箇所の洗い出し、修理改善の具体的手だての提言を行い、改善の具体策を決定、実行。→業者依頼、日時を明確にした職員による改善作業、委員会を利用した修繕を行った。

(イ) 生徒の主体的な活動を増やす工夫と手だての考察、及びその実行

委員会活動の具体的活動が増えた。活動のための時間の確保や活動の徹底を図るため、年度途中ではあったが月1回の専門委員会の日には部活動を中止とした。

イ 生徒の学習環境・基本的な生活習慣に関する実態調査結果より

2・1が多かった項目	ポイント	2・1は多くないが気になる項目	ポイント
○登校時間の制服着用	2. 6 2	○校舎内外の適切な過ごし方	3・1 6
○チャイム着席	2. 9 6	○帰りの会後の窓の鍵締め	2・7 7
○移動教室	2. 6 1	○部活動の終了時間を守る	3・0 4
○教室内のゴミ・ロッカーの整頓	2. 5	○登下校の交通ルールを守る	2・8 6
○私物の整理	2. 6 6	○自分たちで次の行動ができる	2・8 4
○給食の着席（授業終了10分）	2. 5 2	※ポイントは4段階評価	
○予鈴で教室へ（第5校時）	2. 7 3		
○下校時間	2. 9 2		
○自転車通学者の交通ルール等	2. 2 6		

各学年ごと、学校全体での取り組みが必要なもの、さらに重点課題を決定し、できるものから実行に移した。

(ア) チャイムを鳴らす時間を生徒の生活の現状から再検討した。その結果として生徒への意識付けのため、過渡的な対応としてチャイムを増やした。

(イ) 下校時間の徹底のため、職員による下校指導を開始した。

(ウ) 朝の正門、裏門での登校指導週間を設定し実施。制服登校、自転車通学者への指導等も含め積極的な挨拶運動を行う等、できることからすぐに実施に移した。

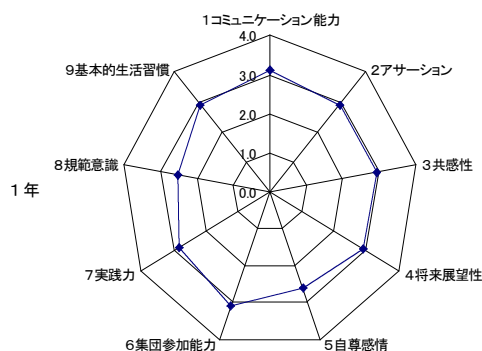
(3) 人間関係づくり研究部会

① ピースメソッドのチェックリストによる本校生徒の社会性調査結果

社会性要因／学年	1 年	2 年	3 年	平均
1 コミュニケーション能力	3.1	3.2	3.2	3.17
2 アサーション	2.9	3.2	3.0	3.03
3 共感性	2.9	3.0	2.9	2.93
4 将来展望性	2.9	2.9	2.8	2.87
5 自尊感情	2.6	2.5	2.6	2.57
6 集団参加能力	3.1	3.2	3.1	3.13
7 実践力	2.8	2.9	2.8	2.83
8 規範意識	2.5	2.3	2.6	2.47
9 基本的な生活習慣	2.9	2.9	3.0	2.93
平均	2.86	2.90	2.89	2.88

※平均ポイントは
4段階評価した
ものの平均です。

例：1年生の社会性要因ごとの結果のグラフ表示例



ア 調査結果から、本校の生徒の社会性については特に5の「自尊感情」と8の「規範意識」の要因が低いという結果が分かる。

イ この傾向は、本校だけの傾向ではなく、他校の調査結果を見ると、多かれ少なかれ現在の小・中学校の児童・生徒全般に見られる傾向のようである。

② 人間関係づくりそのものの視点から

の取組

ア 教育相談部会の定例化及び教育相談週間の実施の重要性

イ カウンセリング研修の推進

ウ 学区の小学校との連携した取組、たとえば地域と連携した挨拶運動の実施、学区内小学校との合同研修会の実施、生徒への3校協力した対応の推進

エ 人間関係づくりの視点からの問題行動生徒への指導、対応のための校内巡視の実施

③ 社会性調査結果による実態把握から共通理解、具体策策定、さらに行動へ

本調査結果から、特に規範意識を高め、自尊意識を高める方策の行動計画を検討中である。今できることとしては、生徒が自ら取り組める活動、たとえば委員会の積極的な展開、本結果を念頭に入れた道徳の時間での指導等、すぐできることから始めている。

4 研究の成果と課題

(1) 成 果

- ① 生徒一人一人の意欲を引き出す指導法への視点を大切にする授業展開に努力するようになり、数学科での少人数指導に加えて、英語科でも実施し、習熟度別指導への移行まで行うことができた。
- ② 総合的な学習の時間の充実も含め、体験的な学習や問題解決的な学習の充実を図る授業実践への工夫が進んだ。年度末の生徒へのアンケート（学校評価の一環として実施）により、授業に楽しく取り組めたという項目に8割の生徒が肯定的な回答をしている。
- ③ 学習環境整備への具体的な行動計画が実行され、改善を図ることができた。また物的環境だけでなく、生徒の自主的な活動の充実のための環境整備への工夫も具体的に進めることができた。やれることは些細なことでもすぐ実行という意識が浸透した。
- ④ 生徒や学校の実態調査やアンケートにより具体的に実態を把握し、その上で共通理解の基に組織的に対応する方策が定着し、生徒指導上の問題が大きく改善してきた。

(2) 課 題

- ① 少人数指導、習熟度別少人数指導での指導も含め、個に応じた指導法及び評価方法などの研究をさらに進める必要がある。
- ② 学習環境の整備においては、職員作業では対応できないものが多い。さらに生徒の主体的な活動の充実への方策をより具体的なものとしていく必要がある。
- ③ 生徒と教師、生徒間における人間関係づくりの充実を図るため、社会性調査や学校評価（本年度は保護者による学校評価、生徒による学校評価も実施）を基に具体的な方策を計画し実施していく必要がある。

「小・中連携による生徒指導の在り方」

－彩の国スクーリング・ジョイント事業の実践・不登校生徒数0を目指して－

川越市立大東中学校

研究のポイント

不登校児童生徒への支援・指導を検討し推進することで、不登校はもとより他の教育活動を再検討し、充実を図る。

- 1 児童生徒の状況を的確に把握し、発達段階を考慮した指導を行う。
- 2 関係小・中学校における交流事業の実践を通して、温かな人間関係を育成する。
- 3 生徒理解を図り、学校全体で不登校問題等に対する効果的な支援・指導を目指す。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 埼玉県教育委員会委嘱研究スクーリング・ジョイントモデル校として、関係小・中学校が連携した生徒指導の充実を図り、小・中学校が一体となって不登校児童生徒の解消を目指す。
- ② 関係小学校との連携を図り、児童生徒の成長を見通した交流事業を展開することにより、温かい雰囲気のもとに学校生活をおくる生徒の育成を目指す。

(2) 研究主題設定理由

① 学校教育目標から

「心豊かで、お互いを認め合い協力する生徒」の育成を目指し、教育活動の充実を図るとともに、授業実践や体験活動を通して、思いやりの心、自制心、正義感、協調性等を育て、人間性豊かな生徒の育成を図る。

② 本校の今日的課題から

本校では、生徒一人一人のよりよい発達を目指し、確かな学力の定着と豊かな心の育成に向けた教育活動に取り組んでいる。しかしながら、時代の進展や近郊の宅地化、商業化等に伴い、いじめや不登校、暴力行為等の問題が少なからず起こっている。

また、「基本的な生活習慣が確立していない」、「社会性や自立性が不足している」、「人間関係がうまくつくれずにいる」等の生徒も相当数みられる。

さらに、都市化に伴い、個人重視の考え方が強くなる中で、地域との関わりや子どもとの関わりが少ない家庭がある。さらに、家庭との連携を図る中で教育力や親子関係の重要性に焦点化されるケースがある。

そこで、児童生徒の社会的自立を視野に入れ、小・中学校が情報を共有化し、連携し、取り組むことで、不登校問題を中心に諸問題の解決を図っていく。

③ 不登校問題の改善に関する視点

ア 小学校から中学校へのスムーズな移行や適応を支援することが必要である。

イ 人とのふれあいやコミュニケーション能力の育成が必要である。

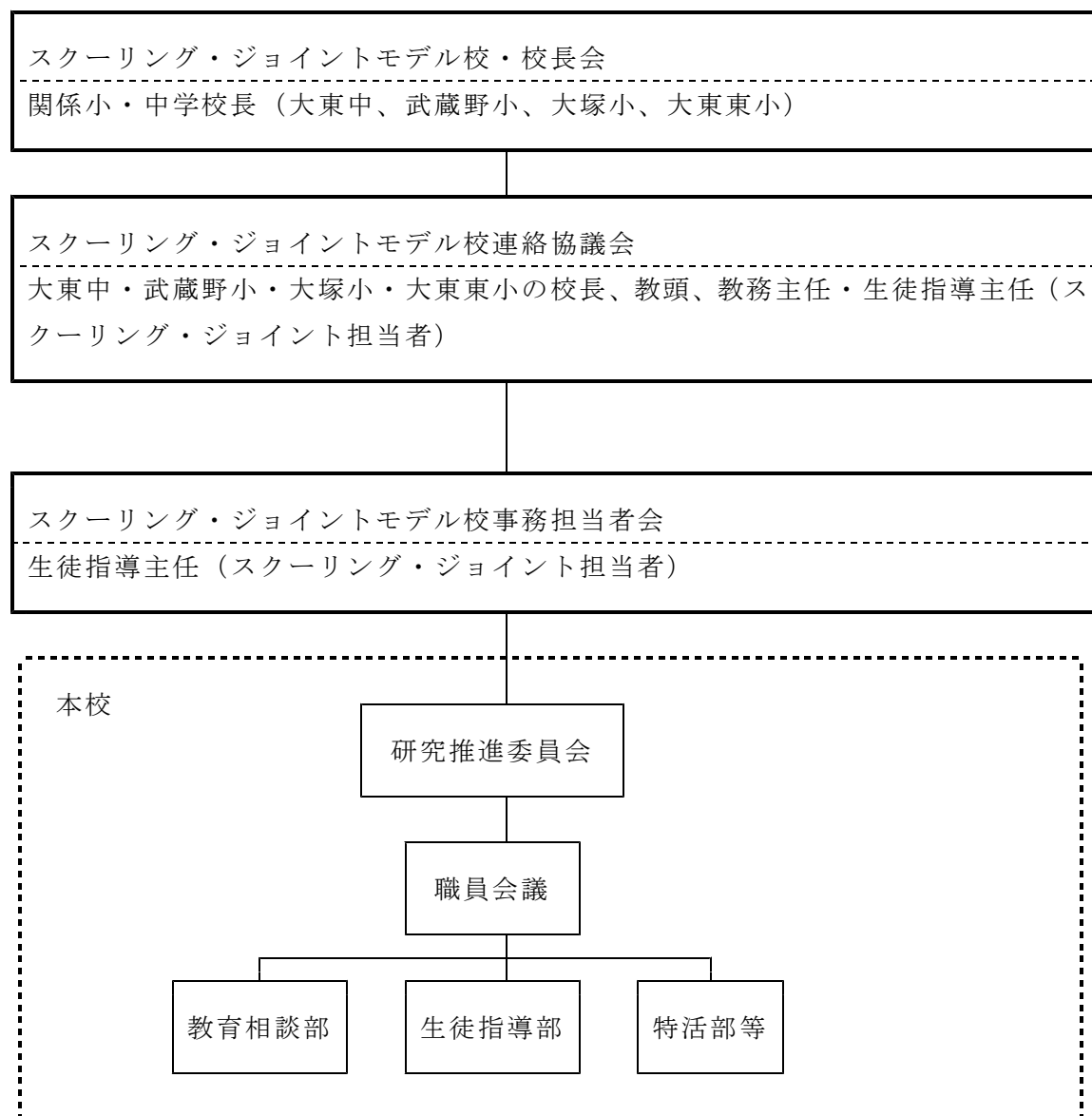
ウ 基本的な生活習慣の育成が必要である。

エ 子どもの個々の状況を見極めて、きめ細かい配慮が必要である。

オ 確かな子ども理解に基づいた時期や状況に応じた登校への啓発活動が必要である。

カ 子どもの変化や成長に応じた親や教職員の関わり方が必要である。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 小・中学校連携した指導体制の確立

① スクーリング・ジョイントモデル校・校長会

連携・協力体制の推進、指導方針の確立

② スクーリング・ジョイントモデル校連絡協議会

不登校等諸問題の分析、改善策の検討・推進

③ スクーリング・ジョイントモデル校事務担当者会

不登校等諸問題の調査・分析・検討、具体的な支援や活動の計画・推進

(2) 小・中学校の連携

① 小・中学校間での情報収集と早期対応

② 児童・生徒間及び小・中学校教員間の交流、

- ③ 小学校6年生卒業期及び新中学校1年生の交流と教員の対応
- (3) 小中学校合同研修会の実施
- ① 専門家の指導のもと、研修を通じ、小・中学校職員の共通理解・指導力の向上
- (4) 校内でのおもな取組
- ① 少人数による校内事例研修会の実施
- ア スクールカウンセラー助言・指導のもと、事例検討を通じた指導力の向上
- ② アンケート、諸検査の実施

3 実践事例

(1) 基本的な考え方＜不登校を未然防止のための取組＞

中学校における不登校は、「中学校に原因があるもの」「小学校から不登校相当が継続しているもの」「小学校時代のある時期に不登校状況を示しこれが中学校であらわれたもの」等がある。また、小学校時代の不登校経験者が中学進学時に学校に戻る意欲をもっている場合がある。そこで、本校では入学以前から不登校傾向を示す児童に対し対応をはじめていくことで解決を図っていく。

(2) 情報の収集と早期対応

① 小学校からの確実な情報把握

- ア 4～6年生時の欠席状況等についての情報把握・・・資料 別表1・2・3参照
- イ スクーリング・ジョイントモデル校事務担当者会における分析・検討
- ウ 本校入学児童についての把握・・・1月（資料をもとに分析）
- エ 本校入学児童への説明・・・2月（新入生保護者会、6年生説明会）
- オ 本校入学児童についての支援の検討・・・3月（小学校教員を交えて）

資料1 別表1

別表2

生徒氏名		生年月日		住所		学年										
保護者名		住所		川崎市		学年										
小学校		電話														
1 出席状況																
平成 30 年度	年度	授業日数	4月	5月	6月	7月	1学期	9月	10月	11月	12月	2学期	1月	2月	3月	3学期
出席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出席等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成 31 年度	年度	授業日数	4月	5月	6月	7月	1学期	9月	10月	11月	12月	2学期	1月	2月	3月	3学期
出席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出席等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成 32 年度	年度	授業日数	4月	5月	6月	7月	1学期	9月	10月	11月	12月	2学期	1月	2月	3月	3学期
出席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出席等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成 33 年度	年度	授業日数	4月	5月	6月	7月	1学期	9月	10月	11月	12月	2学期	1月	2月	3月	3学期
出席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出席等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成 34 年度	年度	授業日数	4月	5月	6月	7月	1学期	9月	10月	11月	12月	2学期	1月	2月	3月	3学期
出席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出席等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 不登校の状況等																
3 家庭環境等																
4 指導の経過等																

基本的な生活習慣レベル（発達段階）					
No.	月 日	自由（1）	自制（2）	自律（3）	年 組 氏名
目標	集団とのかかわり を待つ	個人として健康で 安定的な生活を営 む	集団としての環境 を高め生活の一環 の向上を図る	学級や集団で互い に高め合う	自分の進路を実現 する
A	①所感とあいさつ ができる。	①担任や身近な人 と挨拶ができる。	①近隣の方や友人 と挨拶ができる。	①学級等関わり のある人と挨拶を 交わすことができ る。	①誰に対しても心 地よい挨拶ができ る。
B	②挨拶ができな い。	②声をかけられる と挨拶をする。	②挨拶をすること ができる。	②相手の立場を考 えた挨拶ができ る。	②何となく考えた 挨拶ができる。
C	③気ままな時間 に起る。	③起こされ起床す る。	③自分で毎朝起床 する。	③起床ができる。	③起床ができる。
D	④自分の思いのま まにしている。	④時間になるが声 をかけられるまで 気ままにしている。	④時間になり公園 があると行動す る。	④時間前に行動す る。	④時間前に行動す る。
E	⑤時間を気にしな い。	⑤きまりなので時 間を守る。	⑤人に迷惑がか かるので時間を守 る。	⑤自らの意識 で時間を守る。	⑤社会的な規律に 則り、スケジュー ルを決め意図的に 進めることができ る。
F	⑥片付けをしな い。	⑥汚らわしいと きれいにする。	⑥可観がいやがる のできれいにす る。	⑥自分の役割を果 たし、きれいに保 つ。	⑥家族の一員とし ての役割を果た し、きれいに保つ。
G	⑦きれいにしよ うとしない。 ・無からすことし かできない。	⑦怒られるのでき れいにする。 ・声をかけられ しよなら清潔 ができる。	⑦人に迷惑がか かるのできれいに する。	⑦自らの意思で清 掃を行う。	⑦ボランティア活 動に積極的に参加 する。

別表 3

不登校状況について

NO.		月 日		年 組 氏名		
サイン期		進行期 (1)	停滞期 (2)	回復前期 (3)	回復中期 (4)	回復後期 (5)
登校への意欲	①毎月1～2日休む。 ・遅刻早退がある。	①学校へ行くことを拒否する。	①そのうち学校へ行くというが今は行く気にならない。 ・家を出ようとしな	①学校へ行くというが今は行かない。 ・専門機関なら行くことができる。	①教室以外の確保された場所なら登校できる。 ・放課後なら教室に行ける。	①学校へほぼ毎日登校をする。 ・限られた授業に参加することができる。 ・行事を見学できる。
	②無気力になる。 ③用がないのに教師のそばにいる。	②学校の話題を聞くと暴れる。 ③配布物等を拒否する。 ・学校の物に触れない。	②学校の話題にはのってこない。 ③配布物等を拒否はしない。	②学校のことを話題にできる。 ③配布物等に関心がある。	②学校で給食を食べられる。 ③配布物等の読みやプリントの書き込み等を等をする。	②友人と給食を食べられる。 ③家庭学習など自分から関心を持ち取り組もうとする。
生活習慣	①朝起きるのを渋る。	①昼夜逆転している。 ・朝起きない。 ・深夜までおきている。	①夜更かしが続く。 ・朝起きるときもある。	①夜早く寝るときもある。 ・朝起きようと努力する。	①自ら夜早く寝るようになる。 ・自ら朝起きることができる。	①規則正しい生活が確保されている。
	②食事や給食がとれなくなる。 ③友達と遊ばなくなる。	②家族との食事を拒否する。 ③外出しない。	②家族と食事をするときもある。 ③時たま家族となら出かける。 ・遠方なら出かける。	②家族と食事ができる。 ③誘われると友人と外出する。	②手伝いをし家族と食事ができる。 ③学校へ行く準備をする。	②規則正しく食事ができる。 ③友人と共同の作業ができる。
人間関係	④みんなと同じようにしない。 ・行動が遅くなる。	④パジャマのまま1日を過ごす。		④趣味や関心のあること好きなことは行う。	④計画をして生活をしようとする。	④ある程度計画的に生活ができる。
	①口数が少なくなる。	①担任を拒否する。	①担任と会うのをいやがる。	①担任と会うことができる。	①担任等と学校の話ができる。	①学校での出来事を家で話すことができる。
	②一人でいることが多くなる。	②家族と話をしてない。	②学校以外の好きな話なら家族とする。	②担任と学校以外の話ならできる。	②校内でクラスの仲間と話することができる。	②親しい友達と行動できる。
	③目をそらす。	③友人と会わない。	③クラスの仲間と会うのをいやがる。	③クラスの仲間と会うことができる。	③家族に自分の本心話すことができる。	③家に帰ってからでも友人と活動できる。
	④いろいろ考えすぎる。	④来客をいやがる。	④来客とは顔を合わせることができる。	④家族と話ができる。	④電話に出ることができる。	④家族と何でも話ができる。
	⑤対人関係がつかれない。 ・視点が定まらない。	⑤電話・メールを拒否する。	⑤電話・メールが気にかからない。	⑤友達とメールを行う。	⑤友達と会うことができる。	
感情	①考え込んでいる。 ・表情が暗い。	①ふさぎ込んでいる。 ・笑うことがない。	①時々ふさぎ込んでいる。 ・時々笑っている。	①表情が穏やかになる。 ・自然に笑顔が出るようになる。	①表情が穏やかである。 ・声をあげて笑うことができる。	①表情に余裕があり、親しい友人に自分を表現できる。
	②言葉が乱暴になる。 ・すぐカットなる。 ・乱暴な行動が増える。	②気に入らないと暴れる。 ・暴言を吐く。 ・壁などをはたく。 ・弱い者にあたる。	②気に入らないことがあると文句を言う。 ・時度イライラすると大声を出す。	②怒りの感情を抑えられるようになる。 ・喜怒哀楽の表情が出る。	②気に入らないことがあってもイライラするようなことがなくなる。 ③将来のことを語るようになる。	②落ち着いた生活がおくれる。 ③将来のことを真剣に考える。
身体状況	①頭痛・腹痛・発熱 ・下痢等の訴えがある。 ・おどおどしがちである。	①だるい。 ②眠れない。 ③腹痛等が起こる。 ④緊張がほぐれない。 ⑤目がうつろである。 ⑥目を合わせない。	①どこことなくすっきりしない。 ②食欲がないわけではなく不定期にべる。 ③やりたくないことがあると腹痛が起こる。 ④人を見ると堅くなる。 ⑤視線をそらす。	①睡眠時間がとれる。 ②食事を家族とする。 ③腹痛の起こる回数が少なくなる。 ④緊張することが少なくなる。 ⑤目を見て話せるようになる。	①日常生活に支障がなくなる。 ②腹痛など体調不良が起こらなくなる。 ③対人で緊張することがほとんどなくなる。	①変わらぬ日常生活を送っている。 ②身体的な不調を訴えない。 ③緊張感が消える。

② 中学校における早期の対応

- ア 不登校児童の分類・・不登校の「経験あり」「経験なし」等の分類・分析
- イ 学級編成における配慮や学年・学級担任における配慮
- ウ 春季休業中における取組
- エ 2日目作戦の実施・・欠席の理由如何によらず家庭訪問

(3) 交流事業の実践

① 小・中学校教員等の交流

- ア 4校合同研修会の実施（6月、8月、3月）
- イ 公開授業の実施（毎月1回）
- ウ 小中連絡会の開催（2月、3月、6月）
- エ スクールカウンセラー、さわやか相談員の派遣と相談

② 児童・生徒の交流

- ア 部活動交流会（7月）
- イ 小・中学校ジョイント音楽祭（10月）
- ウ 中学校紹介（7月、2月）
- エ ふれあいコンサート（11月）

③ 生徒と地域の交流

- ア 社会体験の実施（職場見学・職場実習、11月・1月）
- イ 地域清掃の実施（年3回）
- ウ 地域資源回収への参加（年3回）
- エ 募金活動の実施（ユニセフ募金・街頭募金活動等）

④ 学校と家庭（地域）との交流

- ア 学校だよりによる中学校生活の紹介
- イ 新入生保護者会における「学校だよりに見る中学校生活」の配布
- ウ 学校公開、授業公開の実施
- エ 園児との交流

<部活動交流会>



<小・中学校ジョイント音楽祭>



(4) 人間関係に配慮した教育活動の実施

① 人間関係づくりの活動を取り入れた実践

- ア 構成的グループエンカウターの研修と実施
- イ 班編制における配慮

4 研究の成果と課題

(1) 成 果

- ① 中学校で実施された学校公開や交流（部活動、合唱コンクール等）を通して、小学校の保護者に地域にある中学校に対する理解が図れ、中学進学に対する不安を少なくすることに効果的であった。
- ② 子ども同士の交流行事の実践を通して、温かな人間関係を育成できた。
- ③ 児童生徒の問題が明らかになり、小学校からの発達段階や個に応じた一貫した指導を行えるようになった。
- ④ 校内研修・ケース研修会などを通して、生徒理解が図られ、学校全体で効果的な援助が実践できた。
- ⑤ 校内指導体制の中で、生徒の状況把握が容易になり指導・援助にあたれた。
- ⑥ 小・中学校の連携から発展し、保護者や地域との連携、協力について職員の関心が高まった。
- ⑦ 小学校に中学校の情報を提供することにより、小学校の教職員が中学校の生徒指導に一層の関心をもち、中学校を意識した指導が行われるようになった。

(2) 課 題

- ① 小学校からの生徒理解、人間関係づくり、生活への適応等、より発展した学校間・保護者・地域の連携が必要である。
- ② 教師の会話能力の向上（アサーショントレーニング等）が必要である。
- ③ 小・中学校の関係をより深めるためには、事業を推進する組織の維持・充実が必要である。
- ④ 小学校及び中学校の教職員が、お互いの実態・実践（生徒指導など）をより一層公開したり、体験したりすることで他の校種の特色を理解することが必要である。

＜おもな小・中ジョイント事業実践日程＞

4 月	スクーリング・ジョイントモデル校・校長会（以後適時実施）
5 月	スクーリング・ジョイントモデル校連絡協議会（以後毎学期実施） スクーリング・ジョイントモデル校事務担当者会（以後毎週金曜日実施）
6 月	小・中学校合同研修会（以後8月、3月）、地域資源回収（以後学期1回参加）
7 月	部活動交流会
10 月	小・中学校ジョイント音楽祭
11 月	ふれあいコンサート
2 月	本校入学予定の6年生への説明会

「基礎・基本の定着と学習意欲の向上を目指す学習指導」

川越市立霞ヶ関西中学校

研究のポイント

- 全教科で評価規準表を見直し、基礎・基本を4観点に基づいて再確認する。
- 全教科で授業研究会を実施し、学習指導における基礎・基本の手立てを講じる。
- AAI、アンケート等から生徒の実態把握を行い、実態をふまえた指導を行う。
- 標準学力検査のテスト結果を分析し、自校での指導の手立てを講じる。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 各教科において、生徒に身に付けさせたい基礎・基本を明確にするとともに、それを身に付けさせるための指導法（支援や評価）を明らかにする。
- ② 生徒の実態把握に基づいた学習指導を通して、基礎・基本の定着と学習意欲の向上を目指す。

(2) 研究主題設定の理由

① 学校教育目標具現化の視点から

学校教育目標「思いやりのある生徒、自ら学ぶ生徒、心身ともに健康な生徒」の具現化に向け、知徳体の調和のとれた生徒の育成を目指すとともに、「落ち着いた学校・きれいな学校・元気な学校」の実践を教職員が生徒と一体になって推進している。

そのあるべき学校の姿を目指すため、学習指導では基礎・基本の定着に重点を置き、その指導方法を明らかにしていく。

② 今日的な課題から

学校では、完全学校週5日制の下、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育むことが求められている。特に「生きる力」を「知」の側面からとらえた「確かな学力」については、変化の激しいこれからの社会を担う子どもたちが、新しい時代を主体的、創造的に生きていくために必要不可欠のものである。学校においては授業改善を進め、きめ細かな指導等により、基礎・基本の確実な定着や自ら学び自ら考える力の育成を図ることが求められている。

そのため、本校の生徒の実態を的確に把握するとともに、各教科ごとに授業改善を図りその指導方法を明らかにしていく。

③ 地域および生徒の実態から

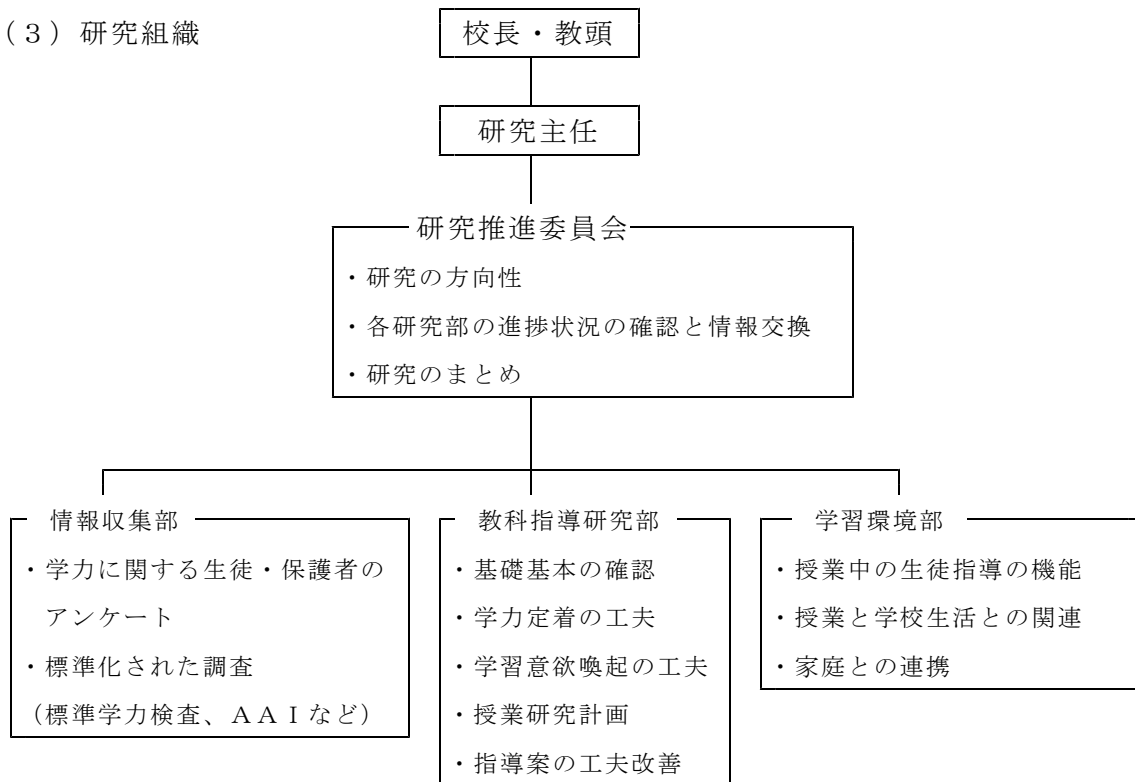
保護者アンケート（平成 15.2.14 実施）では、学校が生徒に特に身に付けさせてほしい力の上位3つが、「学力」（54%）「道徳性」（41%）「自主性・協力性」（38%）であり、「学力向上」を保護者が強く要望していることがわかる。

また、生徒アンケート（平成 15.2.14 実施）では、「授業がよく分かった」が全校生徒平均70%であるのに対して、標準学力検査（平成 15.6.1 実施）の結果では、偏差値平

均が50を上回っている学年が第1学年のみである。さらに、各教科別、各学年別の結果を見ると全国通過率に比べてかなり低い単元が見られる。

これらのことから、学力向上の手立てを学校研究の中で明らかにしていくことが今後の学習指導の中で大いに役立つと考えられる。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 目指す生徒像

(学校教育目標、指導の重点から)

- ・責任を果たし、思いやりのある生徒
- ・自ら学び、正しい判断力をもつ生徒
- ・基本的生活習慣を身に付けることができる生徒

} → 自ら学び自ら考える生徒

(2) 研究仮説と指導の手だて

1 各教科において、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領における目標・内容をもとに、学習目標及び4観点の評価規準を明確にすれば、身に付けさせる「基礎・基本」がとらえられるであろう。

○1時間、1単元の学習目標が「基礎・基本」であり、4観点(①関心・意欲・態度②見方・考え方③技能・表現④知識・理解)も「基礎・基本」ととらえる。

○「基礎・基本」は、単元全体を通して定着が図られるものである。そのため、単元の評価規準、単元の具体的評価規準を明確にし、それに基づいて指導と評価を実施する。

○1時間あるいは1単元を通して、「基礎・基本」を意識して学習指導にあたるとともに、生徒にも意識させ、活用できるように指導する。

2 基礎的・基本的な学習内容を精選し、指導方法を工夫すれば、「基礎・基本」を定着させることができるであろう。

- 観察・実験、調査・研究、発表・討論などの体験的な学習、問題解決的な学習により思考力、判断力、表現力などの「基礎・基本」を育成する。
- 理解や習熟の程度に応じた指導、個別指導や繰り返し指導により、個に応じたきめ細かな授業を実践し、「基礎・基本」の定着を図る。
- 「自己評価カード」等により、自己の成長を見いだす工夫をする。
- 個別学習、グループ学習などの学習形態などを取り入れたり、特別教室（図書室、コンピュータ室等）の活用も図る。

3 学習規律を身に付け、学習環境を整えていくことが学習意欲の向上につながるであろう。

- 掲示教育を充実させるなど、教室整備を進める。
- 始業、終業、あいさつ、発表の仕方等を確認し、全校的に実施する。
- 学級活動を充実させる。（自主的な学級活動の運営、自己存在感のある学級）

3 実践事例

（１）各研究部の取組

① 教科研究部 平成15年度に実践した授業研究会のまとめ

ア 研究テーマとの関連

基礎基本の考え方

- ・基礎とはそこが定着していないとその次の段階にすすめないもの。
- ・基本とはある学習内容を理解するための原理である。
- ・学校教育目標をもとに、基礎基本のビジョンを指導者がもつ。

方向性 指導要領の内容に基づき、3ヶ年を見通した学習内容であること。

その他 授業の約束事を徹底し、規律、あいさつから始め学習の流れを身に付けさせること。また、学習環境を整えること。

イ 「授業展開」における手だて

《指導案》 研究の意図が明確にできる指導案を。

- ・研究テーマ 生徒の実態、教師の願いなどから「目指す生徒像」をはっきりさせ、仮説をたて、それを達成させるため、授業の中での具体策を考える。
- ・本時の学習の評価場面 〈具体的な評価規準〉と〈手だて〉とし、その単位時間で扱う基礎基本の定着を目指すものとする。

《授業の展開》

- ・どんな力を育てたいのか、どんな授業をしたいのかを明確にする。
- ・学ぶ意欲をどのように起こさせるか。（生徒の視線が教師に向いている授業）
- ・学習形態（柱になる発問・課題設定と提示の仕方）の工夫。
- ・生徒が自分で学習していけるような課題の設定も。
- ・单元ごとに評価規準を明確にかつ具体的に。
- ・A評価に近づくための手だてを考えた実践。

以上のような点について指導者よりご指導をいただき、これらの点を中心に今後、授業研究に取り組んでいきたい。

② 情報収集部

ア 標準学力検査の各学年、各教科(5科 但し1学年においては英語含まず)における偏差値平均および大領域別の通過率をまとめ、一覧として提示。本校における全体的な傾向を把握するための資料として、全職員で検討の材料とした。

イ 1学期6月中旬、全学年対象に AAI(学習適応性検査)を実施。本校生徒の学習への意欲・態度等の傾向把握に役立てるためのものである。また、学習習慣・家庭学習の概要を、検査の結果から分析し、生徒へむけての新たな本校独自のアンケート項目作成へとつなげた。実際のアンケートの取組は3学期になる予定である。その後再度の分析を経て、職員全体、各教科担当への投げかけとしたい。

いずれにしろ、本校生徒の学習習慣の実態から、のぞましい学習法はどうあるべきか、それを受けての教師側の指導法改善をいかにするかへの検討につなげたいと考える。

アンケート項目(例)

	質 問	A	B	C	D
1	チャイム着席はできている				
2	学習用具の忘れ物をしないで授業に臨んでいる				
3	授業開始・終了時にしっかりあいさつができています				
5	クラスで建設的な発言がしやすい雰囲気を感じる				
6	授業の中で大切なポイントがわかる				

③ 学習環境部

AAI(学習適応性検査)の学習環境に関する項目の結果(下記に一部例)をもとに、各学年の状況についてより生徒の生活に即したアンケート項目を作成した。情報収集部のアンケート結果(上記例)から特に指導を必要とする内容について、学級活動等の時間を使って、生徒への指導の徹底を図っていく。

(AAIのアンケート例と結果)

○家で勉強するとき、まわりがうるさいと、いらいらして勉強をやめてしまいますか。

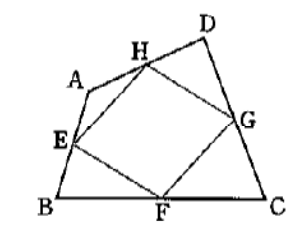
ア	たいていやめる	イ	ときどきやめる	ウ	やめない
1年	24%	1年	45%	1年	31%
2年	36%	2年	37%	2年	22%
3年	24%	3年	44%	3年	31%

○学校にでかけるとき、忘れ物をしないように、自分でよく確かめますか。

ア	いつも確かめる	イ	確かめないこともある	ウ	確かめないことが多い
1年	44%	1年	45%	1年	12%
2年	35%	2年	38%	2年	27%
3年	34%	3年	41%	3年	24%

(2) 授業での取組

各教科で授業研究会を開催し、*評価のあり方と支援の手立てを指導案に取り入れることにした。これを日々の授業に生かすようにした。

学習活動	学習内容・予想される反応	指導・援助と評価の創意工夫
— 課題 — 四角形 $ABCD$ の辺 AB, BC, CD, DA の中点をそれぞれ E, F, G, H とするとき、四角形 $EFGH$ は平行四辺形になります。このことを証明しなさい。 1 手だてを考え、見通しをつける。 2 証明する。 ① $\triangle ABD$ について ② $\triangle CDB$ について ③ ①, ②から	《補助発問》 ア 中点を結んでいる→何という定理が使えるか。 イ 中点連結定理はどんな図形に適用されるか。 ウ そのためにはどのような補助線が必要か。  四角形 $ABCD$ の対角線 BD をひくと、$\triangle ABD$ において、中点連結定理より $EH \parallel BD$, $EH = \frac{1}{2} BD$ $\triangle CDB$ において、同様に $FG \parallel BD$, $FG = \frac{1}{2} BD$ したがって $EH \parallel FG$, $EH = FG$ 1組の対辺が平行でその長さが等しいから、四角形 $EFGH$ は平行四辺形である。	— 評価場面 1 — 〈具体の評価規準〉 イの② 見方や考え方 〈*評価方法〉 - 発表内容や机間指導→見通しを持って根拠だてて考えているか。 〈*手だて〉 - 補助発問により、必要なことがらを想起させる。 — 評価場面 2 — 〈具体の評価規準〉 イの② 見方や考え方 〈*評価方法〉 発表内容や机間指導→論理立てて、証明することができるか。証明の筋道が分かっているか。 〈*手だて〉 - 証明を①②③の3段階に分け、場面ごとに確認していく。 - 色チョークを用い、証明の中の式と図との関連を図る。

(3) 標準学力検査の結果を生かす取組

標準学力検査 5 教科の結果を各学年ごとに分析し、全国と比べて通過率の低い単元を中心に手立てを講じた。

第 3 学年数学（内容第 2 学年）

全体の傾向

大領域では、全国値より「1. 数と式」が上回っているが、「2. 図形」と、「3. 数量関係」については全国値より下回っている。特に、「3. 数量関係」は大きく下回っている。このことから、本校の第 3 学年の生徒は、計算を得意としているが、関数や確率を苦手とする傾向が見られる。

① 大領域の分析

大領域別集計（通過率％） 偏差値平均49.2				
内 容	川越	全国	自校	全国比
1. 数と式	54.0	50.5	52.5	104
2. 図形	66.5	68.2	66.8	98
3. 数量関係	34.1	33.7	28.6	85

中領域別集計（通過率％）				
内 容	川越	全国	自校	全国比
1－1 文字式の計算と利用	54.7	52.9	52.8	100
1－2（連立）二元一次方程式	51.1	46.3	51.4	111
2－3 平面図形、平行線、角の性質	72.7	74.8	71.3	95
2－4 図形の性質、三角形の合同、証明	63.1	65.9	64.4	98
3－5 一次関数	39.0	39.2	32.4	83
3－6 場合の数、確率	20.1	22.4	17.6	79

偏差値平均は 49.2 で、全国とほぼ同じ水準である。

② 中領域の分析

中領域で全国と比較してみると、「1-2（連立）二元一次方程式」が 5.1 ポイント上回っている他は、「1-1 文字式の計算と利用」がほぼ同じで、残り 4 つの中領域すべてが全国を下回っている。特に「3-5 一次関数」は 6.8 ポイント、「3-6 場合の数、確率」は 4.8 ポイント下回っている。

③ 課題解決の視点・指導の手立て

「一次関数」については、具体的な事象の中からともなって変わる 2 つの量を見い出させ「～は…の関数である」ことの意味をまず捉えさせたい。その上で、…………

4 研究の成果と課題

- (1) 成果……すべての教員がいずれかの研究部会に所属し共に研究に携わるとともに、新たに作成した評価規準とテーマに基づく視点で、授業研究を実施した。教員が一つの目標に向かって研究を進められたことが大きな成果である。
- (2) 課題……各研究部が行った調査やまとめが生徒の指導にまで十分に生かされていないところがあり、授業についても各教科ごとに任せられている部分が多い。今後は、指導と評価の一体化を目指して、生徒の変容を検証していくことが課題である。